

文 書 解 題

- 古 文 書 編 -

平成19年11月

京都府立総合資料館

目 次

「あ」から始まる文書

藍商社文書(あいしょうしゃもんじょ).....	12
明石博高文書(あかしひろあきらもんじょ)	12
安達家文書(あだちけもんじょ).....	12
穴川村小沢家文書(あながわむらおざわけも んじょ).....	12
新井家文書(あらいけもんじょ).....	12
安祥校記録(あんしょうこうきろく).....	12

「い」から始まる文書

飯島氏旧蔵京都関係文書(いいじましきゅ うぞうきょうとかんけいもんじょ).....	13
池沢喜兵衛家文書(いけざわきへえけもん じょ).....	13
石垣町大和屋文書(いしがきちょうやまと やもんじょ).....	13
石田家文書(いしだけもんじょ).....	13
維新前旧藩奉行所代官管轄(いしんぜんき ゅうはんぶぎょうしょだいかんかんかつ)	13
板原家文書(いたはらけもんじょ).....	13
市川家文書(いちかわけもんじょ).....	14
鴨脚家文書(いちょうけもんじょ).....	14
井筒屋忠兵衛家文書(いづつやちゅうべえ けもんじょ).....	14
伊藤家文書(いとうけもんじょ).....	15
伊藤博文書状(いとうひろぶみしよじょう)	15
稻荷地口銭関係文書(いなりじぐちせんか んけいもんじょ).....	15
今小路行康書状(いまこうじゆきやすしよ じょう).....	15
井山家文書(いやまけもんじょ).....	15

石井家文書(いわいけもんじょ).....	15
井脇村文書(いわきむらもんじょ).....	15

岩倉家日記(いわくらけにつき).....	15
岩倉具視書状(いわくらともみしよじょう)	16
石清水八幡宮領美豆村駕輿丁座文書(いわ しみずはちまんぐうりょうみずむらかよち ょうざもんじょ).....	16

岩本村文書(いわもとむらもんじょ).....	16
岩森家文書(いわもりけもんじょ).....	16

「う」から始まる文書

上田家文書(うえだけもんじょ).....	16
上田艶家文書(うえだつやけもんじょ).....	17
梅津村文書(うめづむらもんじょ).....	17
雲上分限帳(うんじょうぶんげんちょう).....	17

「え」から始まる文書

絵図資料(えずしりょう).....	17
江津村文書(えつつむらもんじょ).....	18
海老屋町文書(えびやちょうもんじょ).....	18

「お」から始まる文書

及川家文書(おいかわけもんじょ).....	18
王代年代記(おうだいねんだいき).....	18
近江屋吉左衛門家文書(おうみやきちざえ もんけもんじょ).....	18
大池表葎島一件(おおいけおもてよしじま いっけん).....	18
大江家文書(おおえけもんじょ).....	18
大國家文書(おおくにけもんじょ).....	18
大國家由緒書(おおくにけゆいしょがき)	19
大久保家文書(おおくぼけもんじょ).....	19
大塩平八郎倅格之助乱妨日記ノ写(おおし	

おへいはちろうせがれかくのすけらんぼう にっきのうつし).....	19
大西家文書(おおにしけもんじょ).....	19
大橋慎三書状(おおはししんぞうしょじょ う).....	19
大森鐘一関係資料(おもりしょういちか んけいしりょう).....	20
岡田平左衛門家文書(おかだへいざえもん けもんじょ).....	20
岡本家文書(おかもとけもんじょ).....	20
岡本春暉旧蔵資料(おかもとしゅんききゅ うぞうしりょう).....	20
岡本保止家文書(おかもとやすとめけもん じょ).....	20
小木貞一文書(おぎていいいちもんじょ).....	20
小沢家文書(おざわけもんじょ).....	20
織田信定折紙(おだのぶさだおりがみ).....	21
小野家文書(おのけもんじょ).....	21
御布令之訳(おふれのわけ).....	21

「か」から始まる文書

利田家文書・甲(かがたけもんじょ).....	22
各商業人調(かくしょうぎょうにんしら べ).....	22
家訓(かくん).....	22
風間家文書(かざまけもんじょ).....	22
加地家文書(かじけもんじょ).....	22
梶田家文書(かじたけもんじょ).....	23
片山安右衛門家文書(かたやまやすうえも んけもんじょ).....	23
桂宮家領村関係絵図(かつらのみやけりよ うそんかんけいえず).....	23
狩野家文書(かのうけもんじょ).....	23
上京下一条組古町中文書(かみぎょうしも いちじょうくみふるまちちゅうもんじょ)...	23
上京第廿一区貳拾二町組月行事記録(かみ ぎょうだいにじゅういっくにじゅうにちよ	

うぐみつきぎょうじきろく).....	24
上下京惣紅屋仲間文書(かみしもぎょうそ うべにやなかまもんじょ).....	24
神原善三郎家地券(かみはらせんざぶろう けちけん).....	24
亀屋町文書(かめやちょうもんじょ).....	24
賀茂川堤奉行角倉関係資料(かもがわつつ みぶぎょうすみのくらかんけいしりょう)	24
唐橋村禁裏御領庄屋文書(からはしむらき んりごりょうしょうやもんじょ).....	24
仮御役中日記(かりおんやくちゅうにっき)	24
革嶋家文書(かわしまけもんじょ).....	25
川嶋村文書(かわしまむらもんじょ).....	26
革棚町文書(かわだなちょうもんじょ).....	26
管内図(かんないず).....	26

「き」から始まる文書

木崎家文書(きざきけもんじょ).....	26
北尾家文書(きたおけもんじょ).....	26
北垣国道関係資料(きたがきくにみち かんけいしりょう).....	26
北垣国道書 銘文拓本(きたがきくに みちしょ めいぶんたくほん).....	27
北川家文書(きたがわけもんじょ).....	27
北小路家文書(きたこうじけもんじょ).....	27
北野神社文書(きたのじんじゃもんじょ)	27
北袋屋町文書(きたふくろやちょうも んじょ).....	27
吉祥院村文書(きっしょういんむらもん じょ).....	27
木戸孝允書簡(きどたかよししょかん).....	27
木下家文書(きのしたけもんじょ).....	27
旧幕府関係資料(きゅうばくふかんけい しりょう).....	27
旧峰山町役場所蔵文書(峰山藩関係文書) (きゅうみねやまちょうやくばしよぞ うもんじょ).....	29

京市中取締同心日誌(きょうしちゅうとり しまりどうしんにっし).....	29
京下鴨神社文書 - 鴨脚家 - (きょうしもが もじんじゃもんじょーいちょうけー).....	29
京図名所鑑(きょうずめいしよかがみ) 京都関係版本図(きょうとかんけいはんぼ んず).....	29
京都久世家文書(きょうとくせけもんじょ)	29
京都学区絵図(きょうとがっくえず).....	29
京都市商品陳列所・工芸館守衛日記(きよ うとししょうひんちんれつしよこうげいか んしゅえいにつき).....	30
京都出火之次第(きょうとしゅっかのしだ い).....	30
京都諸酒仲次組合連合名書(きょうとしよ さけなかつぎくみあいれんごうめいしよ)	30
京都市立第二高等小学校教育資料(きょう としりつだいにこうとうしょうがっこうき ょういくしりょう).....	30
京都新報社関係文書(きょうとしんぼうし ゃかんけいもんじょ).....	30
京都疏水遊船会社創立一件書類(きょうと そすいゆうせんがいしゃそうりついつけん しよるい).....	30
京都武鑑(きょうとぶかん).....	30
京都府地券掛旧蔵文書(きょうとふちけん かかりきゅうぞうもんじょ).....	30
京都府立医科大学学友会文書(きょうとふ りついかだいがくがくゆうかいもんじょ)	31
京都盲啞院等平面図(きょうともうあいん とうへいめんず).....	31
京都遊覧電気鉄道株式会社創立事務所文書 (きょうとゆうらんでんきてつどうかぶし きがいしゃそうりつじむしよもんじょ)	31
京都曆道御用諸用留(きょうとれきどうご ようしよようとめ).....	31
切支丹制札(きりしたんせいさつ).....	31
近世先哲遺墨集成(きんせいせんてついは くしゅうせい).....	31

祇園内八町文書(ぎおんうちはっちょうも んじょ).....	32
祇園円花楼文書(ぎおんえんかろうもんじ ょ).....	32
祇園社雑掌円明房代慶舜請取(ぎおんしゃ ざっしょうえんみょうぼうだいけいしゅん うけとり).....	32

「く」から始まる文書

九鬼家履歴集(くきけりれきしゅう).....	32
口宣案(くぜんあん).....	32
国絵図(くにえず).....	32
倉橋家資料(くらはしけしりょう).....	33
黒田地区文書(くろだちくもんじょ).....	33

「け」から始まる文書

傾城町文書(けいせいちょうもんじょ).....	33
元治元年八月より諸控(げんじがんねん8 がつよりしよひかえ).....	33
剣術書(けんじゅつしよ).....	33

「こ」から始まる文書

郷土相続願書(ごうしそうぞくねがいし よ).....	34
宏寿法印御聞書(こうじゅほういんおんき きがき).....	34
牛王女畠地讓状(ごおうじよはたちゆずり じょう).....	34
五ヶ莊村田原区有文書・甲(ごかしょうむ らたわらくゆうもんじょ).....	34
古久保家文書(こくぼけもんじょ).....	34
小島家文書(こじまけもんじょ).....	34
後素協会沿革一件資料(ごそきょうかいえ んかくいつけんしりょう).....	35
小林家文書(こばやしけもんじょ).....	35
小林万兵衛家文書(こばやしまんぺえけも んじょ).....	35

五俵の掲示(ごぼうのけいじ).....	35
古文書(こもんじょ).....	35
御用砂子屋美濃地仲間文書(ごようすなご やみのじなかもんじょ).....	35
近藤家文書(こんどうけもんじょ).....	36

「さ」から始まる文書

最勝光院寺領年貢注進状(さいしょうこう いんじりょうねんぐちゅうしんじょう)	36
財満家文書(ざいまんけもんじょ).....	36
材木仲間文書(ざいもくなかもんじょ)	36
佐伯村文書(さえきむらもんじょ).....	37
左官仲ケ間関係文書(さかななかまかんけ いもんじょ).....	37
笹屋町三丁目文書(ささやちょうさんちょ うめもんじょ).....	37
篠山藩桑田代官所文書(ささやまはんくわ ただいかんしょもんじょ).....	37
佐藤美与士氏蒐集文書(さとうみよじしも んじょ).....	37
佐山重致旧蔵資料(さやまじゅうちきゅう ぞうしりょう).....	37
沢屋吉兵衛家文書(さわやきちべえけもん じょ).....	37
三光院内府清談(さんこういんないふせい だん).....	37
三条白川 西町文書(さんじょうしらかわ にしまちもんじょ).....	38

「し」から始まる文書

塩屋町文書(しおやちょうもんじょ).....	38
志賀家文書(しがけもんじょ).....	38
四条町文書(しじょうちょうもんじょ).....	38

士族授産会社株券(しぞくじゅさんがいし やかぶけん).....	38
士豎家文書(したてけもんじょ).....	39
七条校建築入札見積書(しちじょうこうけ んちくにゅうさつみつもりしょ).....	39
質屋廿組文書(しちやにじゅうくみもんじ ょ).....	39
清水家文書(しみずけもんじょ).....	39
下京第三一学区資料(しもぎょうだいさん じゅういちがっくしりょう).....	39
下古京上良組町々連判状(しもこきょうか みうしとらくみまちまちれんぱんじょう)	39
下佐濃村文書(しもさのむらもんじょ).....	39
下橋家資料(しもはしけしりょう).....	39
下橋家資料(下橋氏蔵)(しもはしけしりよ う).....	40
下町村文書(しもまちむらもんじょ).....	40
下妙覚寺町文書(しもみょうかくじちょう もんじょ).....	40
下村家文書(しもむらけもんじょ).....	40
社寺農商制法(しゃじのうしょうせいほ う).....	40
聚楽村文書(じゅらくむらもんじょ).....	40
娼妓契約書(しょうぎけいやくしょ).....	40
商店引札(しょうてんひきふだ).....	40
諸商売仲間掟書(しよしょうばいなかまお きてがき).....	40
城郭図(じょうかくず).....	41
正平古文書(しょうへいこもんじょ).....	41
上洛旅宿関係資料(じょうらくりよしゆく かんけいしりょう).....	41
白川村地籍図(しらかわむらちせきず).....	41
信義団真実会諸控(しんぎだんしんじつか いしょひかえ).....	41
神社関係図(じんじゃかんけいず).....	41
真町文書(しんちょうもんじょ).....	41
人民告諭大意(じんみんこくゆたいい).....	42

「す」から始まる文書

随心院記録(ずいしんいんきろく).....	42
随心院文書(ずいしんいんもんじょ).....	42
随心院文書(京博分)(ずいしんいんもんじょ).....	42
杉浦家文書(すぎうらけもんじょ).....	42
杉浦利貞文書(すぎうらとしさだもんじょ).....	43
鈴木家文書・甲(すずきけもんじょ).....	43
須藤家文書(すどうけもんじょ).....	43
炭本家文書(すみもとけもんじょ).....	43

「せ」から始まる文書

生源寺文書(せいげんじもんじょ).....	43
西堂町文書(せいどうちょうもんじょ).....	44
晴明町文書(せいめいちょうもんじょ).....	44
清涼寺四拾八日別時納并遣日記(せいりょうじ48にちべつじのうならびにつかわしにつき).....	45
禅定寺文書(ぜんじょうじもんじょ).....	45
善通曼陀羅寺両寺領注進状案(ぜんつうまんだらじりょうじりょうちゅうしんじょうあん).....	45

「そ」から始まる文書

園田家文書(そのだけもんじょ).....	45
園部領分高付(松本家文書)(そのべりょうぶんたかつき).....	45

「た」から始まる文書

大恩寺町諸日記(だいおんじちょうしょにっき).....	46
大恩寺町文書(だいおんじちょうもんじょ).....	46
大覚寺宮空性法親王令旨并女房奉書(だい	

かくじのみやくうしょうほっしのうりょうじならびににょうぼうほうしょ).....	46
---	----

大黒町文書(だいこくちょうもんじょ).....	46
大乘院文書(だいじょういんもんじょ).....	46
大乘院文書・乙(だいじょういんもんじょ).....	47

大通寺・東寺地子米勘定帳(だいつうじ・とうじじしまいかんじょうちょう).....	47
大徳寺総見院指図(だいとくじそうけんいんさしず).....	47
第四回内国勸業博覧会資料(だいよんかいなこくかんぎょうはくらんかいしりょう).....	48

内裏陵墓関係資料(だいりりょうぼかんけいしりょう).....	48
高木ヒロ家文書(たかぎひろけもんじょ).....	48
高砂町文書・甲(たかさごちょうもんじょ).....	48

高辻大宮町文書(たかつじおおみやちょうもんじょ).....	48
竹野村文書(たかのむらもんじょ).....	48
高宮屋文書(たかみややもんじょ).....	48

多賀村文書(豊田元彦氏蔵)(たがむらもんじょ).....	48
宅間家文書(たくまけもんじょ).....	49
竹下氏旧蔵京都関係文書(たけしたしきゅうぞうきょうとかんけいもんじょ).....	49

竹田家文書(たけだけもんじょ).....	49
武部時男氏旧蔵資料(たけべときおしきゅうぞうしりょう).....	49
太政官牒(貞永元年)(だじょうかんちょう).....	49

太政官牒(応保3年ほか)(だじょうかんちょう).....	49
龍野家文書(たつのけもんじょ).....	49
蓼倉郷田地文書(たでくらごうでんちもんじょ).....	49

田中国三郎文書(たなかくにさぶろうもんじょ).....	50
田中家文書(たなかけもんじょ).....	50
田中氏旧蔵渡辺千秋書状(たなかしきゅう	

ぞうわたなべちあきしよじょう).....	50
田辺朔郎関係資料(たなべさくろうかんけいしりょう).....	50
田辺(舞鶴)城絵図(たなべじょうえず).....	50
田辺藩牧野家分限帳(たなべはんまきのけぶげんちょう).....	50
丹波関係資料(たんばかんけいしりょう).....	50
丹波丹後両国検地帳(たんばたんごりょうこくけんちちょう).....	50
丹波国天田郡福知山故城之図(たんばのくにあまたぐんふくちやまこじょうのず).....	51

「ち」から始まる文書

千吉西村家文書(ちきちにしむらけもんじょ).....	51
藤屋町文書(ちきりやちょうもんじょ).....	51
地券関係書類(ちけんかんけいしよるい).....	51
地籍図(ちせきず).....	51

「つ」から始まる文書

土山家文書(つちやまけもんじょ).....	51
塚田家文書(つかだけもんじょ).....	51
坪井家文書(つばいけもんじょ).....	52

「て」から始まる文書

伝奏口上留(てんそうこうじょうとめ)...	52
天龍寺文書(てんりゅうじもんじょ).....	52

「と」から始まる文書

東宮御元服御装束図(とうぐうごげんぷく	
---------------------	--

ごしょうぞくず).....	53
東寺観智院古文書(とうじかんちいんこもんじょ).....	53
東寺記(東寺執行日記)(とうじき).....	53
東寺旧記抄(とうじきゅうきしょう).....	53
東寺五重塔図(とうじごじゅうのとうず).....	53
東寺古文書写(とうじこもんじょうつし).....	53
東寺古文書目録(とうじこもんじょもくろく).....	53
東寺草創以来事(とうじそうそういらいのこと).....	53
東寺長者知行法務凡僧別当款状並宣旨符案(とうじちょうじゃちぎょうほうむぼんそうべつとうかんじょうならびにせんじふあん).....	53
東寺長者拜堂記(とうじちょうじゃはいどうき).....	53
東寺長者補任(とうじちょうじゃぶにん).....	54
東寺堂舎等損亡検注状(とうじどうしゃとうそんもうけんちゅうじょう).....	54
東寺文書案(とうじもんじょあん).....	54
東寺百合文書(とうじひやくごうもんじょ).....	54
当進軒文庫旧蔵絵図(とうしんけんぶんこきゅうぞうえず).....	56
東大寺古文書(とうだいじこもんじょ).....	56
徳屋町文書(とくやちょうもんじょ).....	56
富田半兵衛文書(とみたはんべえもんじょ).....	56
富田村文書(とみたむらもんじょ).....	56
富永家文書(とみながけもんじょ).....	57
友重村文書(ともしげむらもんじょ).....	57
豊田武氏旧蔵京都関係文書(とよだたけしきゅうぞうきょうとかんけいもんじょ).....	57
富田屋文書(とんだやもんじょ).....	57

「な」から始まる文書

中井家文書(なかいけもんじょ).....	58
中井家文書・乙(なかいけもんじょ).....	58
永井尚政書状(ながいなおまさしよじょう)	
.....	58
中大路家文書(なかおおじけもんじょ).....	58
中川家文書(なかがわけもんじょ).....	59
中久世村文書(なかくぜむらもんじょ).....	59
中島湘烟書幅(なかじましょうえんしょふく)	
.....	59
中田家文書(なかたけもんじょ).....	59
中西家文書(なかにしけもんじょ).....	59
永原屋文書(ながはらやもんじょ).....	60
中村重三郎家文書(なかむらじゅうざぶろうけもんじょ).....	60
中山家文書(なかやまけもんじょ).....	60
長与専齋書状(ながよせんさいしよじょう)	
.....	60

「に」から始まる文書

西京薬種商永代記録帳(にしきょうやくしゅしょうえいだいきろくちょう).....	60
西陣織物工業組合統製調査課書類綴(にしじんおりものこうぎょうくみあいとうせいちょうさかしよるいつづり).....	60
西田家文書(にしだけもんじょ).....	60
西田村戸長役場文書(にしだむらこちょうやくばもんじょ).....	60
西田村文書(にしだむらもんじょ).....	61
西村家文書(にしむらけもんじょ).....	61
西門前町文書(にしもんぜんちょうもんじょ).....	61
二条二之丸御番所御道具申送帳(にじょうにのまるごばんしよおどうぐもうしおくりちょう).....	62
人形商「面竹」岡本家文書(にんぎょうしよう「めんちく」おかもとけもんじょ)...	62
仁和寺年代記(にんなじねんだいき).....	62

「ね」から始まる文書

年貢免状(ねんぐめんじょう).....	62
---------------------	----

「の」から始まる文書

野田家文書(のだけもんじょ).....	62
野村家文書(のむらけもんじょ).....	62

「は」から始まる文書

博覧会関係資料(はくらんかいかんけいしりょう).....	63
秦光弘屋地売券(はたみつひろやちばいけん).....	63
花園村文書(はなぞのむらもんじょ).....	63
速水家文書(はやみけもんじょ).....	63
原家文書(はらけもんじょ).....	63
原在泉家文書(はらざいせんけもんじょ)	
.....	63
原田氏旧蔵資料(はらだしきゅうぞうしりょう).....	64

「ひ」から始まる文書

比叡山山上絵図(ひえいざんさんじょうえず)	
.....	64
東九条村文書(ひがしくじょうむらもんじょ)	
.....	64
東本願寺侍衆座帳(ひがしほんがんにさむらいしゅうざちょう).....	64
東山松本家文書(ひがしやままつもとけもんじょ).....	64
東山名所踊関係文書(ひがしやまめいしよおどりかんけいもんじょ).....	64

人のうわさ(ひとのうわさ).....	64
日吉町四ツ谷区文書(ひよしちょうよつやくもんじょ).....	64
平田家文書(ひらたけもんじょ).....	65
平和家資料(ひらわけしりょう).....	65
平和家文書(ひらわけもんじょ).....	65
平和家文書(奥村氏蔵)(ひらわけもんじょ).....	65

「ふ」から始まる文書

武鑑(ぶかん).....	66
福岡家文書(ふくおかけもんじょ).....	66
福長町文書(ふくながちょうもんじょ).....	66
袋町文書(ふくろちょうもんじょ).....	66
伏原家文書(ふしはらけもんじょ).....	66
藤原家文書(ふじわらけもんじょ).....	66
船屋太兵衛家文書(ふなやたへえけもんじょ).....	66
文久三年御触書木札(ぶんきゅうさんねんおふれがきもくさつ).....	67
文治二年古写経(ぶんち2ねんこしゃきょう).....	67

「へ」から始まる文書

弁慶石町議定(べんけいいしちょうぎじょう).....	67
弁天町文書(べんてんちょうもんじょ).....	67

「ほ」から始まる文書

法義三大部書翰(ほうぎさんだいぶしょかん).....	67
堀川家御玄関日記(ほりかわけおげんかんにつき).....	68
堀川流民生所録(ほりかわるみんせいしりょう).....	68
本郷家文書(ほんごうけもんじょ).....	68

本光寺文書(ほんこうじもんじょ).....	68
本多辰次郎文書(ほんだたつじろうもんじょ).....	68
本能寺小学校関係資料(ほんのうじしょうがっこうかんけいしりょう).....	69

「ま」から始まる文書

前田玄以書状(まえだげんいしよじょう).....	69
柘屋町記録(ますやちょうきろく).....	69
町頭南町文書(まちがしらみなみまちもんじょ).....	69
松岡家文書(勝田家文書含む)(まつおかけもんじょ(しょうだけもんじょふくむ)).....	70
松下町文書(まつしたちょうもんじょ).....	70
松島家文書(まつしまけもんじょ).....	70
松平紀伊守信道書状(まつだいらきいのかみのぶみちしよじょう).....	71
松田家文書・甲(まつだけもんじょ).....	71
松本家文書(まつもとけもんじょ).....	71
松本繁蔵旧蔵文書(まつもとしげぞうきゅうぞうもんじょ).....	71
松山氏旧蔵資料(まつやましきゅうぞうしりょう).....	72
松屋文書(まつやもんじょ).....	72
丸屋清兵衛家文書(まるやせいべえけもんじょ).....	72

「み」から始まる文書

参河国山中郷名寄帳(みかわのくにやまなかごうみょうよせちょう).....	72
御園家文書(みそのけもんじょ).....	72
溝前町文書(みぞまえちょうもんじょ).....	73
南座新築関係書類(みなみざしんちくかん)	

けいしよるい).....	73
南山城油絞仲間文書(みなみやましろあぶらしぼりなかまもんじょ).....	73
峰山図書館所蔵 郷土関係資料(峰山藩関係文書)(みねやまとしよかんしよぞうきょうどかんけいしりょう).....	73
宮田家文書(みやたけもんじょ).....	73
妙法院領新日吉町沽券状(みょうほういんりょうしんひよしちょうこけんじょう)...	73
妙蓮寺文書(みょうれんじもんじょ).....	73

「む」から始まる文書

宗家文書(むねけもんじょ).....	74
室町幕府奉行人連署奉書(むろまちばくふぶぎょうにんれんしよほうしよ).....	74
室町幕府奉行人連署奉書(むろまちばくふぶぎょうにんれんしよほうしよ).....	74

「も」から始まる文書

最上屋喜八家文書(もがみやきはちけもんじよ).....	74
元大谷延仁寺旧地一件書類写(もとおたにえんにんじきゅうちいつけんしよるいつし).....	75
元北小路町中家屋敷伝来帳(もときたこうじちょうちゅういえやしきでんらいちょう)...	75
元北小路町文書(もときたこうじちょうもんじよ).....	75
元立本寺前町文書(もとりゅうほんじまえちやうもんじよ).....	75
森島国男家文書(精華町)(もりしまくにおけもんじよ).....	75
森島家文書(もりしまけもんじよ).....	75
森田家文書(もりたけもんじよ).....	76
森村庄屋文書(もりむらしょうやもんじよ).....	76

「や」から始まる文書

柳原家文書(やなぎはらけもんじよ).....	76
柳原町文書写(やなぎはらちやうもんじようつし).....	76
山内家文書(やまうちけもんじよ).....	77
山崎町文書(やまざきちやうもんじよ).....	77
山城製茶会社文書(やましろせいちゃがいしゃもんじよ).....	77
山城国郡村名(やましろのくにぐんそんめい).....	77
山城八郡石高帳(やましろはちぐんこくだかちやう).....	77
山城八郡詰所文書(やましろはちぐんつめしよもんじよ).....	77
大和屋文書(やまとやもんじよ).....	77
山中家文書(やまなかけもんじよ).....	78
山名義幸遵行状(やまなよしゆきじゆんぎやうじやう).....	78

「ゆ」から始まる文書

湯浅家文書(ゆあさけもんじよ).....	78
行待家文書(ゆきまちけもんじよ).....	78

「よ」から始まる文書

妖怪絵巻(ようかいえまき).....	79
淀藩土山岡家文書(よどはんしやまおかけもんじよ).....	79
淀町奉行日記(竹林家文書)(よどまちぶぎやうにつき).....	79
万屋文書(よろずやもんじよ).....	79

「ら」から始まる文書

頼家文書(らいけもんじょ)..... 80

「り」から始まる文書

暦応五年伝法灌頂記(りゃくおうごねんでん
ぼうかんじょうき)..... 80

「ろ」から始まる文書

鹿王院文書(ろくおういんもんじょ) 80
六条家文書(ろくじょうけもんじょ)..... 81

「わ」から始まる文書

若杉家文書(わかすぎけもんじょ)..... 81
若槻幾斎関係資料(わかつききさいかんけい
しりょう)..... 83

解 題

「あ」から始まる文書

藍商社文書(あいしょうしゃもんじょ) 館古518

京都藍商社の書類。明治3～8年。14点。染色のための藍の取引について阿波(徳島)との取引の書類など。

明石博高文書(あかしひろあきらもんじょ) 館古069

明治時代前半、京都の近代化政策を推し進めた第2代京都府知事榎村正直のもとで勸業課長・衛生課長を務めた明石博高家に伝来した文書。263点。安政6(1859)～明治43(1910)年。

明石は、京都府を明治14年に退職し、府から伏見製作所の払下げを受けるが、同16年には廃業した。

本文書群には、その払下げの書類及び経営に関わる書類、譲渡・負債に関わる書類が多く含まれる。また、明石の経営した事業として、京都染殿社・煉火石(石炭)採掘事業等に関する書類がある。

他に明石診療所の診療に関わる書類、平野鉞泉(兵庫県川西市)有馬温泉の泉質検査書等が含まれる。

安達家文書(あだちけもんじょ) 館古507

西陣高機八組織屋仲間関係資料(株札添状、出銭受取通、貼札)、近代の家屋敷売券、種痘証ほか。天保11(1840)～明治期。21点。

穴川村小沢家文書(あながわむらおざわけもんじょ) 館古380 館古382

桑田郡穴川村(現亀岡市)の庄屋を勤めた小沢家に伝わった文書、697点。明治期のもの30点を除くほかは江戸時代のもので、江戸前期が多い。

元禄15(1702)年「丹波国高帳」は、表紙に「朽木伊予守・小出伊勢守・織田山城守様御改」とあり、各村の村高が石単位で書き連ねられている。

これと似たものに宝暦4(1754)年「丹波国村高帳」がある。

文化10(1813)年「惣目録」は、村古書籍に伝えられていた文書を書写して、後日の証拠にしようとしたもので、原文書が伝わっていないものが多く含まれている。堤や溜池に関するものが大部分であり、これは当村にとって用水問題が大きな課題となっていたことを伝えている。

宝永5(1708)年「材木川下シニ付一札」は、観音寺村が穴川村庄屋に進めた一札で、近隣他村との契約である。また、宝暦4年「村方座席二付同心一札」は村内の住人が進めたもので、こうした一札ものが多く残っている。

そのほか、「御物成之通」が享保18(1733)年から弘化2(1845)年まで9点、「免割目録」が延宝8(1680)年から天保9(1838)年まで9点残っている。

村の東方に蛭子社があり、百姓も多く参詣した蛭子講があったため、享保7(1722)年「恵美酒講帳」や、寛延元(1748)年「蛭子社明細覚」などがある。

また、元禄15年「走田社御造営入用目録」など、走田神社に関するものも残っている。

新井家文書(あらいけもんじょ) 集古M139

加佐郡大江町波美の新井家に伝来した文書。574点。

新井家は久美浜代官所大庄屋役等を勤めた。

丹後国村高帳、幕府巡見の一件、元禄10(1697)年～明治4(1871)年の年貢皆済目録と割付状、近代久美浜県の達書、近代の波美村惣代の資料、河守町助役時代の日誌、蚕糸同業組合関係資料ほか。

安祥校記録(あんしょうこうきろく) 館古202

南桑田郡篠村(現亀岡市)の安祥尋常小学校と併

設されていた篠村夜学校の日誌など8点。

明治31(1898)年9月から大正5(1916)年3月までの安祥校日誌6冊と明治39年12月から同44年3月までの篠村夜学校日誌1冊のほか、安祥尋常高等小学校と篠村実業補修学校の「農村児童便覧」がある。

「い」から始まる文書

飯島氏旧蔵京都関係文書(いいじましきゅうぞうきょうとかんけいもんじょ) 館古474

丹波国何鹿郡小呂村(綾部市)の文政～明治の年貢割付、同村高倉社の祭礼など神事に関する一件、寛永10(1633)年紀伊郡竹田村の加茂川橋掛の勧進の一件、上三栖村に慶応4年設置された太政官制札ほか。26点。

池沢喜兵衛家文書(いけざわきへえけもんじょ) 館古168

高倉六角下ルの池沢家に伝わった資料、7点。
明治26(1893)・27年、平安遷都記念祭協賛会の寄付金通知書等3点のほか、明治28年4月大日本武徳会設立趣旨、大日本武徳会規則、明治28年11月改正日彰尚武会規約、平安神宮信徒敬白文からなる。

石垣町大和屋文書(いしがきちょうやまとやもんじょ) 館古327

大仏仁王門通の石垣町西側の大和屋の家屋敷に関する文書、3点。

(1)家屋敷の所在、軒役を書いた明治元(1868)年「沽券状間尺之控」、(2)文政5(1822)年から明治3年までの「元沽券状之写」、(3)明治3年から同7年までの「御割印券状之写」である。

本来、町年寄のもとに残る文書であるが、大和屋が何らかの必要から写したものと考えられる。

石田家文書(いしだけもんじょ) 館古078

江戸時代、京都所司代に出仕していたといわれる石田家に伝わった文書。10点が絵図資料、3点が文書資料である。

絵図資料は、すべて院・門院の葬送関係のもので、宝暦12(1762)年8月22日の桃園院葬送固絵図1点、安永8(1779)年12月10日の後桃園院葬送固絵図1点、弘化4(1847)年11月の新朔平門院のもの7点、不明1点である。これらの絵図は、同家が所司代へ出仕した関係で残ったものと思われる。

また、文書は安永7年から弘化2年までの民政一般に関する願・届等を書き留めた「臨時留写」1冊、寛政元(1789)年改「山城国村名高附」1冊、諸家の「系図帳」1冊である。

維新前旧藩奉行所代官管轄(いしんぜんきゅうはんぶぎょうしよだいかんかんかつ) 館古063

山城・丹波・丹後の各村々の旧領別石高を書き上げたもの。

京都府の罫紙が用いられ、丹後が含まれているところから、明治9(1876)年8月の府県統廃合後に作られたと推定されるが、詳細な作成時期は不明である。1冊。

板原家文書(いたはらけもんじょ) 中集古S298

京都市北区に居住する板原家に伝えられた古文書。室町時代から明治期に至る281点。

この文書群は大きく三つに大別ができる。

第一群は、室町時代から戦国時代にかけての和泉国に関する文書116点。

しかし、この116点の内、板原家文書といえるものは49点で、他は多賀家文書と呼ぶべき文書である。板原氏は多賀氏の内者であり、多賀氏が豊臣秀吉に追討され、断家するに及んで文書類が板原家に伝わったと考えられる。

主なものとしては、守護細川氏の感状・安堵状・書状、守護細川氏奉行人奉書などのほか、天正9(1581)年の和泉国指出に関するものがある。

第二群は、江戸時代から明治初年にかけての

板原家の系図・家伝・過去帳など家系に関する文書33点。

江戸時代の板原家は泉佐野(現大阪府)で魚問屋を営んでいたようだが、その関係の文書はほとんど伝わっていない。

第三群は、明治期の画家の書状・請取類132点。

板原家は明治初年には京都の新町四条上ル小結棚町で友禅染業を営んでいた。家業に励む一方、京都で活躍していた若き画家たちのパトロンの存在で、彼らに友禅の下絵を描かせて生活の面倒を見ていた。そのため多数の画家たちの文書が伝わった。

主なものとして浅井柳塘39点・幸野椽嶺13点・菊池芳文7点・村田香谷7点・市村水香4点・森川曾文2点・鈴木百年1点などである。

なお、第一群については「史料紹介 板原家文書」(『資料館紀要』16号 昭和63年3月発行)、第三群については「史料紹介 板原家文書(二)」(『資料館紀要』20号 平成4年3月発行)にて、翻刻掲載されている。

市川家文書(いちかわけもんじょ) 館古398

三条室町東入ル御倉町で蠟燭商を営んでいた市川(鍵屋)利兵衛家に伝わった文書、446点。

同家が町年寄を勤め、御倉町が祇園会において轅町(神輿の長柄を保管する町)を勤めていた関係で、自家経営関係文書のほか、町文書、祇園会関係文書が伝わることになった。そのほとんどが元禄期から文化文政期(1688～1829)のものである。

自家経営関係の文書については、「生蠟代銀皆済証文」「家屋敷請状」「奉公人請状」などの証書類をはじめ、「蠟燭代値上二付口上書」「近衛様御用燈油御出入二付一札」や蠟燭屋仲間による「掛金受取通」「店卸勘定帳」「蠟燭之通」などがある。

町文書には、「御触書写」「町中申合之事」をはじめ記録類も多く、「御寄会記録覚帳」「御町内諸入用控帳」「御参会持参道具各組二山分ヶ覚帳」「再勤役中手控」「検地帳写」等がある。

また、御倉町を含む下京南良組内での寄合活動を伝える文書としては、「南良組内廻状」「寄合申談聞取覚」「参会之献立覚」「年寄役交代報告書」等がある。

祇園会関係文書としては、「祇園社寄附覚帳」「祇園御輿御修覆諸職方仕様直段積書」「祇園

会地之御控帳」等がある。

このほか溝尾村(所在地不明)関係文書15点が含まれているが、その理由は明らかでない。

鴨脚家文書(いちょうけもんじょ)

館古034 館古042

賀茂御祖神社(下鴨神社)に祝家として奉仕した鴨脚家に伝来した文書、3,365点。

文書の中心は記録類で、古い年号では鎌倉時代のもみられるが、大半は江戸時代初期から明治期にかけて写されたものである。家の歴史を語るものとしては「氏人家鴨県主家伝」「鴨氏名籍」(3冊)などがある。ただし、いずれも欠年。

神事・祭事に関するものは多く、建久9(1198)年(後世の写)「賀茂下上御幸記」、延宝7(1679)年「鴨御祖社御神宝帳」、元禄7(1694)年「賀茂祭社頭次第」などがある。

また、これら諸神事を描いたものに、安永5(1776)年「從切芝還立行粧絵巻」や明和5(1768)年「七社奉幣社頭図」等がある。

このほか、「鴨社絵図」「賀茂川近辺絵図」や境内の建物を書き上げた貞享元(1684)年「下賀茂神殿・舎屋惣目録」、また、天保8(1837)年から明治6(1873)年までの鴨脚秀静の日記(44冊)がある。

さらに、衣装や作法など有職故実に関するもの、社領や近隣などの土地に関するもの、自家の婚礼や葬送など冠婚葬祭に関するもの、入用銀や勘定帳など家の経営に関するもの、和歌・漢詩の手引書や実作である詠草など教養に関するもの、能・謡・蹴鞠などに関するものなど、その記録・文書の種類は多岐にわたる。

井筒屋忠兵衛家文書(いづつやちゅうべえけもんじょ)

館古133 館古260

御幸町五条上ル安土町に住んでいた同家に伝えられた文書、43点。

甲・乙2群に分かれている。

甲群は28点で、文化11(1814)年から明治にかけての金銭・奉公人等の証書類である。

乙群は15点で、天明8(1788)年から明治にかけての証書類のほか、同家の屋敷図や天保7(1836)年の京洛中洛外家数人名書等が含まれている。

ている。

伊藤家文書(いとうけもんじょ) 館古467

明治9～11年の京都府職員の辞令、明治28年京都市街名勝案内新図。6点。

伊藤博文書状(いとうひろぶみしよじょう)
館古138

三峰(吉井友実)に宛てた書状1通。明治20年6月22日付。内容は勝海舟の口演覚書の処理について意見を述べたもの。

勝海舟は、この覚書の中で鹿鳴館での舞踊会や薩長専制の政体を批判していたことがわかる。

なお、この書状は大正2(1913)年に開催された明治記念博覧会に出品されたことが明らかである。

稲荷地口銭関係文書(いなりじぐちせんかんけいもんじょ)
中館古001

元龜2(1571)年4月12日に、ほうさうし興春が東寺諸役者にあて、稲荷祭礼用途地口銭の納入を誓約した文書。

鎌倉時代ごろから、東寺領洛中所領には稲荷祭礼のための地口銭が賦課されたが、この文書では、1年300文の地口銭を、興春は2ヶ年続いて未進していたが、これを免除され、当年分を納めるとともに、来年からは期日までに納入することを約束している。

上軸背には、「元龜年中古文状 東寺地口銭書附」と墨書され、またこの文書の伝来を朱書している。軸装。

今小路行康書状(いまこうじゆきやすしよじょう)
中館古002

年紀を欠くが、1月26日付で東寺年預にあて、千僧会出仕のこと、法会の導師のことを要請したものの。

今小路行康は織豊期の妙法院坊官で、元和2(1616)年に没した。折紙、軸装、桐箱に収納し

井山家文書(いやまけもんじょ) 館古448

榎村正直の著書、諸書類の雛形等の近代資料。11点。井山家は最上屋喜八家である。

石井家文書(いらいけもんじょ) 館古541

公家石井家より相楽郡菅井村(精華町)庄屋にあてた文書。文久元年。2点。

井脇村文書(いわけむらもんじょ) 館古393

船井郡井脇村(現京丹波町)の庄屋に伝わった文書、63点。

主なものは、延宝元(1673)年から嘉永7年(1854)年にかけての本物返シ田地等売券17点、宝永7(1710)年から寛延4(1751)年にかけての田地等売渡証文15点、延宝3(1675)年から寛延3(1750)年にかけての畑地等質入証文12点、正徳2(1712)年から明治10(1877)年にかけての借金証文7点である。

他に年貢勘定目録3点、天保12(1841)年の名寄覚がある。

岩倉家日記(いわくらけにっき) 館古182

全12冊。第1冊と他は性格が異なる。

第1冊は表紙に「明治十四年七月 御留守中日記 家扶」とあり、同月6日岩倉具視が東京を発してから10月6日東京に帰るまでの留守宅日記。

ほかには岩倉具定家の家司日記で明治17(1884)年7月1日から11月1日までの1冊と、明治31年1月1日から明治34年4月までの分10冊である。

日記には御出館・御帰館・来書・招請・参殿・御出門などの項目があり、出勤時間・他出した場合の役宅への帰館時間、到来した書状の差出人名、招待者名、来訪者名、役宅から本宅への帰宅時間などが詳細に書かれている。

なお、家司日記が始まった、明治17年7月というのは岩倉具視の3男具定が岩倉家の家督を継

いだときである。

(寛永6年10月付)である。

岩倉具視書状(いわくらともみしよじょう)

館古146

明治8(1875)年5月23日付、京都府参事榎村正直宛ての1点。

内容は、賀茂下上社人などから内務・大蔵両省へ家禄について内訴があったので、特に京都府でも社頭、家禄等の不分明な点について、内密に調査するよう依頼したものの。

石清水八幡宮領美豆村駕輿丁座文書(いわしみずはちまんぐうりょうみずむらかよちょうざもんじょ)

館古369

石清水八幡宮によって支配された男山門前の八幡八郷に属する美豆村(現伏見区)の元和3(1617)年から天保11(1840)年までの文書、17点。

寛文5(1665)・同9年の御朱印取返しに関する「口上書」4通、天和2(1682)年の「六石八斗御朱印明細」、宝暦12(1762)年の「石清水八幡宮領内安堵明細」など朱印状に関するものが多い。

岩本村文書(いわもとむらもんじょ) 館古189

綴喜郡宇治田原の岩本村(現宇治田原町)に関する文政2(1819)年から安政5(1858)年までの文書、13点。

内容は借用証文と賃借に関する訴訟の口上書である。

岩森家文書(いわもりけもんじょ) 館古280

桑田郡西条村(現亀岡市)岩森家に伝来した寛永6(1629)年から明治16(1883)年に至る文書、23点。

江戸時代では相論の済状が5点、田畠の証文が5点、条目定書及び万廻状写のほか「田畑畝高宛口帳」「互借仕法帳」「養子証文」などがある。明治時代は借用金証書のみ5点。近世・近代を通してもっとも古いものは「番時水酒手銭割賦書」

「う」から始まる文書

上田家文書(うえだけもんじょ) 館古391

幕末に東紫竹大門村庄屋をつとめた上田家に伝来した文書、541点。

同村は現在の北区大宮の西半分・紫竹のほぼ全域・紫野の東半分にあたる地域で、ほとんどが大徳寺領であり、明治22(1889)年の市町村制施行にあたり西賀茂村と合併して大宮村となった。

大宮村字東紫竹大門の土地台帳(10冊)は、明治25年写の奥書があり、小字宮ノ後(現在の紫野宮西・宮東町)から下柏野(同紫野下柏野町)に至る土地の地目・面積・所有者・地価・地租が一筆ごとに書かれている。

これに対応するものとして、「東紫竹大門村改正反別縮図集」(8巻)は各小字を同じ順序で彩色絵図化している。第1巻巻頭には明治6年7月の地租改正条例(上諭・太政官布告)が写されている。

同村庄屋文書としては他に、天保4(1833)年11月付京都代官小堀主税(正芳)黒印のある「免定」を始めとした禁裏領年貢に関するもの12通、以下「人別送状」「借家請状」など30通、明治2年「村庄屋心得条目」、同3年「村記録」、同4年「記録帳」、年不明「一ヶ村仕法」などがある。

領内寺社に関するものには、明治8年「一筆限帳」16冊、同11年「宝物寄付物什物取調帳」39冊があり、当館所蔵の寺院・神社の「明細帳」を補完することができる。

西賀茂村の文書は、明治9年「実地丈量積揚帳」が32冊あり、下庄田(現在の西賀茂下庄田町)以下の小字の地番ごとの測量図が綴じられている。合併以後は、大宮村(戸籍)役場文書となり、村内の戸籍・土地・租税・通信に関する書類が明治末年まで約60冊ある。

領内に今宮神社があり、上野町が祭元となって鎮花祭(やすらい)が営まれるが、これに関する文書が天保13年「諸具御寄進帳」を始めとして25通ある。このほか大正年間の上田家当主の日記など、若干の私文書が含まれる。

また、前述の縮図集(8巻)を含めて34点の絵図があり、うち「大宮村加茂台旧図」、明治9年「東紫竹大門村総絵図」は軸装。元禄16(1703)年「西賀茂村溜池相論絵図」は文書中最古のもので、成立の事情が裏面の文言で明らかになる。なお、この「溜池」は、「南北七拾五間、東西四拾五間」という規模などから、現在の尺八池と推定される。

「え」から始まる文書

絵図資料(えずしりょう)

館古024

上田艶家文書(うえだつやけもんじょ)館古402

の場通新町東入ル銭屋町に居住した上田家に伝わった文書、617点。ほとんどが明治期のもの。

上田家は両替商、洋傘商を営んでおり、その商売に関するものや、冠婚葬祭に関するものなど、まとまりがある。

商売に関する文書は両替商関係が中心。寛文6(1666)年から明治期に至る田地売渡や借入金などの証書類200点と、「店月給簿」「営業税及び其他届ケ覚帳」「商用・家財道具点数控帳」などの記録類13点がある。

冠婚葬祭関係等家に関する文書は300。主なものは、入営に関する「入営二付概要並御参考事項書」をはじめ上田家の家族の出産、死亡などに関する「祝儀到来物帳」「四柱推命星操運氣撰書」「野帳」「死亡届」や葬式の参列者名刺などがある。

このほか親類・知人などからの書状68点、日本画・和歌など36点も含まれている。

梅津村文書(うめづむらもんじょ) 館古261

葛野郡梅津村(現右京区)に伝わった文書、8点。天保5(1834)年の「田地譲り請二付替り一札」や嘉永6(1853)年の「往來人休足所支度二付願」のほか、村内の長福寺領に関する触書がある。

雲上分限帳(うんじょうぶんげんちょう)館古472

元禄8(1695)年の禁裏・公家・地下官人等の所領について、家別に領地石高・村名が記されたもの。太政官の下級官吏であった虫鹿家の本を地下官人の渡辺供資が寛政7年に写したものの1点。

この文書群は、資料のまとまりに一貫性が読み取り難く、蒐集文書の可能性が高い。ただ、この中には「中井控」等と記されたり、ヘラ押計線の貼絵図もあり、京都御大工頭の中井家において作成、保管されていたものも含まれる。21点。

- (1)紫宸殿額面之図、年月日未詳。
 - (2)承明門額面之図、年月日未詳。
 - (3)廻立殿之図、年月日未詳、貼絵図。
 - (4)一条殿相指図、慶安2(1649)年3月、貼絵図、二分計。
 - (5)東福門院様御塔絵図、年月日未詳、中井控。
 - (6)知恩寺末寺阿弥陀寺墓所坪付絵図、年月日未詳。
 - (7)丹波国桑田郡亀岡城郭分間絵図、年月日未詳。
 - (8)応仁乱後京師之図写、年月日未詳。
 - (9)城東白川之図写、年月日未詳。
 - (10)仁和寺御領山与龍安寺領山境目見分裏書絵図、享保9(1724)年6月。
 - (11)東山古図写、文化8(1811)年7月写。
 - (12)北山古図写、安政2(1855)5月写。
 - (13)淀絵図、年月日未詳。
 - (14)神輿之図、年月日未詳。
 - (15)即位式絵図、年月日未詳。
 - (16)石燈籠絵図写、延宝8(1680)年写。
 - (17)北野社内社外境内絵図、年月日未詳。
 - (18)清涼殿諸儀式之図写、寛保3(1743)年5月写、五分計。
 - (19)二条御城御指図、年月日未詳、中井控、貼絵図、二分計。
 - (20)二条御城中西大御番衆小屋絵図、年月日未詳、中井控、六分計。
 - (21)平安京内裏図写、天保3(1832)年9月以前写。
- なお、当文書群については、昭和56(1981)年、当館発行の『資料館紀要』第10号「<史料紹介>総合資料館所蔵の中井家文書について」の附録に、1点宛の目録を掲載した。

江津村文書(えつつむらもんじょ) 館古293

綴喜郡江津村(現京田辺市)関係の文書、18点。

「境争論等公事訴訟仕置類例集」、享和2(1802)年「山城国宇治郡・久世郡・綴喜郡・相楽郡高附帳」、文化4(1807)年「氏神年行事諸書留」、文化7年「五人組帳」、同12年「御除料明細帳」のほか、文化4年の宗門改帳などがある。

海老屋町文書(えびやちょうもんじょ) 館古370

寛政12(1800)年から安政3(1856)年までの御幸町通三条下ル海老屋町における借家関係の文書、1点。引取証文と借家請状ばかり39通を貼り継いだものである。

「お」から始まる文書

及川家文書(おいかわけもんじょ) 館古164

及川家は、東国在住のとき以来、形原松平氏に仕え、丹波亀山藩において元締・側用人・用人などを勤めた。また、武家故実を同藩の祝田政有から学んだために、その関係の史料も多い。文書点数497点。

松平家の系図2点、及川家の系図・家伝・先祖書の類20点。宝暦10(1760)年の「御法制書」をはじめとする亀山藩の法令類13点、「京都火消詰覚書」など勤方の諸規定類16点。及川家の扶持米に関するもの7点。物成渡方目録が天明8(1788)年から56点。書状類が44通。

このほかの大部分は武家故実に関するもので、それらの中には各種の作法・秘伝のほか、免許や免許を受けるに先だって出された起請文などがある。

王代年代記(おうだいねんだいき)中集古S328

東寺執行栄増が記した天神七代から後花園天皇までの年代記。写本。1点。宮内庁書陵部所蔵。

近江屋吉左衛門家文書(おうみやきちざえもんけもんじょ) 館古399

油小路通六角上ル三条油小路町西側に居を構え、近江屋の屋号で「糰(こうじ)もやし」を製造・販売していた近藤家に伝来した文書等、363点。延宝7(1679)年から大正期に至っている。

近江屋は、寛文12(1672)年の創業と伝えられ、当主は代々吉左衛門を襲名した。糰もやしは味噌などを作るときに必要な糰の原料となるもので、延宝年間にはこれを改良して粉末状にした「粉もやし」を開発して販路を伸ばした。

資料群は、糰もやしの製法や店経営に関する文書が中心であるが、ほかに家屋敷の証書類、茶道や俳句など当主の教養や趣味に関するもの、三条油小路町に関するもの、味噌糰商売人仲間の文書など多岐にわたる。

また、三条油小路町の東側と西側を1巻ずつに描いた彩色画がある。文政3(1820)年に松堂筆端という画家が絹地に顔料で町並みを写実的に描写したもので、近江屋吉左衛門がそれぞれの屋号・職種・軒役等を墨書している。

大池表葎島一件(おおいけおもてよしじまいっけん) 館古499

巨椋池の葎刈捨場流作開発に関わる資料。京都代官小堀仁右衛門と幕府勘定奉行との往復文書等の留綴。元禄13年4月～宝永5年。1点。

大江家文書(おおえけもんじょ) 館古077

愛宕郡久多上村(現左京区)の大江家に伝えられた元文5(1740)年から明治期までの文書、156点。

同村では林業及び炭焼きが生業の中心となっていたので、山林・山畑の売買及び請取の証文が中心である。

大國家文書(おおくにけもんじょ)

寄古018 寄古019

近世の地下官人大國家に伝来し、大國家が所蔵する資料。寄託時期により2群に分けられる。

第1次分は739点。大國家は中世には「大黒党」の名で知られる陰陽師の家で、近世には蔵人方の陰陽のことを司る地下官人として、正月の左義長の執行、6月の土用に行う水合のお祓い、9月の重陽の節句に菊を並べる御用を勤め、西院村(京都市右京区)3石の知行地を拝領していた。禁裏で勤める一方、白川村等の京都周辺の村々の雨乞いや竈祓い、公家や町人等の占いやお祓いなどにも携わっていた。近代になると、奈良県職員・司法省職員・京都市会議員・奈良市長等の公職についた。

主な資料は、左義長等の宮中行事の記録、陰陽師の活動や組織に関する資料、弘化2(1845)～明治3年の日記、寛文11(1671)年の白川村の雨乞祈祷の礼状、文久3(1863)年大國殿造営一件、知行地西院村に関する記録、幕末・明治初期に尊王攘夷派公家鷲尾隆聚・滋野井公寿等に従って行動した記録、明治初期の奈良県の資料、議員任命書・各種団体委員等の委嘱状などがある。

特に「土御門一件之記」「土御門家一条越書」等は近世の陰陽師を統轄していた公家の土御門家との関係が記されている。

第2次分は1点。永禄2(1559)年に正親町天皇の即位にあたって大國家が髪飾りを調進したことを殊勝に思い、陰陽師としての権利や諸役免除を認めたもの。

大國家由緒書(おおくにけゆいしょがき)

集古5074

近世の地下官人大國家に伝来し、大國家が所蔵する資料。その家の系図/由緒書。2点。

大久保家文書(おおくぼけもんじょ)

館古028 館古487 館古533

伏見奉行所領地の深草村(京都市伏見区)の庄屋である大久保家に伝来した文書。受入時期により3群に分けられる。

第1次分は78点。記録類が多いのが特色である。文政9(1826)年日記、天保13(1842)年～弘化3(1846)年村方諸日記、弘化3年～嘉永4(1851)年村方諸日記、安政2(1855)～安政4年日記があり、

安政6年から慶応4(1868)年まで1年各冊の万留帳がある。

さらに、明治2(1869)年～3年・同4年の諸事留がある。

また、明治6・7・8・10・11・12・13・14年の大久保氏諸雑記が1年各冊で残されており、とんで明治45年と大正3年(1914)年の日記がある。

そのほかでは、井手の修復の勘定帳が幕末から明治初期にかけてまとまっている。

その他の大部分が同家の金銀出入帳である。

このほか、同家が津国屋の屋号で竹商売をしていた文政9年の「竹屋仲間諸記」をはじめ、竹商売に関する証書類が若干ある。

第2次分は1点。第10代当主大久保治郎右衛門が明治26年に記した「誓盟遺訓書」。家訓と天保年間から明治20年の記録等が纏められている。

第3次分は13点。享和・文化年間頃の「諸事覚」、明治4年の米納でなく金納にしてほしい旨の「願口上書控」等、深草村だけでなく、周辺の伏見奉行所領地村々の状況も知ることができる資料が含まれる。

大塩平八郎倅格之助乱妨日記ノ写(おおしおへいはちろうせがれかくのすけらんぼうにっきのうつし) 館古524

明治11年3月の出版物の手書写。天保8(1837)年「大塩平八郎の乱」についての後年の記録。1点。

大西家文書(おおにしけもんじょ) 館古543

伏見稻荷大社の社家に伝来する資料。4点。

応永年間頃の足利義持自筆御教書、寛永年間頃の後水尾天皇筆和歌及び聖護院道晃筆和歌、享保年間頃の荷田春満短冊。

大橋慎三書状(おおはししんぞうしょじょう) 館古516

土佐藩士大橋慎三の岩倉具視宛の書簡。明治初期の新政府の諸問題についての意見等。24点。

大森鐘一関係資料(おもりしょういちかんけいしりょう) 館古390

「抄録」という表題が付けられた8冊。

大森鐘一は、第10代の京都府知事。読書家で、学問の調査に熱心であった。膨大な量の公私の日記・紀行文・読書メモなどを書き記したが、それらは関東大震災ですべて灰燼に帰した。

「抄録」は、その後の読書メモと調査の際に書写した資料である。没後約3,000枚のメモとして残されていたのを遺族が8冊にまとめた。表紙の布は、読書に耽った書斎の机に敷かれていたものである。本人の感想が書き込まれた読書メモもあり、書写されている資料の中には現在伝わっていないものがかなり含まれている。

岡田平左衛門家文書(おかだへいざえもんけもんじょ) 館古406

丹後国中郡延利村(現京丹後市大宮町)の庄屋、岡田家に伝来した文書。68点。

文政3(1820)～慶応4(1868)年。久美浜代官所あて「家数人別増減差引帳」「検見入用控」「稲目録帳」「畑目録帳」「屋敷改高帳」「御用留」等、村政に関わる文書27点。頼母子講等、講関係文書16点。「大福帳」「当座覚」等、家政に関する文書等25点である。

岡本家文書(おかもとけもんじょ) 館古172

上賀茂神社の社家岡本家に伝えられた文書7点。延宝6(1678)年「西賀茂村手引帳」、元禄5(1692)年「社中御朱印式千五百七拾余石高改吟味有之書出留」、享保2(1717)年「西賀茂領高納帳」、享保9年「一番衆岡本宮内大輔家領分」、同年「別御朱印岡本宮内大輔家領分」、同年「御朱印分上賀茂村之内領地根帳」、年未詳「家領根帳」。

岡本春暉旧蔵資料(おかもとしゅんきききゅうどうしりょう) 館古088

岡本春暉は、名を重美、養徳齋と号し、明治

初期に京都で活躍した画家。絵画のほか有職故実に関心もち、随筆も書いた。資料は42点。

最も古いものは、慶長4(1599)年の「豊臣秀吉葬送行列書」であるが、大半は幕末から明治期にかけてのもの。

絵画関係の資料としては、「本朝名画家肖像」、「和美人之図」、「有職図」のほか、模写としては「吉田故法眼守清門弟竹内観家重方絵写」、「笠置山之城并四方手配堅固図写」、明治17(1884)年「御修繕後桂御離宮絵図」、「関東幕府城御本丸建物細見図」などがある。ほかに随筆「老のかたみ」、「油断大敵顔(わら)ふべ誌」、「老のみやげ」などがある。

岡本保止家文書(おかもとやすとめけもんじょ) 館古112 館古477

上賀茂神社の社家から分かれた岡本家に伝来した資料。初代当主が建築設計の仕事をしてきた。

受入時期により2群に分けられる。

第1次分は点数150点。神社関係の資料としては、岡本家の家譜が6冊、神系図・賀茂氏系図など9点。神道に関するものとして神祭式諸書・神祭聞書など9点。

建築関係では京都大学新設仕様書、内大臣官邸鞘之間規矩之図など仕様書・絵図面68点。大正2(1913)年の正倉院修理に関するもの23点。

このほか、明治26(1893)年・同28・29・30年と昭和15(1940)年の日記等がある。

第2次分は19点。大正2年の正倉院解体工事の写真等がある。

小木貞一文書(おぎていいいちもんじょ) 館古230

衆議院法務委員会専門委員小木貞一の許に残された書類綴。昭和26年「京大事件関係書類」、昭和32年「京都地方検察庁送付資料綴」の2冊。

小沢家文書(おざわけもんじょ) 館古126

麩屋町通夷川下ルの布袋屋町(古くは布袋町)に住み、明治初年には同町の戸長を勤めていた小沢家に伝えられた文書、13点。すべて明治期

のもの。

町関係のものとしては、明治19(1886)年の「布袋町小沢正平町用諸控」や明治21年の「小沢家町惣代二付手覚」などがあり、私的なものとしては、明治8年「布袋町小沢家諸控」や「小沢家類例記」などがある。

織田信定折紙(おだのぶさだおりがみ)

中館古003

年紀を欠くが、3月29日付で織田彦七信定が、八条遍照心院の石、七条の升石に関する信長の命令を遍照心院知事に伝えた文書1点。もと大通寺に伝来したもので、昭和52(1977)年当館の所蔵となった。

小野家文書(おのけもんじょ)

館古334

乙訓郡上植野村(現向日市)西大路家領の庄屋であった小野家に伝来した文書、351点。元和元(1615)年から明治23(1890)年に至る。

上植野村は、総村高1,300石近い大村で、禁裏御領116石余、聖護院宮領233石余、姉小路家領180石などからなるが、うち80石余が西大路家領であった。

文書の内容は、小野家の経済活動(土地集積)を示す売券が大半を占め、残りが庄屋としての西大路家と他村との往復文書である。

売券は、田畑・家屋敷のほか藪を対象としたものも見られる。本物返売券が77点、売渡証文が69点、田畑質入証文が11点、質流田地引渡証文5点、田畑譲渡証文が3点、土地の移動に関するものが165点にのぼる。このほとんどが小野家の所有に帰する。また、ほとんどが上植野村村内の土地であるが神足・鶏冠井・今里など近村の土地も含まれる。

延宝5(1677)年と同8年の小野家の「高目録」があるが、これらは「禁裏御領・聖護院様領」、「極臈領」であり、他家領にも土地を所有していたことがわかる。

次に銀子の請取や預り証文が11点、借用証文が11点、明治以降の借金証書3点がある。

米関係の文書としては、借用や取替証文などで6点が残る。田地の移動に伴い小作関係を引き継いだ「小作請状」が9点、ほかに「売渡田地二付詫一札」2点など「一札もの」が12点ある。「皆

済状」は16点であるが、実際は41通である。ほかには西大路家からの書状や覚類で、その大部分は欠年である。

なお、「造作願」が5点あるが、村内の無住の寺などを再建しようとするもの。また、最古の文書は「上植野村姉小路領指出帳」(元和元年9月付)である。

御布令之訳(おふれのわけ)

館古107

明治9(1876)年10月2日付の京都府令第385号で出された違式?違条例の各条を挿絵を入れて解説したもの、2枚。

法令の内容は軽い犯罪や処分について規定したもので、現行軽犯罪法の前身ともいえる法。明治6年7月19日付の太政官布告256号により、各地方に公布・施行が命じられたものである。前編は違式之部52条の、後編は?違之部52条の解説をしている。

「か」から始まる文書

利田家文書・甲(かがたけもんじょ) 館古067

綴喜郡宇治田原郷の庄屋であり、明治初年には惣代や村長を勤めた利田(かがた)家に伝えられた文書、478点。うち28点が江戸時代のもの、残りはすべて明治期である。

江戸時代の文書は、元禄16(1703)年「四ヶ村高目録」、天保3(1832)年「禁裏御料村高小物成高書上帳」のほかは、大部分が年貢の免定や皆済目録である。

明治期のもものでは、地租改正に関する史料が23点、うち10冊の「日誌簿」には詳細な記事が見られる。

このほか、宇治田原村字奥山田4番組惣代として利田金五郎が記した「日誌録」が、明治29(1896)年3月から同34年5月まで17冊が残っている。

また、この地方では山林業が盛んであったために、官地の借用や払下げ、あるいは境相論に関する史料が多く、その関連絵図類も22点ある。

このほか議案書・予算書・決算書の綴りなど宇治田原村会に関する文書が20点。

利田家に関するものとしては、同家が灰商をしていたために「灰之通」が30点、「万附込日記自家栄帳」47冊がある。このほかは証書類と書状が大部分である。

各商業人調(かくしょうぎょうにんしらべ)

館古496

明治14年の京都府内全郡別の商業人に関する統計書。1点。

家訓(かくん)

館古148

商家の家訓1冊。どの店の家訓であるかは不明。25カ条からなり、「天明二年寅秋西山」の奥書がある。

風間家文書(かざまけもんじょ)

館古326 館古262

葛野郡下桂村(現西京区)に住し、地主・山持ちであった風間八左衛門の家に伝わった文書、甲群100点、乙群33点。明治9年(1876)年から同43年に至る。

ほとんどが所有する山林・立木に関するものであるが、中でも伐木願書が圧倒的に多い。樹種を指定するもの、下木・下草をはらうもの、間引きを願うものなど71点。

ついで開墾関係で、「開墾願」、「地目替願」、「起返地賦税願」、「開墾地鍬下年期明上申書」などがある。

公共奉仕的なものとして、「石垣自費修繕願」関係、「砂防工事献金文書」、献地願・寄付金願が各ずつある。

ほかは請願巡查の配置願書が、借用証書、八左衛門の買得証文などである。

乙群は、証書類が大半で、山売渡証文、田地質入証文、銀子借用証文などである。

加地家文書(かじけもんじょ)

館古195

北桑田郡室谷(しつたん)村(現京都市右京区)の庄屋であった加地家に伝わったもので、寛保2(1742)年から明治5(1872)年に至る252点。

室谷村は、寛文4(1664)年以来園部藩領となるが、その代官所である「井口役所」(又は「井口謙輔」・その奉行)との往復文書が51点あり、うち38点は井口役所からの達・廻状・請取であって、とくにその内2点は「三御代官所」からのものであり、藩内一円に下されたものと推測される。室谷村の庄屋から、他の村の庄屋と連署で井口役所へ上げたものが願口上書・年貢上納通など13点ある。

室谷村は、田貫村・佐々江村など近隣の園部藩領諸村と村組(田原組と呼ばれた)を作り行事を持回りして、「小川惣代」と呼ばれる機関と、組割銀の授受などを行っていた。この村組との往復文書が40点残っており、いずれも請取覚・請求覚などの金銭証文か、書状類である。

横帳類には、「算用帳」、「年貢請取覚帳」、「諸造用控并使帳」など庄屋としての公文書が多いが、「組割勘定帳」など村組行事の公文書をも含み66点がある。

加地家の私文書としては、「銀子借用証文」

が43点残るが、うち5点は庄屋として請人に立ったものであり公的要素も持つ。

なお、最も古いものは寛保2年8月付の「免相目録」で、差出人は「免場(黒印)」となっている。

梶田家文書(かじたけもんじょ) 館古102

宮大工で御所・離宮・御陵の修復に携わった梶田家に伝わったもの、28点。内裏御所関係のものが11点、二条城が2点、桂離宮関係が3点、その他12点に大別できる。さらに内裏御所関係分は、寛政度造営・安政度造営・その他に分けられる。

寛政度造営分は、禁裏御所御指図、仙洞御所御指図、中宮御所御指図の3点で、ともに文化7(1810)年2月に望月扶嘉により書かれた彩色の書絵図。のち、安政度の造営に際して作事箇所・間尺寸法の変化など、後日の要件も貼紙で付加されている。

安政度造営分は、彩色書絵図の紫宸殿御構附属建物図、清涼殿御蔵人廂外4カ所御構附属建物図1点2通と明治32(1899)年に主殿寮出張所で写された安政度禁裏御所准后御殿御絵様出来形書1冊。

それ以外の御所関係分として、明治37年現在の御所、桂宮、二条・修学院・桂の離宮、主殿寮出張所等の構坪・建坪・襖絵・建物指図を記した大工の懐中帳1点、明治37年仙洞御所御池在来石橋改絵図1点、主殿寮出張所で記された仙洞旧院之記1点、明治38年調仙洞旧院大宮御所平面明細図1点、旧御苑内旧公卿屋敷図1点、主殿寮出張所指図1点がある。

二条城関係のものは、作成時が不明の二条城指図并二条離宮本丸御座所地図1点2通と大正元(1912)年現在の二条離宮平面図1点である。

桂離宮関係分は、昭和29(1854)年に梶田房子氏によって写された桂離宮之記2点、桂離宮誌1点である。

その他、明治39年の九条家墓所築営明細書1点、石棺等之図1点、御陵所設備之図(青写真)1点、某寺方丈木豎組之図1点、常照寺之図1点、正法寺之図1点、大師堂小屋組建絵図1点、明治20年梶田記の見分録1点、愛宕郡修学院村地籍図1点、同郡高野村地籍図1点、故実叢書中昔京師地図1点、日本政記(1)(木版本)1点がある。

片山安右衛門家文書(かたやまやすうえもんけもんじょ) 館古336

船井郡大簾村(現京丹波町)片山安右衛門家に伝来した、安永8(1779)年から明治32(1899)年に至る文書、38点。

安政5(1858)年1月、安右衛門は2点の分地証文により、本家片山常右衛門から山林・田畠の分地を受け、分家を立てた。これ以前に11点の山林・田畠・屋敷の売渡・質入証文があるが、直接には安右衛門に関わらない。

分家後の同種証文は5点。横帳が4点あるが、祝儀の控など私文書のみ。冊子に明治6年の「丹波国六郡旧地頭御領私領高集帳写」があり、71紙の大冊である。

ほかに、慶応(1865~68)ごろの園部藩代官井口謙輔からの達が2点ある。

桂宮家領村関係絵図(かつらのみやけりょうそんかんけいえず) 館古481

桂宮家領(川勝寺村、宿村、下桂村、徳大寺村、御陵村、開田村)の村絵図21点。

主なものに正保2(1645)年「開田村絵図」、享保21(1736)年「桂川井関用水樋粗絵図」、文化元(1804)年の桂宮家領村々の絵図、明治2年の桂川筋堤見分の絵図等がある。

狩野家文書(かのうけもんじょ) 館古254

綴喜郡上奈良村(現八幡市)の医師吉田意安領の庄屋であった狩野家に伝えられた文書、8点。延宝7(1679)年上奈良村検地帳、元禄7(1694)年淀町助郷村定、元禄12年上奈良村検地野帳、文化4(1807)年上奈良村名寄野帳、天保15年(1844)年山城一國惣高集帳、元治元(1864)年宗門改帳、慶応4(1868)年免割帳、明治4(1871)年村定がある。

上京下一条組古町中文書(かみぎょうしもいちじょうくみふるまちちゅうもんじょ) 館古501

文化14(1817)~文政元(1818)年の町代改義の

一件に関わる資料。御答書之写。1点。

上京第廿一区式拾二町組月行事記録(かみぎょうだいにじゅういっくにじゅうにちょうぐみつぎぎょうじきろく) 館古271

丸太町通北、御所の西側にあたり、春日町など22町で構成されていた上京第21区の記録1冊。

同区では、明治9(1876)年11月に月行事の順序を定めていたが、このときから明治15年までの間に、月行事によって作成された記録である。

上下京惣紅屋仲間文書(かみしもぎょうそうべにやなかまもんじょ) 館古136

総点数5点。天明4(1784)年の御用達紅花仲間拾式軒願立一件之写、文化14(1817)年禁裏御宦服山科様御調進御用紅花一件のほか、残り3点は嘉永年間の仲間再興に関するもので、嘉永6(1853)年12月付「上下京惣紅屋名前帳」「御用紅花撰方仲間名前帳」と、安政3(1856)年3月までの「仲間再興諸用留」である。

神原善三郎家地券(かみはらぜんざぶろうけちけん) 館古306

加佐郡神崎村(現舞鶴市)の神原善三郎家に伝わった地券、27点。明治10(1877)年から同21年までのもの。地域は加佐郡東神崎村・西神崎村のものである。

亀屋町文書(かめやちょうもんじょ) 館古132

河原町通荒神口東入る北側の亀屋町(通称吉田口亀屋町)に伝えられた町文書、6冊。

第1冊は表題が欠けているが、御触・町控・口上書などを書きとめたもの。寛文10(1670)年から明和8(1771)年の記事が含まれているが、必ずしも編年になっておらず、成立の事情は明らかでない。

第2冊の「覚」は、前述のものと同じ目的で作成されたものであるが、ほとんどが借屋請状。

宝暦2(1752)年から明和8年までの記事を含む。

第3冊の「式目帳」は、寛政12(1800)年から文政8(1825)年までの借屋請状である。他は、明和4年沽券改の控、明治3(1870)年の「御布令書之写」、明治7年の町中地券の写である。

賀茂川堤奉行角倉関係資料(かもがわつつみぶぎょうすみのくらかんけいしりょう) 館古498

安政5(1858)年の角倉氏の総領変更願書。1点。

加舎家文書(かやけもんじょ) 館古234

明治前期に高辻通新町西入ル堀之内町で高辻会社と称し運送業を営んでいた加舎家に伝えられた文書、3点。

加舎宗忠の「見聞録」と表題された同町各家の建坪・地価の一覧や京都府への口上書の写などの町記録の記事と軽運車の寸法書や運送賃などの控が記されたもの。

他の2冊は、加舎辰茂の明治20(1887)・21年と同22・23年の日記。

なお、この文書の中心部分は関西大学図書館が所蔵しており、『関西大学法学論集』の33編の1から35編の2まで6回にわたって翻刻されている。

唐橋村禁裏御領庄屋文書(からはしむらきんりごりょうしょうやもんじょ) 館古250

葛野郡唐橋村(現南区)の禁裏領の庄屋某家に伝えられた文書、23点。

用水関係の史料がもっとも多く安政年間(1854~60)を中心に7点。内検帳3冊のほかは、まとまりを欠くが、宝暦5(1755)年9月他国藍回送停止二付口上書、天明5(1785)年4月家数人別牛馬数改、寛政6(1794)年6月村定書、同8年6月村掟帳などがある。

仮御役中日記(かりおんやくちゅうにっき)

館古464

二条城にあった御蔵を管理する番衆の享保16(1731)年1月分の勤番日記。1点。

1ヶ月分しかないが、畿内近国から搬入される米の量、払い出しの量等が記され、また、京都町奉行所、角倉、小堀、京都市中の庶民への米の供給の大本締めであった米会所等の記事もある。この日記により、御蔵の活動内容が知れ、また当時の米の動きを知ることができる。

革嶋家文書(かわしまけもんじょ) 中館古004

京都市西京区川島の革嶋家に伝来した文書、2,129点2,744通。

昭和49(1974)年当主の革嶋廉三郎(故人)氏が、家伝の文書を長く後世に残すため、当館に寄贈された。内容は鎌倉時代から大正年間までの約800年に及ぶ革嶋家の歴史を物語るものである。

革嶋家の祖は、鎌倉時代初期の常陸介佐竹隆義の弟の義季で、源頼朝の佐竹討伐の際に山城国葛野郡革嶋南庄に逃れ、同庄の領主近衛家の下屋敷に蟄居したと伝えられている。やがて、革嶋氏を名乗り、代々革嶋南庄の下司職を相伝した。

南北朝時代には、革嶋幸政が足利尊氏に従って軍功があり、幕府御家人に取立てられ、同庄の地頭職に補任された。

戦国時代、親宣・泰宣の代に近郷の田地を買得し、京郊西岡一帯の有力な在地領主に成長した。織田信長が入洛すると、これに従い、細川藤孝・明智光秀らの下で軍功をあげたが、豊臣秀吉の時代に、明智との関係を疑われて牢浪となり、江戸時代を迎えた。

江戸時代の革嶋家は、革嶋の旧地に居住し、牢人として苗字帯刀を許される身分を保ち、一時は備後福山藩水野家に仕官したり、公家の鷹司家に奉公したこともあった。また、肥後細川家からは、江戸時代を通じて扶持米を受け、藩主の参勤交代の際には大阪・伏見において御目見得を受けていた。

江戸中期の著名な儒者で大阪懐徳堂塾主中井竹山は革嶋家の姻戚にあたり、竹山は革嶋家々産の再建に尽力。

幕末には、当主有尚が尊攘運動に加わり、肥後、薩摩、長州の諸藩士と交流を持ち、維新の戦争では有栖川宮の下で旗本隊軍監を勤めた。

維新後、有尚は病気のため政府への出仕ができず、士族にも列せられず不遇の時代を送ったが、大正2(1913)年に長年の運動が実って士族編

入が認められた。有尚の子?太郎は、医学を学び、医家としての革嶋家の基礎を築いた。

革嶋家文書は、このような革嶋家の長い歴史の中で、蓄積された。約2,000点のうち成巻されたり、特別の箱に収納されている別編の文書が59点、それ以外の中世文書が137点、近世文書が約1,600点、近代文書が約450点。別編文書は革嶋家の重書類である。

革嶋南庄下司職文書1巻16通は、革嶋氏がはじめて革嶋南庄下司に補された補任状や、同庄の鎌倉時代末の坪付絵図など、中世の革嶋氏の最も重要な文書である。

「家宝遺墨」4巻(上・下・乾・坤)は、織田信長・羽柴秀吉・細川藤孝・明智光秀・滝川一益・柴田勝家ら信長とその重臣らの文書を編集したもので、他に数通の戦国期の幕府奉行人奉書を収める。江戸時代に細川家との関係を意識して、家宝として成巻したものと考えられる。「細川家中判物」2巻14通は、江戸時代、細川家の慶弔や御目見得について、革嶋家に通達した諸文書を集めたものである。

「三条西実隆・公条消息」1巻5通、明智光秀・里村紹巴・玄仍連歌切1通、「諸大名花押文書切聚」は、文人革嶋幸元らの蒐集品であろう。幸元は、17世紀後半から18世紀初頭の人で、「源氏佐竹革嶋之系図」1巻及び「源家革嶋之伝記」1巻(ともに「続群書類従」所収)を編纂し、「農書」「地方意通心得序」をも著わしている。

「中井竹山手記帳面并願書案」5冊は、竹山が革嶋文蔚の後見人として、家産の管理、再建に当たったときの帳簿類である。

中世の文書は、正嘉2(1258)年法花寺供田関係文書をはじめとして、室町・戦国期に革嶋親宣・泰宣らが、買得した土地の証書類とその証拠書類が大半を占める。その他、革嶋南庄下司職関係文書及び尊氏に従い同庄地頭職を得た文書の案書類がある。

近世の文書は、革嶋家の田地の本物返買売券や三宮神田の年貢皆済書などの土地・年貢関係文書、その他家事に関わる金銭の請求・請取類が、半数を占める。

その他、幸元の水野家仕官関係文書、鷹司家への奉公(関東下向扈從)関係文書、中井竹山の計らいによる文蔚の肥後下向関係文書、細川家中や阿蘇大宮司からの書簡類、さらに、幕末の尊攘志士からの手紙や、有尚自身の薩摩藩京屋敷潜伏中の見聞録などが主なものである。

近代の文書としては、品川弥二郎や高崎正風らとの交友を示す書簡類、有尚の陵掌や大原野神社宮司としての活動を示す書類及び士族編

入運動に関するものがある。

絵図として、中世の地侍の館を窺わせる革嶋家屋敷絵図など21点が含まれている。

なお、平成15年に国の重要文化財に指定されている。

川嶋村文書(かわしまむらもんじょ) 館古351

葛野郡川嶋村(現西京区)の庄屋仁左衛門家に伝えられた文書、13点。

もっとも古いのは延宝7(1679)年6月の同村検地帳である。検地帳はほかに天明6(1786)年10月の同村「新田検地帳」があり、京都郡代小堀数馬邦直の署判・割印がある。宝暦10(1760)年3月の「山城国中八郡村高」は写である。

ほかに嘉永6(1853)年2月「和宮様御領御渡之分川嶋村高反別小前帳(東蔵分)」と、同1日付で同様の「小前帳」が3冊ある。

残りは寛政10(1798)年12月「仙洞料免割帳」、享和3(1803)年11月「禁裏様免割帳」、嘉永6年「初納銀取集覚帳」、安政4(1857)年12月「免割上納取集帳」の4点。ほかに嘉永5年10月の高札屋形の普請願などがある。

革棚町文書(かわだなちょうもんじょ) 館古192

四条通新町西入ル革棚町(現郭巨山町)の文書、20点。すべて宗門人別改帳である。弘化3(1846)年から明治元(1868)年のものである。

管内図(かんないず) 館古429

全国の管内図を中心とした地図、29点。

大部分が明治期に作成されたもの。京都府については京都府管内地図3点をはじめ、京都市実測図、伏水絵図、京都伏見間道路地図、船井郡蒲生野牧場一円の実測図の7点。

また、近畿地方の地図は、「撰津国能勢郡、丹波国桑田郡国界図面」「滋賀県管内実測図」「琵琶湖疏水址図」の3点がある。

「き」から始まる文書

木崎家文書(きざきけもんじょ) 館古545

京都府職員の辞令類。明治5～21年。51点。寄贈。

北尾家文書(きたおけもんじょ) 館古084

江戸時代には葛野郡西七条村(現下京区)の天領分の庄屋であり、明治初年には同村の戸長を勤めた北尾家に伝えられた文書、56点。うち9点が江戸時代のもので、他は明治期のものである。

江戸期のもものとしては寛政12(1800)年の五人組改帳、文化3(1806)年の百姓貯夫食并御下穀囲高帳、文政12(1829)年の畝高名寄帳などがある。

明治期のもものでは、明治6(1873)年までの租税の定状・仮状・皆納目録15通。明治5年地券願綴帳・同8年内見帳・同11年一筆限帳など地券発行と地租改正に関するものが7点。ほかには、国・地方税や学校費の徴集に関するものが多い。

北垣国道関係資料(きたがきくにみちかんけいしりょう) 館古440

京都府第3代知事北垣国道に関する資料、37点。文書6点、写真24点、揮毫6点、北垣家々紋入り大袱紗1点からなる。

文書資料のうち2点は、榎本武揚に宛てた北垣国道書状で、明治19(1886)年5月12日付のものは母葬儀に際しての礼を述べたもの、同27年1月31日付のものは農商務大臣の職にあった榎本に対し、次官として山内堤雲を推挙したものである。

3点目の北垣書状の下書は、三男旭に関する内容のものである。

4点目は7月23日付の母からの書状。

5点目は明治44年の辛亥革命で清国に武官として赴任している旭に宛てた建仁寺の僧島地黙雷の書状。

6点目は故池田旭表白文である。

写真資料は北垣国道、榎本武揚、島津忠重(公爵)、瓜生外吉(海軍大将)、池田旭等の肖像写真や田辺朔郎夫妻の金婚式を撮ったもの。

揮毫は北垣国道のもののほか、田辺静子(朔郎の妻、国道の長女)のものがある。

北垣国道書 銘文拓本(きたがきくにみちしよめいぶんたくほん) 館古469

三重県楯形水力発電所取水トンネル口に刻まれた北垣国道が記した銘文の拓本。1点。

北川家文書(きたがわけもんじょ) 館古508

京都市左京区の米穀商の文書。米の仕入れ・販売・集金に関わる台帳類。明治22～昭和11年。32点。

北小路家文書(きたこうじけもんじょ) 館古307

もと近衛家に諸太夫として仕えた北小路家に伝えられた文書、11点。

明治4(1871)年1月から同21年にかけての「諸願伺届留」と北小路俊良書状1通のほかは、すべて届類である。

北野神社文書(きたのじんじやもんじょ) 中館古006

全5通が1巻に成巻され、印文「天満宮印」(陽刻)の朱印が捺されている。北野神社の神宮寺政所から出された社僧(大法師禅堯・権上座禅興・大法師禅春)の補任状3通と寛永13(1636)年11月6日付の社領割付目録及び社法等覚である。

北袋屋町文書(きたふくろやちょうもんじょ) 館古513

北袋屋町(現在の下京区船鉾町)の祇園会についての元禄～文化年間頃までの記録「祇園会地之口古例帳」、天保13(1842)年「祇園会質素儉約帳」。2点。

吉祥院村文書(きっしょういんむらもんじょ) 館古220

紀伊郡吉祥院村(現南区)の耕地整理などに関する図面12点。年未詳、彩色。

木戸孝允書簡(きどたかよししょかん) 館古231

木戸孝允の書状3通を1巻に成巻したもの。

1通目は1月4日付で孝允名義、宛名なし。華士族削禄・民選議院(設立)に論及しており、明治7(1874)年のものと推定される。

2通目は8月16日付「来島」名儀で村田宛。

3通目は木戸準一郎名儀で山田市之允(顕義)宛。2・3通目はいずれも会談の連絡である。

なお、巻末に、自筆であること、来島(又兵衛)の匿名を称した事情に関する看雨(村田峰次郎)の奥書がある。

木下家文書(きのしたけもんじょ) 集古M138

何鹿郡里村(現綾部市)の木下家が所蔵する文書。132点。

木下家は、近世山家藩の大庄屋も勤めた家である。元禄～明治期。

近世中期の田地・山等の売渡証文類、綾部の古刹仏南寺の銀請取覚、明治期の地券御渡願控、享和～文政頃の山家藩諸事覚等がある。

旧幕府関係資料(きゅうばくふかんけいしりょう) 館古043

明治新政府の成立したときに所司代をはじめとする旧幕府諸機関から京都府に移管されたと考えられる文書、15点100通。京都府の旧1号書庫に収蔵されていた。

(1)朱印状、木箱2函に納められている。

第1函は上蓋に「温恭院様 御代替二付 御朱印」と墨書されていて、中には安政2(1855)年9月11日付徳川家定朱印状11通が納められている。

内容は、いずれも代替りにあたっての所領安堵である。宛名は、上賀茂祝子・龍田大明神本宮・貴布禰明神・(中大路甚助 岡本下野)・上

賀茂社家中・岡本越後・松下三位・森周防・誓願寺・大和法隆寺・(上醍醐)・龍光院である。

第2函にも「御代替二付寺社 御朱印」と墨書され、万延元(1860)年9月11日付の徳川家茂朱印状31通が納められている。宛名は、上賀茂祝子・龍田大明神本宮・貴布禰明神・(中大路甚助 岡本下野)・上賀茂社家中・岡本越後・松下三位・森周防・誓願寺・大和法隆寺・摂津住吉社家中・山崎八幡宮・京都二条秋野道場・五条前中納言・武者小路三位・花園前少将・本国寺・東山永観堂禅林寺・四条寺町勝円寺・三条円福寺・本能寺・清水寺・五条市屋道場金光寺・妙蓮寺・本法寺・妙心寺・三条宝幢院・東福寺・大和安養寺・大和法徳寺・和泉顕本寺である。

(2)御朱印返納帳、天明6(1786)年12月戸田因幡守から元治元(1864)年4月松平越中守まで稲葉長門守を除く歴代京都所司代の「御朱印返納帳」33冊。

このほか京都所司代が在京せず配下の武士が受け取った時に作成された「返上御朱印入記」が10冊ある。これは、返納帳に比べて小型であるとともに記載内容も詳しい。

なお、ここにいう御朱印というのは、朱印伝馬手形のことである。

(3)返納朱印伝馬手形綴、朱印伝馬手形というのは、公家・武家・寺社などが公的な目的で往来する時に伝馬を支給するために出された朱印手形のことである。与えられた人足と馬の数が記されており、これを各宿場の問屋に示すことにより人馬の提供を受けることができた。目的を終えて帰着した時には、この手形を発行者に返納しなければならなかった。

この綴は、京都所司代が発行した朱印伝馬手形の返納されたものである。ただし、綴られたのは京都府の手に移ってからであると判断される。時期は、安政5年11月4日から慶応2(1866)年10月2日までのものである。

(4)(5)所司代注進留2冊、1冊は文化5(1808)年の7月・8月に京都所司代阿部播磨守正由が幕府に宛てた注進状を書き留めたもの。いま1冊は、嘉永元(1848)年4月の京都所司代酒井若狭守忠義の注進状を書き留めたものである。

(6)来翰留1冊、京都所司代大久保加賀守忠真の許に寄せられた公的な書類を書き留めたもので、大部分は老中からの指示。期間は文化13年1月から6月にいたる。

(7)(8)例幣使道中雑用請取帳、宝暦6(1756)年2月に日光例幣使を勤めた五条実栄と同年9月に伊勢例幣使を勤めた藤波和忠の道中の雑用の請取に関する帳簿2冊。

内容の形式は勅使以下衛士にいたる、それぞれの請取を書した上で出納が算用し、伝奏が奥書を加えて京都代官に提出し、さらに京都所司代が奥判を加える形になっている。この2冊は、京都所司代松平右京大夫輝高が奥判を与えるに際して、書き写したものである。

(9)幕律、「公事方御定書」下巻の写である。

寛保2(1742)年に、この書が完成したとき、編纂の中心となった老中松平左近将監が同年4月付の奥書で「奉行中之外不可有他見」と記した如く、現在の三奉行と京都所司代・大坂城代にしか与えられなかった。

(10)法令百箇条、右に同じ。

(11)丹波国郷帳、丹波一国の元禄郷帳で、元禄13(1700)年11月付で福知山藩主朽木伊予守・園部藩主小出伊勢守・柏原藩主織田山城守が提出したもの。

(12)華頂畑・粟田山下畑絵図、弘化元(1844)年冬の作成と記されているが、作成目的は不明。

(13)御土居絵図、洛中の記載を省略し、周辺のお土居だけを記したもの。絵図の成立年代は明らかでない。貼り紙で安政年間の状況変化が記されている。

注目されるのは、絵図の裏表紙に市中取締役の「膳所 篠山 高須蔵」と記されている点である。慶応3年12月13日に膳所・篠山・亀山の三藩に市中取締役が命じられるが、翌年2月21日亀山藩主松平図書頭が親征に供奉することになり役を免ぜられ、さらに、3月4日に多度津藩にかわり、高須藩にかわる。その高須藩も同年閏4月29日には役を免じられているから、三藩が揃うのは慶応4年の3月4日から閏4月29日までの約2ヶ月間ということになる。

同時に、この絵図が市中取締役所において、日常の仕事に利用されていたことがわかる。

(14)改正京町絵図細見大成、天保2(1831)年7月の開版で書肆竹原屋好兵衛が発売したもの。

この版の絵図は数多く伝わっている。ただ、裏表紙に「天保2年卯秋新調 西証文方蔵」と記されていて、絵図が発売された直後に町奉行所が購入し、西町奉行所の証文方において日常の政務を処理する際に利用されていたことがわかる。

さらに、この西証文方蔵を墨抹した上で、「膳所 篠山 高須」と記されており、その筆蹟は、さきの御土居絵図に三藩の名前を記したものと一致する。市中取締役所は、最初、烏丸三条の旧教諭所におかれるが、慶応4年1月11日に東町奉行所に移されている。この絵図が西町奉行所から市中取締役に移り利用されたことが明らか

になる。

(15)御陵并帝陵内かと御沙汰之場所組与力共差遣為伺候書付写、内容は表題のとおりで明らかであるが、さらに、表紙に戸田能登守とあり、奈良奉行が大和の御陵について調査し、京都所司代に報告したものと推測される。

調査の年次は不明であるが、戸田能登守氏著の奈良奉行在任期間は、嘉永5年10月18日から安政5年8月23日までである。

旧峰山町役場所蔵文書(峰山藩関係文書)(きゅみねやまちょうやくばしよぞうもんじょ)
集古M140

京丹後市が所蔵する峰山藩関係文書。御用諸事記、社寺日記、掟、士卒家禄帳等。延宝3(1675)～明治7年。26点。

京市中取締同心日誌(きょうしちゅうとりしまりどうしんにっし)
館古456

京都市中取締役所に勤務した篠山藩士が記した当時の公務日誌と、任務終了後、藩に戻ってからの断片的な役務に関わる日記の2冊。

京都市中取締役所は京都町奉行所廃止後、慶応3(1867)年12月から同4年3月まで置かれた組織で、京都府の前身にあたるものである。

京下鴨神社文書 - 鴨脚家 - (きょうしもがもじんじゃもんじょーいちょうけー) 集古M135

明治大学博物館が所蔵する資料。当館所蔵の「鴨脚家文書」(鴨脚家は下鴨神社の祝家)の関連資料である。

京図名所鑑(きょうずめいしよかがみ)館古538

木版刷りの京都名所案内図。安永7(1778)年。1点。

京都関係版本図(きょうとかんけいはんぼんず)
館古035

京都府庁に所蔵されていた京都の木版地図7点及び書写図8点。

天保3(1832)年刊行のものとして「京町御絵図細見大成」(彩色)と「京町絵図細見大成」2点がある。後者の裏表紙には「西証文方蔵」の書入があり、京都町奉行所で実際に使用されていたことがわかる。

慶応4(1868)年再刊「京町御絵図細見大成」は5点あるが、それぞれ彩色・軍務官・番組の記載などに少しずつ異同がある。

書写図には「中昔京師地図」「京師応仁前之図」(中古京師内外地図)「古今都細見之図」「京都慶長度市中図」「平安城東西南北町並之図」、天和元(1681)年刊「新板平安城并洛外之図」、宝永6(1709)年刊「京絵図」、天明7(1787)年刊「早見京絵図」がある。

京都久世家文書(きょうとくせけもんじょ)
集古M137

明治大学博物館が所蔵する資料。堂上方公家久世家の文書のうち所領(中久世村等)に関するもの。日記・雑記等。229点。

京都学区絵図(きょうとがっくえず) 館古343

学区図11点とその他の絵図、4点。

明治元(1868)年末、京都府は、いち早く小学校開設の方針を明らかにし、翌2年5月に上京第27番組小学校(柳池校)が開設されたのに引き続き、同年末には市各番組を母体に64の小学校が発足する。したがって、小学校と町々の関係が深く、このような絵図が作成される原因となっている。

学区図は、上京第26区(教業校)総絵図(明治6年11月)・上京1番組(乾隆校)之惣町数26町古絵図面(明治2年4月)・上京第12学区(元16組)(聚楽校)図・上京14学区(出水校)総図・上京8区(桃園校)総図・上京5区(室町校)総図・上京第15学区(待賢校)之図・下京25区(稚松校)之図・下京第8学区(粟田校)之図(明治31年10月)・下京第15組(有隣校)測量縮図・下京第21区(六原校)内縮図の11点。

このほか「下京区今熊野字東林寺絵図」「編入前大宮村略図」「東九条村師団道路希望略図」「平安神宮鎮座式之図」(明治28年3月)がある。

京都市商品陳列所・工芸館守衛日記(きょうとししょうひんちんれつしょうこうげいかんしゅえいにつき) 館古300

京都市商品陳列所とその後身である工芸館の公用日記、4冊。

京都市商品陳列所は、明治42(1909)年に市内の重要物産の輸出振興を図る目的で常設の商品展示場として、岡崎公園内の現京都市美術館の一画に建てられた。大正15(1926)年に京都市工芸館に、ついで昭和4(1929)年に京都市商品陳列館と改称した。

京都市商品陳列所の日記1冊は、大正14年2月から8月のもの。他は京都市工芸館のもので、昭和3年1月から8月、昭和3年9月から同4年6月、昭和4年6月から同5年3月までの3冊である。

京都出火之次第(きょうとしゅっかのしだい) 館古512

天明8(1788)年の大火について記したもの。1点。

京都諸酒仲次組合連合名書(きょうとしょさけなかつぎくみあいれんごうめいしょ) 館古328

木版刷りの京都酒類仲次商の組合員名簿6点。明治17(1884)年、同19年、同21年、同26年、同28年、大正2(1913)年のものである。

京都市立第二高等小学校教育資料(きょうとしりつだいにこうとうしょうがっこうきょういくしりょう) 館古310

明治36(1903)年3月「京都地方言并訛言調査表」、明治37年3月「時局問題を教育上に活用する方法」、明治40年5月「装丁検査施行上の所感」の3点。

京都新報社関係文書(きょうとしんぼうしゃかんけいもんじょ) 館古196

油小路御前通下ル(下京区)に所在した京都新報社で作成された文書、29点。

すべて会社経営に関する帳簿で、明治26(1893)年から同30年にかけての「印刷広告料収入簿」「活版インキ通」「製本通」「新報発売台帳」「社員俸給渡簿」などがある。

京都疏水遊船会社創立一件書類(きょうとそすいゆうせんがいしゃそうりついつけんしよるい) 館古362

京都疏水遊船合資会社の書類を1冊にまとめたもの。

同社は、遊船61艘を使用し、疏水を利用して大津・山科・京都・伏見に乗客を運ぶ目的で、明治27(1894)年1月に創設され、同年12月に免許を受けた。

同社の定款・議案書・契約書・業務規定など、同社に関する明治27年分の書類が整理されている。同社業務担当者(社長)横井達次郎の手によってまとめられたものと推定される。

京都武鑑(きょうとぶかん) 館古457

京都所司代、京都町奉行所の役人など幕府の京都関係役人の名簿である。文化6(1809)年版。1点。

京都武鑑(きょうとぶかん) 館古511

京都所司代、京都町奉行所の役人など幕府の京都関係役人の名簿である。弘化4(1847)年版。1点。

京都府地券掛旧蔵文書(きょうとふちけんかかりきゅうぞうもんじょ) 館古081

京都府の地券掛から京都府旧1号書庫に移された文書、835点。

「証拠書類入 地券掛」と墨書された木箱に入れられていた。江戸時代から明治初年の土地の売券や譲状、証文など権利関係を示す文書ばかりである。

文書の内容や箱に「地租改正関係書類」「土地二関スル旧証拠書類」の押紙が貼付されていることを考え合わせると、地券発行の際の証拠書類であったと判断される。

地域的には洛中・山城各郡のものが多く、他は丹波関係が63点、丹後に関するものが2点である。

京都府立医科大学学友会文書(きょうとふりついかだいがくがくゆうかいもんじょ)館古371

京都府立医科大学の学友会館建設に関するもの4点。

内容は、昭和初期と推定される建設趣意書、建設資金徴集内訳、建設実行委員名簿、建設発起人名簿である。

京都盲啞院等平面図(きょうともうあいんとうへいめんず)館古053

建築平面図4点。明治11(1878)年、京都府が我が国最初の盲聾学校として設置した京都盲啞院が、翌12年正式に府立学校となり、府庁前(現第二日赤病院)に移転した際の平面図、敷地図。他に大阪中学校と某郡役所の図面がある。

京都遊覧電気鉄道株式会社創立事務所文書(きょうとゆうらんでんきてつどうかぶしきがいしゅさうりつじむしょもんじょ)館古208

京都遊覧電気鉄道会社に伝えられた文書、6点。

同鉄道会社は、明治39(1906)年12月に創立事務所を開き、明治40年5月に設立申請書を提出した。路線は三条粟田口を起点に動物園・銀閣寺・百万遍を経て、嵯峨・清滝を結ぼうとする大規模なものであった。

明治40年の「京都遊覧電気鉄道株式会社発起

申請書」「京都遊覧電気鉄道株式会社起業目論見書并二工事設計概算書営業上収支概算書」によって、計画の大要がわかる。

このほか、明治39年12月に始まる「日誌」「収入簿」と明治40年5月「郵便発着簿」がある。

明治42年11月8日、京都在住の発起人会が開かれ、事業計画の進捗状況の検討がされるが、この時の「決議録」1点がある。

京都曆道御用諸用留(きょうとれきどうごようしょようとめ)館古301

京都御曆御用所大経師蜂谷内匠明晴の許に寄せられた来翰とその返書を書き留めたもの1冊。明治2(1869)年6月から同6年12月までの記事がある。

切支丹制札(きりしたんせいさつ)館古020

江戸幕府・明治政府がキリスト教・邪宗を禁じた制札、3点。正徳元(1711)年5月(39.3×81.8)、慶応4(1868)年3月(42.2×68.3)、明治4(1871)年2月(35.7×77.6)のもの。

正徳の制札は、キリシタンの宣教師や信徒を検挙するため密告者に賞金を与えることを記している。また、慶応と明治の制札は太政官の名で出されている。

近世先哲遺墨集成(きんせいせんてついでいぼくしゅうせい)館古417

江戸時代に活躍した思想家・芸術家・宗教家等の書状や詩などを、先賢の遺筆として収集した資料、72点。ただし、収集の経過は不明。

伊東仁斎書状、太宰春台書状、松平樂翁(定信)色紙、伊藤東涯書状、三宅觀瀾詩稿、中井竹山書状、尾藤二州書状、斎藤拙堂詩稿、頼春水書状、三宅尚斎書状、柴野栗山書状、斎藤竹堂詩、山木北山詩、安積澹泊詩、葛飾子琴詩、人見友元書状、安藤年山書状、大橋納庵詩稿、市川寛齋筆般若心経、林述斎書状、那波魯堂書状、宮崎筑圃書状、太田錦城詩、岩垣松笛詩、江馬細香書状、秦滄浪書状、中井履軒詩、正徳6(1716)年春伊藤東涯詩、梁田悦庵書状、三輪執斎書状、

栗山潜峯詩稿、原采蘋詩、山縣周南詩、古賀伺庵詩、僧契沖和歌、村田春海書状、伴蒿蹊詠草、沢田名垂書状、小沢芦庵教諭歌稿、横山由清書状、松岡恕庵書状、谷川士清氏書状、足利弘訓書状、秋山玉山詩、奴小万和歌扇面、成島柳北詩、亀井道載詩、小野蘭山詩、藤森弘庵書状、長尾秋水画賛、黄檗独立詩、僧六如書状、細井弘沢書状、加藤千蔭詠草、武元登々庵詩、高天狗詩扇面、龍公美書状、長久保赤水詩、山本琴谷竹画、服部南郭書状、広瀬台山水図、古川子曜画讚、立原杏所扇面、春木南湖詩画、片桐檻石画、長町竹石画、香川氷仙画、渡部小華画、八田小秀画、河村文鳳画、菊池溪琴詩、頼杏坪詩稿からなる。

祇園内八町文書(ぎおんうちはっちょうもんじょ)
館古155

祇園町及び同新地で形成される祇園内八町に伝えられた文書、9点。

天保11(1840)年・同12年の御触留や安政4(1857)年に林下町・橋本町の遊女屋並びに茶屋を外六町へ移す時の取替証文・請書のほか、万延元(1860)年の遊女商売の許可期限の延伸願などがある。

祇園円花楼文書(ぎおんえんかろうもんじょ)
館古319

祇園町の東末吉町にあった円花楼に関する文書、26点。

明治24(1891)年から同40年にかけてのもので、宿料之通・家賃之通等の通類と滋賀県蒲生郡西大路村にあった同家の土地の売買に関するものや金銭の借用に関する証書類である。

祇園社雑掌円明房代慶舜請取(ぎおんしゃざっしょうえんみょうぼうだいけいしゅんうけとり)
中館古005

至徳2(1385)年6月25日付で、祇園社雑掌に祇園社領近江国成安保の下地が打渡された時の円明房代慶舜の請取である。この請取を復命した同年6月晦日付使節請文が、「祇園社記」にある。

「く」から始まる文書

九鬼家履歴集(くきけりれきしゅう) 館古134

「履歴集」という表題をもつ1冊。

内容は2つの部分に分かれ、前半は綾部藩主九鬼家初代隆季の時代の寺社方への寄進状をとりまとめたもの。

これは、享保16(1731)年に綾部城武具方の反古の中から発見し、履歴集のはじめに収めた旨の前書がある。後半の履歴集の部は、隆季から隆都にいたる歴代藩主の事蹟を編年体で記したものである。

口宣案(くぜんあん) 館古529

地下官人三善家当主に対して出された叙任の口宣案。寛政12(1800)年ほか。5点。

国絵図(くにえず) 館古044

江戸時代の国別絵図、105点。

3群に大別できる。

第1群は松平乗命(のりとし)本を書写した国絵図68点、第2群は第1群以外の手書の国絵図28点、第3群は江戸時代後半期の木版本国絵図9点。

第1群は、陸奥国から大隅国まで全国の絵図が完全に揃い(ただし、信濃国は南半分のみ)、帝都図と名付けられた洛中図が1点加わっている。

明治5(1872)・6年ごろ、美濃国の旧岩村藩知事松平乗命が所蔵するものを、京都府が借用し、当時、京都を中心に活躍していた画家約50名を動員して模写させたものである。

現在、原図は内閣文庫の所蔵になっているが、それと比較してみると、非常に忠実に模写されていること、山・田畑や建物の描き方や色彩の使用において各画家の画風がよく表われていることがわかる。

絵図の大きさは、大小まちまちで、最大のも

のは石見国で、縦509センチメートル、横274センチメートル、最小は加賀国で、縦74センチメートル、横99センチメートルである。

一人の画家が一国を基本に担当模写したと思われるが、小さな絵図の場合、一人が5カ国を担当した例もある。

また、記載内容から判断して、正保度と元禄度のものが多く、帝都図は寛文年間(1661~73)の様子を伝えたものである。

なお、模写にあたった画家は、嶋田雅喬・吉阪鷹峯・浅井柳塘・八木雲溪・鈴木瑞彦・重春塘・塩川文麟・村上和光(京都府職員)・今尾景年・秦金石・加納黄文・村瀬玉田・野村文挙・石原蘭石・菱田日東・山田文厚・小沢文隆・土佐光文・山岡墨仙・岡嶋清曠・羽田月州・中西耕石・久保田米僊・岸竹堂・巨勢小石・鈴木百年・林耕雲・幸野樗嶺・中島有章・望月玉泉・伊沢九臯・鈴木百僊・山松泉・永瀬雲山・森寛斎・邸瀬雙石・中島華陽・前川文嶺・桜井百嶺・福島半僊・狩野永詳・田中有美・長野祐親・国井応文・円山応立・鈴木百翠・前田暢堂の47名が確認できる。

ただし、山城・丹波・摂津・美濃の4カ国の模写担当者は不明である。

第2群の国絵図は、信濃・遠江・三河・美濃・尾張・越中・能登・若狭・加賀・越前・伊勢・志摩・伊賀・近江・大和・紀伊・山城・摂津・河内・和泉・丹波・丹後・但馬・播磨の24カ国分ある。その内、信濃・三河・若狭の3カ国絵図は元禄図であり、遠江・越前・志摩・紀伊・山城・河内・和泉・丹波を除く国絵図は、すべて分割図となっている。

第3群の木版本国絵図は、武蔵国全図(橋本玉蘭画図)、慶応4(1868)年発行の甲斐国全図(水戸、鶴峯彦一郎作)、天保6(1835)年刻成の信濃国大絵図(森川保之図画)、安政3(1856)年の近江国大絵図(徒然菴 著)、寛政11(1799)年の丹波国大絵図(矢野貞利著)2点、改正和泉国大絵図2点、嘉永7(1854)年発行の備中国大絵図(松川半山書図)である。

倉橋家資料(くらはしけしりょう) 館古154

祖先が宮津で大工を営んでいた倉橋家に伝えられた資料、50点。

すべて家業の大工に関係したもので、内訳は絵図類が3点、文書類が5点、木版本が42点。

絵図は、縮尺20分の1の頂法寺(六角堂)建地割、

大坂城絵図、屋敷絵図である。

文書は、文化6(1809)年の丹後田辺桂井寺上梁書、弘化3(1846)年の同家の江戸道中日記、辰年の大工請合手形、明治39(1906)年の内務省宗教局達、屋敷格門格次第である。

木版本は、江戸時代の発行で、新撰雛形(1~5)5冊、大和絵様集(1~4)4冊、大工規矩尺集(上中下)3冊、隅矩独稽古(上中下)3冊などである。

黒田地区文書(くろだちくもんじょ)集古M142

旧京北町(現京都市右京区)黒田地区(下黒田村・黒田宮村・上黒田村)の文書。

林業、筏流、献上鮎、村落・家等に関わる中世から近代までの資料。

同地区は江戸時代は初期を除いて禁裏御料で、御所との関わりが深い地域である。

「け」から始まる文書

傾城町文書(けいせいちょうもんじょ)館古251

安政6(1859)年6月、幕府が新河原町通、内野、宮川筋、五条橋下の4カ所遊所の地域拡大を許可したことについて、該当町々の請書等の文書。2冊。

元治元年八月より諸控(げんじがんねん8がつよりしよひかえ) 館古320

元治元年8月から慶応3年頃までの京都守護職役知の村々の石高、人数・諸費用の割当て、会津藩郡役所からの連絡等を書き留めたもの。

記述は、山城・河内・播磨・和泉・近江の村々にわたるが、乙訓郡菱川村の控と思われる。

剣術書(けんじゅつしよ) 館古522

文化2(1805)年の剣術免状。1点。

「こ」から始まる文書

郷土相統願書(ごうしそうぞくねがいしよ)

館古528

葛野郡御所内村(現下京区)に居住していた侍身分の郷土が身分を相統するための安政4(1857)年の願書。1点。

宏寿法印御聞書(こうじゅほういんおんききがき)

中集古S322

平松家旧蔵。中世東寺の僧侶が書いた記録。1点。京都大学附属図書館所蔵。

牛王女畠地譲状(ごおうじょはたちゆずりじょう)

中館古007

文保2(1318)年11月2日に、梅宮社領内にあった平三郎入道作畠の字「御曹司」畠2段の内の1段を、牛王女から乙熊女に譲与された時の譲状である。

料紙は、縦24.7センチメートル、横28.0センチメートル、軸装、杉箱に収納。

五ヶ荘村田原区有文書・甲(ごかしょうむらたわらくゆうもんじょ)

館古324

船井郡五ヶ荘村田原区(現南丹市)の区有文書、40点。

山林や田畑の一切限帳が24冊、いずれも年未詳である。そのほか、区費徴集関係の史料9点のほか、明治15(1882)年「田原村寺院重宝目録」「山地段別収穫帳」などがある。

古久保家文書(こくぼけもんじょ)

館古033

寛文8(1668)年以来、代々上京下西陣組の町代を勤めた古久保家に伝えられた文書、266点。

この古久保家文書の中心は、御触留、御触頭書、町代番日記である。

京都町奉行所から出された命令である御触は、町代を通じて町々に伝えられたが、それを書き留めたのが御触留である。元禄5(1692)年から文化10(1813)年までの分29冊が残っている。

ただし、途中で元禄10年・享保16(1731)年から同18年・天明3(1783)年から同7年・寛政元(1789)年から同5年・享和2(1802)年から文化4年までの分が欠けている。

このほか、「御変革後御触達」として慶応3(1867)年12月以降のものが3冊ある。

御触頭書は、御触の要旨のみを書き留めたものであるが、元禄5年から嘉永3(1850)年にいたる15冊。記事の欠けているのは元禄10年だけである。

日記は、京都町奉行所の勤番日記等である。延宝3(1675)年から文久3(1863)年にいたる36冊であるが、残念ながら途中の欠落も多い。

このほかのものでは、寛文8年に町代になる以前の文書として、慶長9(1604)年の豊国大明神の花笠踊衆への給米請取21点を含む37点がある。

町代となってからのものとしては、寛文8年12月5日付「町代役之覚」以下、年頭江戸下りを中心とした町代の役職に関わる史料33点がある。

私的なものとして、古久保家が年貢の取立てをしていた土地に関して「御本所様年貢納并下作取立帳」34冊とこれに伴う請取数通がある。茶道関係写本46冊も含まれている。

小島家文書(こじまけもんじょ)

館古290

愛宕郡西賀茂村(現北区)の庄屋であった小島家に伝わった文書、33点。

延宝7(1679)年から明治7(1874)年に至る庄屋文書で、私文書はない。

もっとも多いのは、小堀役所からの御触書で、ほぼ半分を占める15点。天保14(1843)年から明治元年に至るが欠年を1点含む。

ほかには、村明細帳・村高帳が各1点、検地帳及び水帳が3点。「宗門改寺請帳」2点、「五人組改帳」1点、人別寄書帳など3点。また、小前帳・小入用帳・勘定帳などが4点ある。

なお、もっとも古いものは、延宝7年6月の「西賀茂村検地帳」である。

後素協会沿革一件資料(ごそきょうかいえんかく
いっけんしりょう) 館古297

明治時代の京都で活躍した画家の結社である後素協会に関する資料、5点。

後素協会の前身は、慶応2(1866)年に土佐光文・鶴沢探真・狩野永詳・原在照・吉村孝一・国井応分が中心となり、新古書画展覧及び動植物写生などの研究のため創設された。のち、明治元(1868)年に後素如雲社と命名し、ついで同28年に京都後素協会と改称した。

明治27年7月の後素如雲社々則、明治28年12月から同30年7月までの委員会議事録、名誉・特別賛成員名簿のほか、後素協会沿革と『後素協会の三十年』がある。

このうち、後素協会沿革は明治29年1月26日の同協会発会式で朗読すべく用意されたものであるが、当日に原在泉が朗読したものと内容が異なるので草稿と推定される。また、『後素協会の三十年』は記念誌として印刷刊行されたものである。

小林家文書(こばやしけもんじょ) 館古282

紀伊郡深草村(現伏見区)で弘化4(1847)年から水車業を営んでいた小林家に伝わった文書、14点33通。うち9点27通は、明治19年から同22年にかけて同業者との間で争われた、使用水契約違反に関わる裁判の関係書類である。

京都始審裁判所の「裁判言渡書」を不服とした被告側(小林家側)が控訴院へ控訴し、この判決にあき足らない相手側が大審院へ上訴し、控訴審棄却・差戻しの判決を得ている。ほか営業に関する願書類3点3通などがある。

小林万兵衛家文書(こばやしまんぺえけもんじょ) 館古403

上京第20区近衛町(現油小路通出下水下ル近衛町)で両替商(鑑屋)を営んでいた小林万兵衛家に伝わった文書、390点。

大別すると会津藩関係42点、博覧会関係10点、普請関係53点、冠婚葬祭関係110点、金銭関係43点、書状類等132点となる。

会津藩関係の文書は、小林万兵衛が会津藩御用達を勤め、幕府への出入を許されていたため同家に残ったもので、安政3(1856)年から明治13(1880)年にわたる。この中には安政の大獄に関して「水戸藩家老家来之処分二付書付」や長州征伐に関係した書状のほか、「会釈米受納挨拶状」「拝領之目録」が含まれている。

博覧会関係のものは、明治6年に京都御所で開催された第2回京都博覧会の際に監護人をつとめたことから「大博覧会物品録」「博覧会場監護人心得書」「宮中絵図(小冊子)」などが残されている。

普請に関する文書については、嘉永7(1854)年から明治36年までのもので、火災の影響による普請のものが多い。嘉永7年「近衛町絵図」や同年「小林万兵衛家絵図」の絵図類をはじめ、「普請方諸事控」「瓦之通」「普請用御見積」「沽券状」「土地所有者住所異動届(控)」などがある。

冠婚葬祭に関するものには、幕末から明治期にわたって「誰々婚礼関係書類」といった一括形式で、主に親類書、目録、献立覚などがまとめられている。他に出産、養子縁組、葬式関係のものがある。

金銭関係では、文久、元治期の家業に関する「節季毎出入書附」「勘定覚」などが大半を占める。

五傍の掲示(ごぼうのけいじ) 館古451

綾部市大嶋村にたてられた明治維新期の高札。3点。

古文書(こもんじょ) 中集古S325

鎌倉後期から南北朝にかけての古文書7通を集めたもの。1点。宮内庁書陵部所蔵。

御用砂子屋美濃地仲間文書(ごようすなごやみの
じなかもんじょ) 館古159

扇・屏風・短冊などに金箔銀箔の箔押し、木版画の模様付け、粉色等を施す、紙の加色を職業とする同業者の仲間文書、12点。その代表者である仲間年寄が代々伝えてきたものと推測される。

内訳は、商売仕法、株異動、奉公人、寄会等々の規定を記した宝暦6(1756)年8月付の仲間定書

(冊子)1点。公式の仲間登録簿で、株の移動増減を随時記入した元株帳(別名、名前帳・仲間帳・印鑑帳)が、寛政9(1797)年・天保11(1840)年・弘化3(1846)年・安政3(1856)年・慶応4(1868)年8月・明治元(1868)年10月付のもの(冊子)6点。天保12年5月と嘉永元(1848)年の出入済状(冊子)2点。

そのほか、文化11(1814)年付の惣砂子屋仲間印札添状(状物)1点。仕掛金取集に関する嘉永元年8月付の示合連判状(冊子)1点。文久2(1862)年11月付の惣砂子屋組分帳(冊子)1点がある。

なお、この文書群については、昭和58(1983)年、当館発行の『資料館紀要』第11号「<史料紹介>御用砂子屋美濃地仲間文書」で全文の翻刻を行い、解説を付した。

近藤家文書(こんどうけもんじょ) 館古144

船井郡上谷村(現南丹市)の近藤家に伝えられた天和元(1681)年から明治14(1881)年に及ぶ文書、160点。

上谷村は、明治9年に他村と合併して世木村となり、現在は日吉町に属する。大部分は証書類であるが、その内訳は、山林売買証文60点、田地売買証文28通、畑売買証文3通、山茶畑売買証文1通、山林質入証文4通、田地質入証文3通、銀子借用証文5通。山林を中心とした経済構造の反映が見られる。

このほか、天明3(1783)年「山こなし場境目二付一札」・寛政12(1800)年「こなし場境目相改二付証文為替ノ覚」・享和2(1802)年「把木保津川下シノ義二付訴状」・同3年「保津川筏下シノ義二付為取替一札」をはじめとする山林関係の史料がある。

「さ」から始まる文書

最勝光院寺領年貢注進状(さいしょうこういんじりょうねんぐちゅうしんじょう)中集古S336

正中2(1325)年3月日。宮内庁書陵部所蔵。

財満家文書(ざいまんけもんじょ) 館古239

財満家は、上長者町通油小路西入ル紹巴町に住んで商業を営んでいたようであるが、その種類はわかっていない。寛政4(1792)年に「毛利讃岐守用達財満左四郎」の名が見え、文化14(1817)年には「毛利甲斐守彦次郎」の存在するところから、長州藩毛利家に入出入する商人であったことがわかる。

文書数は6点、すべて冊子形態のものである。

第1冊目は、延享4(1747)年「御即位御用」は桃園天皇の即位にあたっての諸大名からの祝儀献上に関する1件を書き留めたものである。

第2冊目は「道具之覚」と題されており、天明2(1782)年7月付で交替を伴う御屋敷の道具を書き上げたものである。

第3冊目は、天明7年7月24日から同年11月29日までの日記である。筆者は、不明であるが財満家の当主のものとして推測される。

なお、この日記が11月29日で終わっているのは、筆者が長州へ出発するためであるが、末尾に筆者の留守中に起きた天明大火の様子を記している。

第4冊目の「長門屋ひさ願書并御答」は、寛政4年に長門屋ひさが長門候春光院の許に奉公している娘ゆさの宿下りを願い出た一件を書き留めたものである。この文書が財満家にあるのは、同左四郎が請人となっていたためである。

第5冊目は、文化14年の「御即位御進献一件下調」、第6冊目は同年「御即位二付勤方次第書」である。内容は第1冊と類似したものである。

材木仲間文書(ざいもくなかまもんじょ)

館古333

材木商の同業者団体である材木仲間の文書、1点。

寛政12(1800)年閏4月の「仲間加入二付一札」が2通綴られている。

佐伯村文書(さえきむらもんじょ) 館古156

桑田郡佐伯村(現亀岡市)に伝わった元禄5(1692)年から万延元(1860)年に至る8冊。

「村内諸證文記簿」など、多量の文書を写留めたものが多い。

左官仲ケ間関係文書(さかななかまかんけいもんじょ) 館古493

左官職人の仲間文書。

定書、触書、口上書など。文化3～安政5年。7点

笹屋町三丁目文書(ささやちょうさんちょうめもんじょ) 館古152

笹屋町通智恵光院西入ルの西側町である笹屋町3丁目に伝えられた町文書、60点。

内容は、家屋敷の譲状及び死後譲状で文政10(1827)年から明治期に至るものである。

篠山藩桑田代官所文書(ささやまはんくわただいかんしょもんじょ) 館古276

総点数10点。内7点までが安政2(1855)年12月付で、桑田郡内の各寺院の梵鐘・釣鐘の寸法改の書上げで、他に安政7年の御救米捌方の書上げがある。

佐藤美与士氏蒐集文書(さとうみよじしもんじょ) 中館古008

佐藤氏の蒐集文書、3点。

建武3(1336)年6月日付足利直義願文案1巻と、

貞観13(871)年安倍小水磨願経切1巻、年代不明の起世経切1巻。

足利直義願文案は、建武3年6月、足利尊氏の入京とともに後醍醐天皇が比叡山に逃れた時期、直義は新田義貞を討つため、日吉山王七社に17カ条の祈願をした願文の原文書作成時期に近い案文である。

安倍小水磨願経切は、平安時代の写経切で、安倍小水磨が願主となって写経した「小水磨願経」の一部である。当該経切の章句は、大般若経第249巻の一部であり、黄紙・墨罝の料紙に書写されている。

起世経切は、小乗経典阿含部の起世経で、世界の成立と破壊の時期を説く経典である。当該経切の章句は、同経第7巻の一部であり、紺紙、銀罝の料紙に金泥で書写されている。

佐山重致旧蔵資料(さやまじゅうちきゅうぞうしりょう) 館古252

「元禄八年補略」「諸事ひかえ(虎屋町)」、文政10(1827)年「御上京日記 其壱」「諸事留」、安政7(1860)年「無上覚院様今般紫衣御鈍色勅許二付御参内御列御装束都而之記并即録」の5点。

このうち文政10年の上京日記というのは、文政10年10月から翌年3月までの姫路藩主酒井忠実上京に関するものである。

沢屋吉兵衛家文書(さわやきちべえけもんじょ) 館古277

大仏北門前で瀬戸物商を営んでいた沢屋吉兵衛家に伝えられた文書、13点。

弘化4(1847)年の画師治兵衛の「画物之通」や錦華山宗兵衛・糸ひやの「焼物之通」、嘉永3(1850)年の錦華山宗兵衛・糸ひやの「焼物之通」、明治2(1869)年・3年の帯山の「焼物之通」のほか、嘉永7年の「店卸惣勘定帳」がある。

三光院内府清談(さんこういんないふせいだん) 館古506

三条西実枝著の有職故実書の写本。

内容は、中世末の論旨、勅書、公卿の人員数

など。天保8(1837)年、山科言成の写。1点。

三条白川 西町文書(さんじょうしらかわ に
しまちもんじょ) 館古344

西町(現東山区三条通白川橋東入2丁目)に伝
わった、安政5(1858)年「式目諸用并仕方書」と
明治3(1870)年「式目仕方控」の2冊。

「し」から始まる文書

塩屋町文書(しおやちょうもんじょ) 館古407

河原町通蛸薬師下ル塩屋町に伝来した町文書、
330点。冊子112点、状もの218点。

冊子状のものは、「御触留」49冊、「下宿帳」
36冊、「宗門人別改帳」14冊がまとまりを見せ
るほかは、多岐にわたる。

「御触留」は、寛文9(1669)年から天保4(1833)
年まで断続して残っているが、このうち寛文9年
の1冊は、町の触留としてはもっとも早い時期の
ものである。

「下宿帳」は、朝廷や幕府での儀式に当たり、
将軍の上使として京都に大名が派遣された際に、
足軽などの家臣を民家に分宿させたことに関し
て作成されたものである。享保13(1728)年から
嘉永2(1849)年までのものが残っている。

「宗門人別改帳」は、もっとも古いものが明
和4(1767)年で、その後寛政6(1794)年・文化
14(1817)年・天保15(1844)年のほかは幕末期に
集中している。

「町中諸事控」と表題された、明暦2(1656)年
から宝永元(1704)年4月までの町記録は、町式目
(法度・掟)や年寄廻り持ちの次第、口上書控や
他町との契約を記したものである。

状ものの多くは、町内へ転入するに当たって
借屋人が町へ提出した証文で、嘉永～明治に至
る幕末期に集中して残っている。借屋請状69点、
人別送状19点、宗旨請状26点、身元引取一札22
点などである。ほかに死後譲状が36点ある。

塩屋町文書については、昭和60(1985)年、『資
料館紀要』第13号「<史料紹介>塩屋町文書」

に概要と経過について解説を加え、町中諸事控
など、一部の翻刻を行った。

また、御触留所収の触のうち、他と重複しな
いものは、京都町触研究会編『京都町触集成別
巻二』の元禄4(1691)年以前・補遺に翻刻が掲載
され、巻末に文書の解題が付されている。

志賀家文書(しがけもんじょ) 館古080

加佐郡南山村(現福知山市)の庄屋であった志
賀家に伝わったもの。文化10(1813)年から明治
30(1897)年に至る98点。

近くに真言宗観音寺があり、世話人として活
動したので同寺関係文書が多い。嘉永2(1849)年
の本尊修復関係12点、百番観音建立関係3点、道
具無尽帳など道具関係3点、その他、寺関係の勘
定帳13点、六百人講など講関係13点、銀札出入
勘定帳など9点。あとは「万覚帳」など7点、「酒
之通」など通13点、「漁網料金覚」2点のほか、
諸事控、覚の類が20点、書状3点である。

四条町文書(しじょうちょうもんじょ)寄古010

四条町凱旋船鉾連合会が所蔵する文書。358点。
寛政8(1796)～昭和6(1931)年。

四条町(京都市下京区新町通四条下ル)の幕末
から明治初期の町運営に関係する文書が中心で
ある。

主なものに、御触・布令書59点、宗門改帳・
帯刀人改帳19点、死後譲状115点、人別送り状56
点、寺請状32点、借屋請状33点、地屋敷売買一
札12点がある。

ほかに町絵図、祇園会・鉾修理・地之口米、
小学校建設に関係する資料がある。

江戸時代の四条町は、「南四条町」と「北四
条町」に分かれ、それぞれ下古京仲拾町組に属
していた。祇園会では大船鉾(凱旋船鉾)を巡行
していたが、鉾が元治元年に焼失し、現在は焼
山の居祭りとして祭に参加している。

士族授産会社株券(しぞくじゅさんがいしゃか
ぶけん) 館古489

日本における初期の株券。明治10年。1点。

土豎家文書(したてけもんじょ) 館古071

中世には山城国愛宕郡久多庄の名主であり、江戸時代には久多上村(現左京区)の庄屋を勤めた土豎(したて)家に伝えられた文書、79点。うち9点が中世文書であるが、すべて売券である。

近世文書も大部分が証書類であるが、ほかには元禄13(1700)年の「久多五ヶ村家数改二付指出控」や享保13(1728)年の「久多侍中定書」などがある。

なお、これとは別に近世・近代文書284点が同家から寄託されている。

七条校建築入札見積書(しちじょうこうけんちくにゆうさつみつもりしょ) 館古520

西七条村(京都市下京区)の七条小学校の建築に関わる資料。明治18年。1点。

質屋廿組文書(しちやにじゅうくみもんじょ) 館古494

質屋組合の活動の記録や年番月行事の取り決めをまとめたもの 文化9年~14年、慶応3年。3点。

清水家文書(しみずけもんじょ) 館古384

京都在住の清水家に残った、明治から昭和前期にかけての文書、42点。

同家初代清水定勝は、小浜藩出身で維新後弾正台に出仕した。その関係の文書に任官状、履歴書、復申書等7点がある。その中の「山陰道他巡国巡察御用復申写」は、明治3(1870)年6月に巡国視察を命じられたときのもので、丹波・丹後の諸藩のほか山陰諸藩の世情が報告されている。

二代清水政太郎は、明治後期から大正にかけて、京都帝国大学本部庶務課、ついで日本赤十字社京都支部に勤務した。

その関係の文書は、主に書状で28点。差出者

に京都帝国大学関係者として中川小十郎、新渡戸稲造、織田萬、岡村参太郎、狩野直喜(以上は立命館にも関係)、木下広次、沢柳政太郎、久原躬弦、井上匡四郎など、立命館関係者として末広威磨、日本赤十字社関係として石黒忠憲、などの書状がある。

その他第2次世界大戦の戦意高揚策の戦陣訓扇子、愛国百人一首(色刷色紙)など7点がある。

下京第三一学区資料(しもぎょうだいさんじゅういちがっくしりょう) 館古244

下京第31(一橋)学区に関する書類綴1冊。

内容は、明治22(1889)年から同33年にかけての教育費及び会議費の予算・決算案や議案書である。

下古京上良組町々連判状(しもこきょうかみうしとらくみまちまちれんぱんじょう) 館古312

宝暦8(1758)年に下京川西16町組の内の樋口町が破町になるという事件が起きたのを契機に、上良組の13町が組町の結束を固めることや費用の分配などについて確認した文書1点である。

下佐濃村文書(しもさのむらもんじょ) 館古232

熊野郡下佐濃村(現京丹後市)に伝えられた文書、5点。

同村は、明治22(1889)年の町村制施行により、円頓寺村・長野村・坂谷村・竹藤村・女布村・丸山村・永留村・郷村が合併してできた。

この文書は、その合併後に一括されたものと推定される。

明治8年6月「女布村地券反別惣計書上帳」と年未詳の「郷村現地反別地価一筆限細取調帳」(上下)・「長野村田畑宅地書上帳」「竹藤村田畑宅地書上帳」の5点である。

下橋家資料(しもはしけしりょう) 館古458

公家の一条家の侍・諸大夫(主家の家務を司っ

た人)を勤めた地下官人家の下橋家に伝来した近世から近代に書けての資料、1,647点。

主家一条家宛の「豊臣秀吉判物」、大名の書状、地下官人の家伝の集成である「地下官人家伝」、天皇と公家の名鑑である「雲上名覧」、有職・和歌・歴史等に関する書籍、和歌懐紙、下橋家の日記などがある。

下橋家資料(下橋氏蔵)(しもはしけしりょう) 集古M133

公家の一条家の侍・諸大夫(主家の家務を司った人)を勤めた地下官人家の下橋家に伝来した近世から近代にかけての和歌短冊、和歌懐紙等の資料。2,828点。

下町村文書(しもまちむらもんじょ) 館古199

綴喜郡宇治田原郷の下町村(現宇治田原町)の庄屋文書と考えられる3点。

文化2(1805)年2月「田畑名寄反別下写帳」、同年2月「新開見取并小物成名寄反別帳」、安政2(1855)年6月「土砂留手入場書上帳」である。

下妙覚寺町文書(しもみょうかくじちょうもんじょ) 館古162

慶長9(1604)年8月1日付のものから明和9(1772)年7月12日付までの同町(衣棚通押小路下ル)内の家屋敷の売買証文17通を貼り継いで成巻したもの、1点。これらの家屋敷は、それぞれ異なったものであり、町が保管していたものと判断される。

下村家文書(しもむらけもんじょ) 館古236

江戸時代中期以降京都を中心に発展した呉服商大丸屋の下村家に伝えられた史料11点。すべて冊子。

文化9(1812)年～文政6(1823)年「若州用談留参」、文政5年閏1月「御貸下ヶ金名前帳」、文政6年7月「御下ヶ金仕様帳」、天保3(1832)年7

月「御除料金附券状差上ヶ写」、同年11月「東御役所当座貸附扣」、12月「禁裏御所御下金控」、同13年12月下村正太郎「由緒書」、嘉永7(1854)年「江州布直書一件写」、「御除料由来書」(文久3(1863)年12月)、「諸方金銀融通出入高控」(文久2年ごろ)、年未詳「仕法帳」がある。

ことに、「若州用談留」は、小浜藩主酒井忠進が所司代として在洛中のものであり、同藩との交渉が具体的に記されている。

社寺農商制法(しゃじのうしょうせいほう) 館古272

明治新政府から出された諸法令の木版刷のもの、12点。

明治元(1868)年土籍法・社寺籍法、同2年の寺院制法・社家制法・市中制法・郡中制法・町役心得条目・村庄屋心得条目・町方戸籍雛形・村方戸籍雛形、同6年の暦詔書及び年未詳の他処人來住奉公人雇入仕法書である。

聚楽村文書(じゅらくむらもんじょ) 館古519

嘉永3(1850)年聚楽村(京都市中京区)の若者の喧嘩の一件、安政2(1855)年巡幸の一件。2点。

娼妓契約書(しょうぎけいやくしょ) 館古167

祇園町の娼妓に関するもの、3点。

明治36(1903)年10月1日付契約書、同日付委任状、明治37年8月15日付立金受取証である。

商店引札(しょうてんひきふだ) 館古401

商店が得意先に配る曆などに刷り込んだ宣伝用チラシ4点。

明治・大正・昭和の京都市中のものと滋賀県日野町の商店のものがある。

諸商売仲間掟書(しょしょうばいなかまおきて

がき)

館古229

当館に入る以前の伝来については不明であるが、蒐集家の手によって集められたものと考えられる、12点。

正徳2(1712)年2月10日祈禱講掟書、宝暦10(1760)年9月青芋仲ヶ間申合書、安永3(1774)年11月魚中買仲ヶ間掟書、同年12月京都扇子屋仲ヶ間掟書、享和2(1802)年3月洛中12組寄宿仲間掟書、享和2年同上、文政6(1823)年7月荷主方下シ銀二付一札、天保7(1836)年7月蒲鉾摺身屋仲ヶ間掟書、嘉永5(1852)年12月法華寺御所御貸付并御講掟書、丑1月27日青芋売買手続覚、明治5(1872)年8月貸物会社規則(木版刷)、明治初年現金絹布太物直売買仲ヶ間掟書である。

で、山林・耕地・宅地等、地類別に色分けされ、その一筆ごとの土地に地番と面積が記されている。

積揚帳は全図と対応するもので、地番・持主・面積・丈量図が記され、字別に編集された帳簿である。

信義団真実会諸控(しんぎだんしんじつかいしよひかえ) 館古505

信義団の委員選出・活動状況等の記録。信義団とは西本願寺旧臣が復祿請願を主な目的として明治28年に組織したもの。1点。

城郭図(じょうかくず)

館古062

明治維新後の旧藩の城郭、藩庁の絵図、19点。亀山藩7点、園部藩4点、山家藩2点、綾部藩5点。明治5年8月付の何鹿郡綾部町坪内村・新宮村合絵図1点である。

神社関係図(しんじゃかんけいず) 館古057

北野天満宮、上賀茂神社、下鴨神社の境内の彩色絵図、5点。

明治以降のものと思われるが年代未詳。作成目的、伝来等も不明である。

正平古文書(しょうへいこもんじょ)

中集古S324

正平6(1351)年12月10日「足利義詮御判御教書」、正平10(1355)年正月26日「細川氏清書下」。2点。宮内庁書陵部所蔵

真町文書(しんちょうもんじょ)

館古420 館古423

河原町通四条東入ル真町(京都市下京区)の文書。

甲・乙2群に分かれている。

甲群は2,177点。宝暦8(1758)年～大正期。その内、町文書は2,003点。文政5(1822)～大正14年までの「町日記」61点、天明6(1786)～明治4年「御触書」6点、明治4～14年「布令書」155点、安政6(1859)～慶応3(1867)年宗門人別改帳108点。

また、「家屋敷買請一札」「死後譲状」「人別送り一札」「寺請状」など近世の町文書、出産届・死亡届など近代の各種届書、役場からの通達・廻章類、府会・区部会・郡部会等の会議録など各種多様な町文書がある。

特に、町内の浜地(高瀬川沿の土地)の利用等に関する書類、元治元年の池田屋事件のきっかけとなった枡屋喜右衛門家屋敷改絵図・諸道具改帳など取調に関係する文書等、この町内独自の資料が含まれる。

他に、真町文書を一時保管していた藤田(亀

上洛旅宿関係資料(じょうらくりょしゆくかんけいしりょう) 館古515

文久3(1862)年に第14代将軍徳川家茂が上洛した際の御供の役人等の旅宿先や経費に関わる資料。2点。

白川村地籍図(しらかわむらちせきず) 館古365

愛宕郡白川村の「現今地形一村限山林耕地全図」と「積揚帳」の2点からなる。

全図は、明治19(1886)年3月に作成されたもの

屋)七兵衛家の「金銀出入帳」「書状」等の家文書174点がある。

乙群は10点。宝暦13(1763)年、明和4(1767)年の「町日記」、明治14年の「府会議員選挙人名簿」、明治15年の府会・区部会・郡部会の会議録等がある。

人民告諭大意(じんみんこくゆたいい)館古536

明治元年に京都府が時代の変化に人々が不安を抱かないように、新政府の方針などを示したものの。1点。

「す」から始まる文書

随心院記録(ずいしんいんきろく) 中寄古002

京都市山科区小野随心院に伝来した記録を中心とした文書。149点。

随心院は、真言宗善通寺派の大本山。鎌倉時代、紀伊国井上本荘など多くの寺領を有して繁栄した。応仁の乱で兵火にかかって以後は荒廃していたが、慶長4(1599)年、再興した。昭和6年、善通寺派と称し、大本山となった。

院主は、小野門跡とも呼ばれ、九条家など摂関家出身者が務めたため、近代に至るまで九条家との関係が深い。

文書の内容は、127点が江戸時代から明治初年までの記録である。「小野鑑」「御番所日次記」「御番所日記」「御里坊日記」等の表題を持ち、ほとんどが100紙を越える大冊である。寛文4~7、9年、寛延4~宝暦2年、宝暦3・4、7~14年、明和3、8、9年、安永2、4、6、8、10年、天明4~8年、寛政2、3、10年、享和4年、文化4、6、9~11、15年、文政2~6、8~13年、天保2~4、8~10、12、14年、嘉永3~7年、安政2~7年、万延元、2年、文久元~4年、元治元、2年、慶応2~4年、明治2~4、6年のものがあり、所々の間に断簡がある。ほかは大正年間の他寺事務所との往復書簡などである。

これらの文書は当館に寄託され公開しているが、原本保存のためマイクロフィルム(資料番号

中複製M004)を作成し、リーダープリンタで閲覧に供している。

随心院文書(ずいしんいんもんじょ)中寄古001
随心院文書(京博分)(ずいしんいんもんじょ)
中集古S299

京都市山科区小野随心院に伝来した文書。428点。

随心院は真言宗善通寺派の大本山。鎌倉時代、紀伊国井上本荘など多くの寺領を有して繁栄した。応仁の乱で兵火にかかって以後は荒廃していたが、慶長4(1599)年、再興した。

昭和6年、善通寺派と称し、大本山となった。

院主は、小野門跡とも呼ばれ、九条家など摂関家出身者が務めたため、近代に至るまで九条家との関係が深い。山城国弘誓院・宝幢院・讃岐国善通寺などを管領し、また東寺長者・東大寺東南院院主職をしばしば兼帯したので、随心院文書には固有の本来文書に加え、これら諸寺院に関わる文書が伝えられることとなった。

主なものには、建武4(1337)年の光厳上皇院宣、応永20(1413)年の後小松上皇院宣、享徳3(1454)年の室町幕府禁制や、鎌倉時代前期の六波羅探題北条時頼・北条重時連署書状など、公武の政権からの文書がある。また、九条経教・九条政基・九条尚経・一条経通・一条冬良など摂関家の御教書・書状も多い。

紀伊国井上本荘絵図は、正慶2(1333)年九条家の寄進により随心院領となった同荘の絵図である。河川・井手・溜池・人家・社寺など豊富な記載内容と彩色で、地図としての精度も高く、中世後期荘園村落の様相が読みとれるものとして著名である。

これらの文書は、当館が寄託を受け公開しているが、原本保存のため写真帳16冊(資料番号中複製S005)を作成し、閲覧に供している。

随心院には、このほか天平勝宝8(756)年孝謙天皇勅書案并左京職勅施入所絵図案に始まる古代・中世文書38点があり、重要文化財に指定されている。これらは京都国立博物館に寄託されているが、これも写真帳1冊(資料番号 中集古S299)により公開している。

杉浦家文書(すぎうらけもんじょ) 館古547

呉服商「大黒屋」杉浦家に関する文書。寛政5(1793)～大正11年。7点。

江戸店の火事後の処理・俵約等、商売のための覚2冊。旅日記(伊勢方面、大坂・兵庫・宮津方面)2冊ほか。

杉浦利貞文書(すぎうらとしさだもんじょ)

館古240

もと上京区長杉浦利貞のもとに残った文書、9点。

杉浦利貞は、京都の呉服商杉浦家(大黒屋)に生まれ、最初は歴代当主の三郎兵衛を襲名したが、のち利貞と改名。明治2(1869)年会計官通商司商社頭取並、同3年物産引立用掛となり、同8年9月上京総区長に任ぜられるとともに明治8年11月博覧会権頭取、同9年学区総取締を兼職。明治12年に郡区町村編成法による上京区長に就任。同22年4月に職を退く。

文書9点のうち6点は辞令類で、3点は明治22年の上京区長退職に伴う事務引継関係の書類である。

鈴木家文書・甲(すずきけもんじょ)館古388

愛宕郡下鴨村(現左京区)に居住し、米穀商を営んでいた鈴木家に伝わった文書、2,193点。

鈴木家は御用米会所の取次をしており、個人や村などが会所にあてた借用証文が文政9(1826)年から幕末まで残っている。また、下鴨一社役人中にあてた借用証文が天保13(1842)年から見られるので、これの取次をしていたことも分かる。

このほか、当主八左衛門にあてた「銀子預り証文」「収納米代銀先借証文」などの証文が幕末期に集中して残っている。

明治に入ると、鈴木元徳が愛宕郡第3区々長・同郡第3組戸長・下鴨村々長などを歴任した。そのため地域の行政に関わる文書が同家に伝えられている。

地域的には下鴨村のほか、西紫竹大門・蓮台野・東紫竹大門・千本廻り・西賀茂・松ヶ崎・鞍馬口・小山・上賀茂の10ヶ村に及んでいる。

種類は、布令・予算決算書・諸名簿・職分総計・戸籍総計・諸税の上納書など、多様なものが含まれている。

須藤家文書(すどうけもんじょ) 館古217

天田郡上天津村の須藤家に伝えられた文書、11点。上天津村は明治22(1889)年に合併して下川口村(現福知山市)となる。

安永3(1774)年「上天津村五人組帳」、文化8(1811)年「福知山藩分限取締定書」、天保13(1842)年「上天津村俵約書」、年末詳「諸国制法捌方」、同「上天津村書付控」、慶応4(1868)年「御祓諸神御札下り」、明治3年「福知山藩農民制法」のほか、「福知山町人在人友打喧嘩」など4冊がある。

炭本家文書(すみもとけもんじょ)

館古160 館古161

相楽郡口畑村(現加茂町)の庄屋炭本家に伝えられた文書、266点。当館へは二度に分かれて入ったため甲・乙2群に分けて運用している。

甲群は、天和2(1682)年から大正11(1922)年にいたる220点。銀・金子の借用証文が49通、田・畑・山林・藪などの売買証文が70通、その他の証文18通など証書類が多い。

しかし、「瓶原村会書類綴」(明治31年)、「南山木材合資会社書類綴」(明治31年)、「相楽銀行・京都府農工銀行関係書類」(明治28年)、「瓶原村会関係書類綴」(大正8年)、「笠置水電株式会社営業案内」など、南山城全体の状況を伝えるものも多い。

また、明治39(1906)年から大正11年にいたる「炭本家日記」17冊がある。

乙群は、総数46点で、すべて明治期のもの。内容は、明治16年から同18年にかけての海住山寺再建に関するものがほとんどである。

「せ」から始まる文書

生源寺文書(せいげんじもんじょ) 中館古009

伝教大師生誕の由緒をもつ、比叡山延暦寺の西塔総里坊である生源寺(大津市坂本々町)に伝わった文書、35点。

仮木箱(杉製)に収められ、当館が昭和47(1972)年に一括購入した。この文書群は、内容的に3群に分けられる。

(1)は、生源寺が山上延暦寺の要職に在った時期の山下日吉大社の神事運営に関する文書であり、量的には一番多い。

(2)は、近江国内の山門領において相接する祇園社領との相論関係の文書である。

(3)は、元龜2(1571)年の織田信長による焼打ち以後、天正13(1585)年に山門再興にあたって作成された日吉社神像の造作に関する記録である。

(1)生源寺関係文書は、文安4(1447)年10月7日付室町幕府御教書案、文明10(1478)年11月16日付室町幕府奉行人連署奉書案、明応3(1494)年10月29日付某代官職条々請文案、文正元(1466)年4月17日付室町幕府御教書案、文正元年8月8日付室町幕府奉行人連署奉書案、永正6(1509)年6月18日付室町幕府奉行人連署奉書案、天文24(1555)年3月19日付室町幕府奉行人連署奉書案の中世文書7通と、寛永15(1638)年4月25日付山王権現社務樹下言上状案ならびに欠年の書状類、3月28日付元浄書状、4月11日付秋元富朝書状、4月19日付堯円書状、6月16日付某書状案、6月付権僧正盛憲書状、7月18日付 泰書状、8月3日付つしはつこしち書状、8月19日付清光書状、9月1日付岡本保白書状、10月2日付同書状、10月14日付山門根本中堂閉籠衆執達状、11月11日付西念寺松阿書状、12月29日付某書状のほか、年月日未詳の文書、洛中地子注文、日吉惣官次第、某書状3通の以上26通である。

いずれも「日吉知新記」をはじめとする叡山文庫に収蔵されている生源寺関係の記録を補なうものである。

(2)祇園社領関係文書には、嘉暦3(1328)年1月18日付波々伯部保公用々途請取、嘉暦3年1月21日付波々伯部保公用々途請取、文和元(1352)年11月1日の祇園社々務執行の補任に関する権少僧都某奉書、至徳4(1387)年9月16日付六郎三郎[]餅田年貢請取、応永6(1399)年の大上坊某書状、応永26年4月26日付国 奉書、文安元年6月7日付五郎三郎夫賃職請文の7通である。

(3)山門再興関係の記録は、外題に「行丸宿祢筆天正十八年条々」と記され、内題に「条々天正十八年及十九年訴訟事」と書かれた一巻と、同じく外題に「行丸宿祢筆尊像秘密記并諸案」とある一巻である。

天正10年11月5日勅許によって山門再興の事業が開始されると、翌11年閏1月から山門三院と日吉社神体の彫刻がはじまった。祝部行丸は、とくに日吉山王諸社の再建につとめた日吉社の祠官で「日吉社兵乱記」の著作がある。

天正18年条々一巻は、行丸から二宮御輿御房定宣房にあて、山上山下再興に至るまでの始終を簡条書したものである。また、「尊像秘密并諸案」は、建立材木之事社法之条々、日吉社記録御神跡刻彫口伝条々大仏師法印康正請文案、社僧某書状、天正18年4月吉日社家三箇条誓文案、社家中書状案、行丸書状案、執行代某書状案、七社再造事書案からなっている。

以上2巻とも、叡山文庫所蔵の比叡山再興関係の諸資料及び京都大学図書館蔵晴富宿祢記紙背の山王再興関係文書と関連する文書である。両巻は、縹色染紙表紙が付けられた小卷子装である。

これらの外に、外題を欠くが、内題に美濃国方縣郡則武村氏神事と記された1巻がある。

西堂町文書(せいどうちょうもんじょ)館古085

小川通三条上ルの両側町である西堂(せいどう)町に伝えられた町文書、124点。

文政元(1818)年から明治元(1868)年までの「宗門人別改帳」が1冊も欠けることなく残っている。

安政6(1859)年9月付の「二日判取帳」は、家持衆の分と借屋人の分が別冊になっている。

このほか冊子状のものでは、明和4(1767)年の沽券改のほか天保飢饉に関するものがややまとまりを示す。状物では慶応3(1867)年から翌年11月までの御触留がある。これらは、触れ出された各紙を貼り継いで3点の続紙状で保存されている。そのほかは、大部分が証書類である。

晴明町文書(せいめいちょうもんじょ)館古149

二条通麩屋町西入晴明町に伝えられた町文書、1点。明治2(1869)年2月から同6年8月までに出された人別送り手形の控帳である。

なお、「佐山文庫」の蔵書印が押されている。

清涼寺四拾八日別時納并遣日記(せいりょうじ
48にちべつじのうならびにつかわしにっき)
館古517

織田信長の供養のために行われた慶長
19(1614)年の別時念仏にあたっての諸費用等の
覚。後年の写。1点。

禅定寺文書(ぜんじょうじもんじょ)中寄古003

京都府綴喜郡宇治田原町にある曹洞宗禅定寺
所蔵の古文書。

平安時代中期から江戸時代初期に至る約700
年間の文書で、総数は139点(172通)。

現況は、12巻の卷子及び4冊の冊子に装丁が施
されている。昭和24年、国重要文化財に指定さ
れ、現在、当館が寄託を受けている。

禅定寺は、補陀落山観音妙智院と号す。東大
寺別当にもなった平崇が撰関家の援助を受けて
正暦2(991)年に東大寺の末寺として創建。延久
3(1071)年に寺領とともに宇治平等院に寄進さ
れた。

戦国時代には平等院の支配は弱まる。そのこ
ろから禅定寺下司の支配が強まり、禅定寺は下
司氏の檀那寺的色彩を濃くした。この時期、文
書はいったん下司氏が相伝することになる。

明治になって『平安通誌』の編纂主任であっ
た湯本文彦の斡旋により、文書は下司氏から寺
へ寄進された。このような経緯から禅定寺文書
は禅定寺伝来文書・下司伝来文書から構成され
ることになる。

主な文書としては、開創の由緒を記した寛弘
2(1005)年『平崇上人行業記』、当時の所領につ
いては長保3(1001)年『禅定寺領田畠流記帳』に
詳述されている。さらに禅定寺と近隣の郷荘と
の山堺相論、特に九条家領曾束荘との相論文書
は、嘉元2(1304)年から応永24(1417)年に至る
100年以上にわたる30点もの文書が残されてい
る。

その他、古い時期の大炊寮奥山田御稲田の存
在を示す『山城国田原郷山司陳状』や応永
27(1420)年の小田原山境相論、田原住人による
座の存在を示す正嘉2(1258)年『禅定寺修二月堂
荘殿式目』などがある。

なお、閲覧については原本保護の立場から、
まず写真帳で閲覧していただき、どうしても写
真帳では研究の用をなさない時について、原本
を閲覧に供している。

善通曼陀羅寺両寺領注進状案(ぜんつうまんだ
らじりょうじりょうちゅうしんじょうあん)
中集古S340

文安元(1444)年12月日。1点。宮内庁書陵部所
蔵。

「そ」から始まる文書

園田家文書(そのだけもんじょ) 館古386

園田家に伝わった、すべてが年月日未詳の文
書85点。

「矢論」「旗之事」「狩之書」など武家故実
に関するもの50点、「園田家系図」など系図10
点、「嫁取礼式」など婚礼に関するもの7点、ほ
かに「憲法開国之次第」など18点がある。

園部領分高付(松本家文書)(そのべりょうぶん
たかつき) 集古S080

知野部村(現京丹波町下山)の松本家に伝来し
た園部藩領の村高帳。近世後期(天保頃)。1点。

「た」から始まる文書

大恩寺町諸日記(だいおんじちょうしょにつき)
館古317

上京第28区二条通室町西入大恩寺町の記録、1冊。明治6(1873)年4月から明治8年までの記載があり、主に区長の任選書・届書など町運営に関する事項が記されている。

大恩寺町文書(だいおんじちょうもんじょ)
館古526

大恩寺町(京都市中京区二条室町西入)の記録類。天明5(1785)～明治27年。5点

大覚寺宮空性法親王令旨并女房奉書(だいかくじのみやくうしょうほっしんのうりょうじならびによぼうほうしょ) 中館古010

正保2(1645)年から万治2(1659)年までの文書12点。

春慶塗縦箱に収められ、その箱蓋表貼紙には「大覚寺義性法親王書十二枚」とある。12通は一括して覆紙が懸けられ、それにも貼紙を付し、「後号随庵ト大覚寺義性法親王(後陽成院御子空性之事)」とある。

内容的に4つに分けられる。

(1)は、正保2年6月10日付の空性法親王令旨1点、後光明天皇女房奉書1点、明正上皇女房奉書1点。これらは正保2年4月23日、元服と同時に権大納言に任ぜられた竹千代君(四代将軍家綱)への祝儀として、武家伝奏今出川経季・同飛鳥井雅宣に出された文書である。

(2)は、承応2(1653)年2月8日付の後光明天皇女房奉書1点、明正上皇女房奉書1点、後水尾上皇女房奉書2点、内容は、年頭に将軍家より送られた御祝に対する礼である。宛所は、武家伝奏清閑寺共房・同野宮定逸である。

(3)は、明暦4(1658)年2月18日付の明正上皇女房奉書1点、後水尾上皇女房奉書1点で、将軍家若君(家綱)の成長の祝状。清閑寺・野宮両武家

伝奏にあてられている。

(4)は、万治2年3月31日付の後西天皇女房奉書1点、明正上皇女房奉書1点、後水尾上皇女房奉書1点、内容は将軍家若君(同前)のまへかみ上げに対する祝状。武家伝奏の勤修寺経広と清閑寺共房にあてられている。

大黒町文書(だいくちちょうもんじょ)館古135

室町通五条下ル大黒町に伝えられた町文書、18点。安永2(1773)年から安政2(1855)年までの証書類である。

大乘院文書(だいじょういんもんじょ)館古037

奈良興福寺の大乘院に伝えられた文書、824点。大乘院は一乗院とともに、興福寺の寺務を管掌した門跡寺院である。明治維新の廃仏毀釈の際、両門跡及び塔頭諸坊の住持は、多くが公卿の子弟であったことから爵位が授けられ、大乘院門跡隆芳は還俗して松園尚嘉と称するとともに、男爵位を持つことになる。

大乘院の廃絶により、その多くの文書記録類は松園氏の所有に帰したが、尚嘉が九条尚忠の二男であったことから、京都の川端荒神口上ルの九条家砂川別邸に保管された。その後、この文書記録類は、(1)内閣文庫、(2)徳富蘇峰からお茶の水図書館、(3)猪熊信男氏から広島大学文学部、(4)京都府立図書館から当館の4系列に分割され、現在に至っている。

当館所蔵分は、天正14(1586)年から明治28(1895)年の期間に渡っている。この文書群を形状でみると、約330点が袋綴などの冊子形式のもので、残り全部が書状形式のものである。

書状形式の文書は、元禄4(1691)年を上限として、明治初期まで残っており、寛政年間(1789～1801)を境として急激に増加している。

内容は、御納戸御用銀の借用に関するものが大半を占め、その内、「御納戸御用銀借用証文」が中心である。それに附属する形で、「同借用副証文」「同請取状」「同借用請合一札」「同借用願」などがある。また、御納戸御用銀の借用主体は、郡山家中、奈良・大和の諸郡は言うに及ばず、山城・摂津・河内・和泉・伊勢・遠く備前岡山まで広がりを見せている。

冊子形式の文書は、(1)所領の支配に関するも

の、(2)院主の関東下向に関するもの、(3)春日社造営に関するもの、(4)日記などの記録類に大別できる。

(1)所領支配関係の文書としては、

(イ)自家の支配所領高を記した、戦国期の大乘院家領御知行分帳を上限として、承応2(1653)年の大安寺所領控帳、寛文3(1663)年の添上郡大安寺村高帳、天保5(1834)年の添上郡美濃庄村高帳・興福寺領添上郡内郷村高帳・長岳寺領式上郡内郷村高帳・法貴寺領式下郡内郷村高帳など10冊。

(ロ)「検地帳」「間数等改帳」として、天正14年の大安寺村検地帳、寛永4(1627)年の紀寺領検地帳、延宝2(1674)年の上清水町水帳、元禄4年の美濃庄村検地帳、享保12(1727)年の久保町下町水帳并年貢帳、同年の横車東組間数地子高帳など14冊。

(ハ)享保20年と宝暦10(1760)年の添上郡辰市東九条村名寄帳、2冊。

(ニ)「年貢納帳」として、寛永5年の珎蔵院納所帳、明暦2(1656)年の大蔵院と徳院の年貢納帳、元禄13年の恵心院と功德院の納所帳、5冊。

(ホ)寛政2年の東門院と慈尊院の年貢見立帳、5冊。

(ヘ)貞享3(1686)年から元禄13年までの美濃庄村万晦日算用状、11冊。

(ト)天保6年の添上郡木辻村内七カ町の地子改帳、7冊。

(チ)文化6(1809)年の添上郡内石川村・柏木村・白毫寺村・大安寺村・横田村・発志院村・若槻村・稗田村・高畠村・田中村・登大路村・櫛本村・清水村・八条村の14ヶ村の高附御請書、14冊等がある。

(2)院主の関東下向に関する文書は、

(イ)延宝9年のものが7冊。

(ロ)元禄6年、2冊。

(ハ)元禄15年から16年、11冊。寛保2(1742)年、2冊。延享5(1748)年、2冊。文化2年、3冊。同9年、7冊。弘化3(1846)年、5冊。及び年不明分である。

内容は、院主の関東下向及び帰洛の際の、進物帳・御供帳・御用金請払帳・祈祷寄帳・在府日記・留守日記などであるが、きわだった集中性は示さない。

(3)春日社造営関係の文書は、文化元・同2年度のもの4冊。文政6(1823)年度、18冊。万延元(1860)年度、4冊。及び年度不明分に大別できる。

内容は、鍛冶鉄物・瓦・檜皮などの用材請取やその費用の支出帳簿、諸職人の名前帳、丹塗師や瓦葺師の着到状、仏師職への渡納帳などで

ある。

(4)日記など記録類としては、

(イ)大乘院殿御記録所日記、21冊(寛文3年1月1日～同3月2日、同3月3日～同閏5月3日、寛文4年9月9日～同12月晦日、寛文6年4月17日～同5月3日、寛文8年2月28日～同4月25日、寛文9年4月5日～同10月5日、寛文9年4月13日～同12月4日、寛文10年5月1日～同6月21日、寛文10年8月20日～同10月14日、寛文10年10月14日～同12月8日、寛文12年1月1日～同3月3日、文化2年7月1日～同12月晦日、文化13年1月1日～同6月晦日、文政4年1月1日～同6月晦日、文政4年7月1日～同12月晦日、天保4年7月1日～同12月晦日、天保5年1月1日～同6月晦日、弘化3年1月1日～同6月晦日、文久2(1862)年7月1日～同12月晦日、文久3年7月1日～同12月晦日)。大乘院御里坊日記、3冊(寛保2年7月1日～同12月晦日、寛保3年1月1日～同7月晦日、寛保3年8月1日～同12月8日)。御賄方役所日記、2冊(享和3(1803)年1月1日～同12月晦日、文化3年1月1日～同4年12月晦日)。某日記、3冊(寛政12年7月1日～同12月晦日、享和2年1月1日～同12月晦日、文化元年1月1日～同12月晦日)がある。

その他、寛政3年の鏡明神社絵図・東大寺境内絵図・春日山絵図・三輪神社絵図など11点の絵図資料がある。

大乘院文書・乙(だいじょういんもんじょ)

館古491

奈良春日社の修復に関わる資料。万延元年～文久3年。1点。

大通寺・東寺地子米勘定帳(だいつうじ・とうじじしまいかんじょうちょう)

館古104

天保12(1841)年から明治3(1870)年までの13冊。

大通寺は明治45年に現在地(南区西九条比永城町)に移転するまで六孫王神社の北にあり、東寺とは近接していた。

大徳寺総見院指図(だいたくじそうけんいんさしず)

館古379

大徳寺の塔頭総見院の指図1点。年月日未詳。天明2(1782)年に催された織田信長200回忌の法会の様子が朱筆で追記されている。

第四回内国勸業博覧会資料(だいにんかいのないこくかんぎょうはくらんかいしりょう)館古169

明治28(1895)年4月1日から7月31日まで、左京区岡崎で開催された同博覧会の準備に関する日出新聞の付録・号外など7点。

地鎮祭の式場図、式次第、博覧会規則、地鎮祭の景況などを伝えている。

内裏陵墓関係資料(だいりりょうぼかんけいしりょう)館古061

総点数9点。内裏関係のものとしては、「大内裏之絵図」「京都御所御建物之図」(明治8年)、「御苑実測之図」などがあり、「平安京旧址実測全図」は明治28(1895)年に湯本文彦が作成したもので、『平安通志』附図の原図。

また、「京都御苑内旧新比較図」は、当時の京都府立第二中学校長中山再次郎の作成したものの。

御陵関係のものとしては、天保12(1841)年に権大納言藤原(外山)光成が作成した「山陵順拝図」のほかに諸陵墓修理図、陵墓実測図、陵墓関係書類綴がある。諸陵墓修理図には、後堀河帝陵墓図以下39枚の絵図が含まれる。陵墓実測図には、妙法院内後白河天皇陵以下11枚の絵図がある。

書類綴には、明治5年の園部県陵墓取調文書など7通がとじられている。

高木ヒロ家文書(たかぎひろけもんじょ)館古415

慶応2(1866)年、船井郡曾根村(現京丹波町)に落下した隕石(「曾根隕石」)に関する記録と明治31(1898)年の隕石鑑定書の2点。

なお、この隕石は平成4(1992)年11月10日付で京都府に寄贈され、現在国立科学博物館で展示されている。

高砂町文書・甲(たかさごちょうもんじょ)館古130

諏訪町通五条下ル高砂町に住み扇屋を営んでいたといわれる村山家に伝えられた町文書、149点。

明治初年のものと推定される同町の「軒役絵図」のほかは、文政6(1823)年から文久元(1861)年にかけての家屋敷譲状である。

高辻大宮町文書(たかつじおおみやちょうもんじょ)館古278

大宮通高辻下ルの高辻大宮町に伝えられた文書、2点。

ともに冊子で、明和4(1767)年「沽券状御改帳控」と明治13(1880)年「市街地一筆限地券願帳控」である。

竹野村文書(たかのむらもんじょ)館古284

竹野郡竹野村(現京丹後市)に伝えられた文書、32点。

宝永元(1704)年8月の「海上舟運二付掟」以外は証書類と貸借に関する口上書である。

高宮屋文書(たかみややもんじょ)館古089 館古090

新町通三条下ルの地で呉服商を営んでいた高宮屋に伝えられた文書、80点。

当館へは二度に分かれて入ったために、甲・乙に分けて運用している。

甲は文化・文政期の奉公人関係の証書類で14点。乙はすべて欠年で、書状を中心に66点がある。

多賀村文書(豊田元彦氏蔵)(たがむらもんじょ)集古M134

綴喜郡多賀村(現井手町)の庄屋文書。元文元(1736)年から明治初期までの資料、8巻(278件)。借用証文が大部を占めるが、郷土相続願、神事帯刀願なども含まれる。当館所蔵の「松田家文書」の関連資料である。

宅間家文書(たくまけもんじょ) 館古123

河原町通二条下ルの下丸屋町に居住していた宅間家に伝えられた文書、31点。

文政元(1818)年の宗門人別改帳のほかは、すべて明治期のものである。20点が宅間家の私的な文書で、他の11点が下丸屋町の町文書である。

町文書では、明治6(1873)年の「人家・坪数・官地惣大絵図」、明治10年の「地所間数取調書」「地券控」、明治13年の「市街一筆限地券願帳」や明治20年の「土地台帳」がある。

また、私的な文書では、明治30年から明治44年9月までの宅間太兵衛の日記のほか、同氏に対する戸長・学務委員・区会議員・疏水事務委員などの辞令や認定証がある。

竹下氏旧蔵京都関係文書(たけしたしきゅうぞうきょうとかんけいもんじょ) 館古530

杉浦家日記・書状・心学覺舎関係文書、公家日野家の奉公人請書・親類書、千切屋(石田)五兵衛家・池沢家の借用証書類ほか。杉浦家の日記は「杉浦家歴代日記」(文献課)と関連する。近世後期～明治期。907点。

竹田家文書(たけだけもんじょ) 館古117

紀伊郡竹田村(現伏見区)の庄屋竹田家に伝えられた文書、22冊。

すべてが年貢勘定目録で文政6(1823)年から文久3(1863)年の間のものである。

武部時男氏旧蔵資料(たけべときおしきゅうぞうしりょう) 館古337

すべて年月日未詳の設計図、26点。

うち梨木神社のもの11点、豊国神社のもの3点、江戸後期の画家佐伯岸駒の記念堂のもの2点、宇佐神宮のもの5点、その他は場所不明の部分図である。

太政官牒(貞永元年)(だじょうかんちょう) 中集古S326

貞永元(1232)年10月2日付け定額僧の補任に関するもの。1点。宮内庁書陵部所蔵

太政官牒(応保3年ほか)(だじょうかんちょう) 中集古S337

平安時代の定額僧の補任に関するもの集めたもの。23点。宮内庁書陵部所蔵

龍野家文書(たつのけもんじょ) 館古463

三条富小路下ル福長町で近世中期より呉服商を営んでいた龍野家(伊勢屋五兵衛家)の文書で1,157点。享保年間～昭和20年頃。

商売に関する文書、家の由緒や財産、相続・訴訟に関する文書、冠婚葬祭など生活に関する文書、趣味を通じて交わされた書状類などである。

伊勢屋は、出雲、因幡、阿波、紀州など地方とも取引があり、多角的な経営活動を行っていたことがわかる。

蓼倉郷田地文書(たでくらごうでんちもんじょ) 中館古011

現在、左京区下鴨蓼倉町にあたる高野川畔の田地の手継券文、2点。

1点は蓼倉郷内字「金クソ」田地手継券文であり、天文6(1537)年10月18日付豊屋弥四郎等連署田地百姓職売券、天正8(1580)年3月5日付しゆゑい田地作職売券、天正8年5月3日付谷口本役米売券、天正12年6月29日付下鴨西大(工)九郎左衛門尉本役売券の5通である。

もう1点は、同蓼倉郷内字「ふじやう田」田地手継券文であり、明暦元(1655)年7月3日付源七銀子借状、貞享元(1684)年8月27日付六右衛門屋敷売券、享保15(1730)年12月21日付但馬田地作職譲状、寛保元(1741)年3月16日付弥兵衛田地作職譲状、寛保2年6月27日付長太郎田地作職売券の5通である。

いずれも料紙を補修せず、張り継いでいる。10通とも一括、木箱(縦製)に収められている。

田中国三郎文書(たなかくにさぶろうもんじょ)
館古210

明治末年に京都税務監督局長であった田中国三郎の許に寄せられた書類綴、1冊。

内容は、明治38(1905)年の製茶に関する調査報告、明治39年製塩調査、明治29年から38年の所得税一覧、明治31～34年の醤油・酒査定石高表、大正元(1912)・2年の間接税監督補助復命書類、酒税に関する参考表などが綴られている。

田中家文書(たなかけもんじょ) 館古385

南桑田郡亀岡町安町(現亀岡市)の田中家に伝来した文書、44点。

宝暦5(1755)年7月、安町村の御赦免地の内訳を記した「永川御改帳」をはじめ、明治12(1879)年「宅地其他一筆限調帳」など土地に関するもの10点、明治35年「南桑田郡酒造組合契約書」など酒造に関するもの7点、年未詳「条目并曉諭書」など規則に関するもの3点、ほか「日誌」「雑記簿」「辞令」など8点、書状類16点がある。

田中氏旧蔵渡辺千秋書状(たなかしきゅうぞうわたなべちあきしよじょう) 館古532

第6代京都府知事渡辺千秋が京都府警部長田中貴道に宛てた書状類。日清戦争、第4回内国勸業博覧会に関わる内容等が含まれる。明治28年ほか。5点。

田辺朔郎関係資料(たなべさくろうかんけいし

りょう) 館古468

琵琶湖疏水事業など多数の土木事業を指導した工学者田辺朔郎の肖像写真、妻へのはがき、喜寿祝賀の資料。5点。

田辺(舞鶴)城絵図(たなべじょうえず)
館古S077

元禄5(1692)年2月田辺城の石垣修復のために藩主牧野富成から幕府に提出された絵図の控。1点。舞鶴市所蔵。

田辺藩牧野家分限帳(たなべはんまきのけぶげんちょう) 館古544

田辺藩(舞鶴)藩牧野家の宝暦年間の分限帳。藩士420名の名前、職分、石高が記されている。1点。

丹波関係資料(たんばかんけいしりょう)
館古521

南桑田郡第7組金岐村(亀岡市)の資料ほか桑下漫録の抜粋、丹波国古記など丹波地域に関する資料。8点

丹波丹後両国検地帳(たんばたんごりょうこくけんちちょう) 館古058

丹波・丹後両国の各村検地帳、70冊。内容は4種類に分かれる。慶長7(1602)年の検地帳が17冊、慶長18年の指出帳が8冊、慶安5(1652)年の検地帳が43冊、元禄3(1690)年の検地帳が2冊である。

このうち、慶長18年の指出帳には元和7(1621)年2月22日付の奥書があり、元和7年福知山藩主有馬豊氏が筑後久留米移封後、丹波亀山城主岡部長盛が入封する際の引継にあたって利用されたことが知られる。

なお、慶長度の検地帳と指出帳は田畑が一括されているのに対し、慶安・元禄度のものは田畑が別帳となっている。

慶長7年の検地帳が残っている村は、丹後国中

郡の丹波郷村、矢田村、橋木村、赤坂村、石丸村、杉谷村、管村、小西村、五ヶ村、久次村、内木村、荒山村、長岡村、河辺村、口大野村、善王寺村(以上現京丹後市)である。

慶長18年の指出帳が残っている村々は、丹波国天田郡の生野庄草山村、川北村、豊富村、上野村、池田村、日置村(現福知山市)、志賀庄栗村、綾部庄高津村(以上現綾部市)である。

慶安度の検地帳が残っているのは、丹波国天田郡の細見村、千束村、草山村、寺尾村、芦洲村、下河合村、上河合村、岬村、台頭村、大原村、加用村、大身村、萩原村、生野村、上野村、正後寺村、三俣村、池田村、宮村、岩崎村、大内村、口日之尾村、常願寺村(以上現福知山市)の各村である。

元禄3年のものは、丹波国天田郡大内村(現福知山市)の田方・畑方の2冊である。

丹波国天田郡福知山故城之図(たんばのくにあまたくんふくちやまこじょうのず)集古S078

元福知山藩士である三岳瀬徳全(用瀬徳全)が明治29年に作成した福知山城図。京都府立福知山高等学校所蔵。

「ち」から始まる文書

千吉西村家文書(ちきちにしむらけもんじょ)
館古466 館古473

京都市中京区衣棚町で法衣商営んでいた西村家に伝来した文書。受入時期により2群に分けられる。

第1次分は2,619点。元和9(1623)～昭和17年。第2次分は36点。明和2～明治42年。

同家が営んでいた法衣仕立販売、西陣織販売、問屋、金融業等の商売関係文書約1,000点、譲状・系図・家屋敷買得証文・冠婚葬祭の記録など家関係文書約1,3000点、明和2(1765)江戸年頭拝礼関係の文書・年寄役中の日記ほか衣棚町に関係する文書約300点がある。

藤屋町文書(ちきりやちょうもんじょ)館古094

六角通高倉西入ルの藤屋町に伝わった町文書、5点。明治6(1873)年「地租金上納帳」、同年「府費金上納帳」、明治10年「地租改正地所間数取調帳」、明治15年「市街地租未納年賦延納ノ儀ニ付願」、年末詳「地券願書」である。

地券関係書類(ちけんかんけいしゅるい)
館古497

地券発給に関わる資料。明治5～9年。4点。

地籍図(ちせきず) 館古059

もと京都府庁が保管していたもの12点。

うち天田郡長田村、青蓮院境内分は製作者・製作年共に不明。

他は「全国小字限図」で、明治32(1899)年と翌年に製図者中川浩平により書かれた。相楽郡棚倉村分(綺田・平尾)2冊・同郡木津町分(木津町・木津・市坂・梅谷・鹿背山)5冊、同郡大河原村分(野殿(2冊)、南大河原)の3冊がある。

「つ」から始まる文書

土山家文書(つちやまけもんじょ) 館古478

天明5(1785)年に禁裏御所で開催された御能関係資料、土山家の由緒書他。14点。土山家は近衛府に勤める地下官人。

塚田家文書(つかだけもんじょ) 館古039

桂宮家の近習であった塚田家に伝えられた文書、26点。大部分は日記類である。

第1冊は、表紙に「享保九甲辰年 御日次 十月十九日より」とあって、同日より12月30日までの記事を含んでいる。内容から桂宮家表詰所の日記と判断される。

第2冊目は、表題に「宝暦六丙子歳春夏私記於別殿塚田主水(六代嫡孫)」とある。年頭の記事によって、塚田主水盛英は、当時24歳で桂宮近習として別殿御手法方の職にあったことがわかる。したがって、内容は桂にあった別御殿のものであるが、別御殿の公的な日記ではなく、塚田盛英が個人として書き留めたもの。

第3冊目は、宝暦8(1758)年のもので、表紙に「私記 経房」とあり、年頭の記事により塚田主水源経房は、当時26歳であり別殿主法所の役にいたことがわかり、盛英が経房と改名したものと推定される。

次に、天保3(1832)年から嘉永3(1850)年まで、途中多くの欠落があるが、塚田季慶の34歳から52歳までの日記9冊がある。

その子塚田季篤の22歳から27歳にかけての日記が嘉永4年から安政3(1856)年にかけて4冊。

塚田季泰の日記が、元治2(1865)年、明治2(1869)年、同8年の3冊がある。

これら16冊の日記はまったく私的なものである。

このほか「文久元辛酉 和宮様供奉日記 從十月二十日 塚田家」は、12月15日の江戸出立までの日記である。

さらに「御縁組雑事覚」1冊は、若君の縁組の準備の様子を記したものであるが、時期は明らかでない。「御用向私記」と題する日記で、文政10(1827)年から同13年にかけての3冊を1冊に合綴したものがあがるが、義苗と記されているところから塚田家に仕えた中村義苗の日記と判断される。

坪井家文書(つばいけもんじょ) 館古404

蘭方医坪井為春(大木忠益 文政7(1824)~明治19(1886))に関する文書で、天保14(1843)年「家督祝帳」、弘化4(1847)年「日記」、嘉永7(1854)年「御屋敷勤書」、為春の略歴・年譜等12点、為春の写真3枚がある。

他に、為春の子孫が収集したと思われる日露戦争に関わる絵はがき、京都帝国大学創立25周年記念絵はがき等、明治から大正にかけての絵はがき47枚がある。

「て」から始まる文書

伝奏口上留(てんそうこうじょうとめ)館古060

京都所司代から武家伝奏への口上を書き留めた1冊。嘉永7(1854)年7月から12月にかけての記事がある。この時の武家伝奏は三条実万と東坊城聡長である。

天龍寺文書(てんりゅうじもんじょ)

中集古M008 中集古S301

京都市右京区嵯峨天竜寺芒ノ馬場町にある臨濟宗天竜寺派天竜寺所蔵の古文書。

鎌倉時代から大正期に至る2,424点。この中には本寺天竜寺の文書以外に、塔頭である臨川寺・同寺三会院・宝篋院などのものも含む。

天竜寺は正式には靈龜山天竜資聖禪寺、開山は夢窓疎石。暦応2(1339)年から足利尊氏・直義兄弟が後醍醐天皇の菩提を弔うために建立した。

中世文書は、寺歴を示すものが中心で、室町幕府・朝廷から発給された加賀国大野荘(現金沢市大野町)などの寺領の寄進・安堵・諸役免除に関するものが多数含まれているほか、中世から幕末までの五山官寺の住持の任命書である公帖や天正期(1573~92)の検地帳である指出などが多数残されている。

近世文書は、天竜寺の門前嵯峨一帯の村落・住民の様子を示すものが多く、この中には渡月橋の様子や大堰川の水運や用水に関するものも含まれている。

また、寺内の公用日誌とも呼べる年中記録が寛永7(1630)年から幕末まで残されているほか、天竜寺・相国寺などの建築指図やその周辺の絵図類も多数含まれている。

天竜寺文書は、まず京都府教育委員会が調査を行い、当館が追加調査と写真撮影を行った。

原本は、天竜寺が保存し、当館では複製物で公開している。複製物は、写真帳とマイクロフィルムの二形態があり、マイクロフィルムは主に年中記録など記録類を収録している。

「と」から始まる文書

東宮御元服御装束図(とうぐうごげんぷくごし
ようぞくず) 館古483

文化8(1811)年の東宮元服の儀式に関する資料。3点。

東寺観智院古文書(とうじかんちいんこもんじ
よ) 中集古S330

延慶元(1308)年「弥一御前御髪生始事」、暦
応元(1338)年11月日「八幡宮立柱上棟儀」。写
本。1点。宮内庁書陵部所蔵。

東寺記(東寺執行日記)(とうじき)
中集古S321

伊勢松坂小津桂窓の西荘文庫旧蔵の「東寺執
行日記」。写本。1点。天理図書館所蔵。

東寺旧記抄(とうじきゅうきしょう)
中集古S319

東寺廿一口方評定引付の抄出本。明德5(1394)
年~天文23(1554)年。1点。東洋文庫所蔵。

東寺五重塔図(とうじごじゅうのとうず)
中館古012

現在の東寺五重塔は、寛永21(1644)年に竣工
された塔であるが、この図は、その作事に当っ
た江州 高木作右衛門が作成した1点。「東寺五
重塔五拾分一地割」である。

料紙(縦142.4センチメートル、横42.7センチ
メートル)の中央に塔身全体の木組の墨引差図

を描き、その上部に塔の規模並びに造営に関す
る記録がある。それらは、まず「高サ三拾壹間
三尺三寸三分 此丈 弍拾丈四尺八寸三分」と
あり土台について「土居 五間壹尺五寸 此丈
三丈四尺」とある。

造営の記録は、「新始寛永十八年霜月廿一日
作事始寛永十九年正月廿一日 柱立同年九月廿
一日 せんたん斗寛永弍拾年卯月廿一日」と記
され、造営の過程がわかる。そして、高木作右
衛門が、「右八後代為證拠驗置者也」と記して
いるので、寛永21年三代将軍徳川家光による造
塔竣工後、この図が作成されたのである。

関連資料が当館所蔵の中井家文書にある。

東寺古文書写(とうじこもんじょうつし)
中集古S332

東寺の古文書写。1点。宮内庁書陵部所蔵。

東寺古文書目録(とうじこもんじょもくろく)
中集古S320

前田綱紀による東寺文書調査に際して作成さ
れた目録。1点。東洋文庫所蔵。

東寺草創以来事(とうじそうそういらいのこと)
中集古S329

東寺長者にも就任した大覚寺聖無動院道我の
記録。写本。1点。宮内庁書陵部所蔵。

東寺長者知行法務凡僧別当款状並宣旨符案(と
うじちょうじゃちぎょうほうむぼんそうべつと
うかんじょうならびにせんじふあん)
中集古S323

江戸時代の東寺長者・凡僧別当の款状や宣旨
を集めたもの。22綴。宮内庁書陵部所蔵。

東寺長者拜堂記(とうじちょうじゃはいどうき)

中集古 S 339

永享5(1433)年3月21日。東寺一長者地藏院持円の拝堂記録。1点。宮内庁書陵部所蔵。

東寺長者補任(とうじちょうじゃぶにん)

中集古 S 331

寛永11(1661)から寛文元(1661)年までの記載。報恩院寛濟所持本の写本。1点。宮内庁書陵部所蔵。

東寺堂舎等損亡検注状(とうじどうしゃとうそんもうけんちゅうじょう) 中集古 S 333

建久3(1192)年11月5日・治承3(1179)年6月日付け。2通。宮内庁書陵部蔵。

東寺文書案(とうじもんじょあん)中集古 S 327

東寺造営の料所などに関する中世文書を写したものの。1点。宮内庁書陵部所蔵。

東寺百合文書(とうじひゃくごうもんじょ)

中館古013

東寺(正しくは教王護国寺、真言宗総本山)に伝来した文書、約2万点。

時代的には、奈良時代天平年間(年号一部欠失、729～749)から江戸時代宝永8(1711)年に至る約900年間の文書である。

江戸時代中期、加賀藩五代藩主前田綱紀がこの文書の書写事業を行い、事業終了後、百の桐箱を寄進して文書を納めさせた。蓋のある容器を数える単位を合というが、これが百あるので百合と呼ばれ、これに収納された文書が東寺百合文書と呼称された。

これらの箱には、片仮名イ～セ、平仮名い～せ、漢字「京」「天地之部」「無号之部」「甲号外」「乙号外」「観智院」「丙号外」「追加之部」の名称が付されている。また、「せ函」には、「せ函」本来の文書のほか「古文書」「太

政官牒補任」「武家御教書并達」「南朝文書」「足利將軍家下文」と名付けられた文書群が存在する。

東寺は、鎮護国家を目的として創設され、古代には東寺長者を中心として運営されたが、末期に至り国家財政の疲弊とともに衰退する。

その東寺が再び興隆をみるのは、鎌倉中末期以降になってからである。この頃から後宇多上皇・後醍醐天皇や足利尊氏・義詮といった公武の権門から保護と援助が受けられるようになり、多くの荘園が寄進されるとともに、新たな法会・祈祷が設定され、担当する寺僧も増員された。

寺内には、それまでも担当する法会ごとの僧侶集団があったが、この時期にいたり、その集団が組織として整備される。これらは廿一口供僧方・学衆方などと呼ばれ、組織ごとに内部規律を作り、担当する法会や料所の運営を合議で行った。東寺百合文書は、この寺僧組織が作成・受理・保存・管理した文書である。

内容的には、法会・祈祷など宗教活動に関するもの、人事・内規など寺院組織の運営に関するもの、荘園・散在田畠などの所領の経営に関するもの、の三者に大別できる。

鎌倉中期までの祈祷に関する文書は、法会に参加した僧侶を書き上げた「修僧交名」、法会で使用した「道具目録」が年次を追って残されているが、あとは法会への参加を命じた「請定」が散見されるだけである。

祈祷に関する文書が豊富になるのは、供僧組織が整備された鎌倉時代末期以後である。

公家からの祈祷命令は綸旨・院宣で下され、まれに令旨・官宣旨で下された。武家からの命令は、御判御教書・伝奏奉書・幕府奉行人奉書で下された。

これらの祈祷命令のうち、綸旨・院宣・伝奏奉書は東寺長者にあてられ、「東寺長者御教書」により東寺供僧中に伝えられた。

供僧中には、供僧の評定(会議)の場において、当年の奉行である年預から披露され、具体的な計画が協議決定される。年預は、この評定における報告や討議の様子と衆議による決定事項を「評定引付」という会議録に記録する。さらに、時間・場所・修法名・担当者及びその順番などを記した「廻請」を作成し、担当者の間に回覧する。

祈祷が実施されると、年預はその結果を一覧にした「着到」を作成し、これにもとづき修法名・部数を記した「巻数」を作成して命令者に結果を報告する。命令者は、受け取った旨と謝意を伝える「巻数返事」を東寺に送り、1回の祈

禱は完結する。

こうした国家的祈禱とは別に、鎌倉時代中期以降になると弘法大師に対する信仰が庶民の間に広まり、個人が零細な所有地を東寺に寄進して、自分や一族の死後における祈禱を依頼するようになる。これらの祈禱は「仏事」と呼ばれ、「注文」や「算用状」がある。

なお、「仏事布施支配状」「仏事捧物支配状」は、その仏事の収入を担当者に分配したものである。

鎌倉末に至り供僧組織が確立することは前に触れたが、それは同時に内部規律を整備していくことでもあった。

規律といえる文書としては、「評定式目」「法式条々」「法度」「置文」「定文」「事書」「連署状」などがある。また、「評定引付」は時々事態における衆議の判断を記録しており、後代の僧侶から先規として尊重されている。これらの規律に基づいて、例えば供僧職の譲与や学頭職の補任にあたって、譲状や「所望状」「推挙状」などが作成・提出される。それが認められると、「補任状」や「請文」が作られる。個人や集団でこの規律の遵守を誓約するとき、「起請文」や「連署起請文」が捧げられる。組織が構成員の意見を求めるときは、「意見状」が徴収される。

このほか、次年の年預を多数決で選出するための「奉行合点状」や、組織の書類を次年の年預に引き継いだ「手文箱送進状」は、組織の運営上重要なものであった。また、「西院文庫出納帳」は文庫からの文書の出入りを確認したもので、文所管理の厳密さを窺わせるものである。

所領経営に関する文書は東寺の諸活動を経済的に支えるもので、文書の大半を占めている。

東寺の所領は、十八口供僧方供料荘として丹波国大山庄、若狭国太良庄、大和国平野殿庄、伊予国弓削島庄。廿一口供僧方として伊勢国大国庄、摂津国垂水庄、大和国河原城庄、播磨国矢野庄、尾張国大成庄。最勝光院方として備中国新見庄、尾張国原田庄、遠江国村櫛庄、山城国柳原。学衆方として山城国拜師庄、上桂庄、播磨国矢野庄、八条院院町、常陸国信太庄。宝荘院院方として近江国三村庄嶋郷、丹波国葛野庄。鎮守八幡宮方として山城国久世上下庄。不動堂方として若狭国太良庄地頭職。植松庄方として山城国植松庄地頭職。造営方として山城国東西九条女御田、三河国山中郷などがある。

これらを始め約80の荘園があり、このほか仏事料所として洛中、紀伊・乙訓郡に200を超える散在田畠があった。

これらの所領について、根本公験となる寄進状、譲状、売券や訴訟が起こったときの申状、陳状、それに裁決を与えるものとして、朝廷からは、院宣、綸旨、鎌倉幕府からは関東御教書、六波羅裁許状、室町幕府からは、御判御教書、幕府御教書、管領下知状、これらを受けて管領や守護、守護代の施行状、遵行状が出され、残されている。

また、足利義教將軍在位以後には、室町幕府奉行人奉書も大きな役割を担っている。

所領の現状把握のための土地台帳、実検帳、内検帳があり、1年間の年貢の決算である年貢算用状、それを東寺に送る送進状、東寺が内部でこれを分配する支配状、滞納分を書き上げた未進注文などの計算書類が毎年作成される。

所領の管理には荘官が当たったが、これの任免に関するもので補任状、請文、荘官からの報告書である注進状、書状、逆に現地の百姓が窮状を訴える申状、書状、一揆不参加などを東寺に誓約する百姓連署起請文など、およそひとつの所領の管理・運営には多種多様の出来事があり、それに関する文書が作成・受理され、保存されている。

最後に、「評定引付」については、宗教活動、組織内部のところでも触れたが、各組織がそれぞれの所領を支配・運営するに当たって、現地からの報告や内部処理などに関する記事が多く残っている。

文書の中には「引付」への引用というかたちでしか残っていないものも多くあり、その存在価値は高い。「引付」は現在、廿一口方のものが「ワ・ナ・チ・ク・ケ」の各函と「天地之部」に、学衆方のものが「ワ・ネ・ラ・ム」の各函と「天地之部」に、そのほかのものが「八・ワ・ネ・ナ・ヤ・る・た・ね・け」の各函に残っている。

東寺に伝来した文書は、東寺百合文書のほか、東寺に現存する「東寺文書」、京都大学文学部が所蔵する「教王護国寺文書」があり、三者をあわせて「広義の東寺文書」と呼ばれるときもある。

また、高山寺文書中の東寺文書、大谷雅彦氏所蔵の東寺文書がある。

これら以外に所在する東寺百合文書には、東京大学文学部所蔵東寺文書、東京大学史料編纂所所蔵東寺文書、国立国会図書館青山文庫内東寺関係文書、国立歴史民俗博物館東寺文書、文化庁保管田中教忠蔵書中の東寺文書、関西学院大学図書館所蔵東寺文書、広島大学所蔵猪熊文書中の東寺文書、早稲田大学荻野研究室収集文

書中の東寺文書、大和文華館雙柏文庫中の東寺関係文書、松雲寺文書、富岡宣永氏所蔵文書、岩瀬文庫所蔵文書、雨森善四郎氏所蔵文書、平松文書、安藤文書、裏松公博氏所蔵文書、森田清太郎氏所蔵文書、進士文書、北村美術館所蔵文書、藤井学氏所蔵文書、古代学協会所蔵文書、天理大学所蔵文書、桂文書(影写本)がある。

当進軒文庫旧蔵絵図(とうしんけんぶんこきゅうぞうえず) 館古367

16世紀後半から幕末期にかけての模写による絵図、99点。

合戦(城攻)図29点、陣列(座備)図22点、古城図14点などのほか、国絵図や屋敷絵図などである。

京都に関するものとしては、「淀総絵図」「淀城本丸絵図」「桂離宮絵図」「京都府下之図」「瀬田川之図」などがある。

東大寺古文書(とうだいじこもんじょ) 中集古S 338

東寺に関する古文書を集めたもの。13通。宮内庁書陵部所蔵。

徳屋町文書(とくやちょうもんじょ) 館古153

岩上通仏光寺下ルの両側町である徳屋町に伝えられた町文書、32点。

すべてが、文政3(1820)年から明治期にかけての家屋敷買請状・同譲状・死後譲状などの証書類である。

土砂留御触書并法度趣意書(どしゃどめおふれがきならびにはっとしゅいがき) 館古465

文化12(1815)年正月、京都町奉行所から出された土砂留に関する触と、それを受けて該当地域の土砂留めを管理していた山組の取り決めの誓約書。

これによれば山組の管轄地域の山は原野の状

態で、そこに生育する草を村民が肥料として蒔っていたこと、そのため山肌が荒れ、洪水の原因になっていたことなどがわかる。

富田半兵衛文書(とみたはんべえもんじょ) 館古241

京都府の府会議員であった富田半兵衛に関する文書、25点。

富田半兵衛は、明治9(1876)年上京第4区の区長となり学務委員を兼ねた。明治12年に上京区会議員及び上下京伏見連合区会議員に選出され、ついで明治16年2月の補欠選挙において府会議員に当選、同40年9月の任期満了まで7選され、府会で活躍した。

文書の大部分は、区会議員としての活動を示すもので、府会に関するものとしては、明治16年3月29日の演説文と翌年3月の議員懇親会での挨拶文だけである。いずれも初当選のときのものである。区会議員に関わるものとしては、疏水事業に関係するものが多く、明治16年10月「琵琶湖疏水事業府知事北垣君ト面談始末」以下10点がある。

富田村文書(とみたむらもんじょ) 館古248 館古490 館古509

船井郡富田村(現京丹波町)の文書。

富田村は、明治7年に坪井村と高屋村が合併して成立した村。受入れ時期により3群に分けられる。

第1群は23点。明治5年の坪井村・高屋村の地券願書7冊、明治10年の富田村「耕地一筆限反別・収穫・地価調帳」5冊のほか、鍬下願取調帳、地租金上納検簿、地方税及協議費割賦帳などがある。

第2次分は3点。享和元(1801)年新川地面改帳ほか。

第3次分は13点。この資料は、合併前の坪井村の文書が中心。天明6(1786)～文政5(1822)年の「御触書万願事控帳」、天保14(1843)年「御見分畑帳」、明治5年「地券御渡願書」等の近代書類ほか。

富永家文書(とみながけもんじょ) 館古329

富小路三条上ルの地で呉服染悉皆業を営んでいた富永家に伝来した文書、80点。

もっとも古いものは、明和4(1767)年「家屋敷売渡証文写」であり、大半が幕末から明治前半期にかけてのもの。

「奉公人請状」9点、「金(銀)子借用証文」39点、「家屋敷売渡証文」3点、「死後譲状」1点。

このほか嘉永6(1853)年12月の「館入許状」は、岩倉殿家への出入を許されたもので、印鑑・紋付き提灯、称号木札が下付されている。

友重村文書(ともしげむらもんじょ) 館古331

熊野郡友重村(現京丹後町)に伝わった文書、2点。

1点は「斎藤六蔵御代官所丹後国熊野郡友重村高反別帳」(年月未詳)。他の1点は明治2(1869)年「久美浜県庁触書写」である。

豊田武氏旧蔵京都関係文書(とよだたけししきゅうぞうきょうとかんけいもんじょ) 館古446

京都市三条大橋東詰町に関わる文書5点。

元和8(1622)年と明暦元(1655)年の所司代からの触の写、町中から川奉行宛の文書の写、二条川原茶屋久右衛門屋敷地に関する覚などがある。

富田屋文書(とんだやもんじょ) 館古026

幕末に新榎木通丸太町上ル高島町に居住し、請負大工を営む一方で、同町の町年寄を勤めていた富田屋(とんだや)に伝わった文書、82点。

他方、禁裏定御修理方定職人になっていたため、京都御大工頭の中井家の指揮下で、内裏・公家邸等の作事にも携わった。明治維新以後は水谷姓を名乗る。

文書の大半は、幕末から明治初年にかけての作事関係のもので、文蔵の時に作成されたり、集められたりしたものである。

その中には、安政度の内裏再建時の指図・建地割が12点、嘉永7(1854)年の御所御造営大工箇

所割其外諸式控帳、安政2(1855)年の御造営心覚が各1点ある。宮家等の屋敷指図として、有栖川宮、中川宮、敏宮のものがある。

そのほか主なものとして、江戸和宮様御車道筋図2点。京都守護職役宅上屋敷絵図3点。幕府が設置、代々藤林家が世襲し、禁裏へ菓種を献上した鷹ヶ峰薬園坪付絵図1点。元禄15(1702)年9月18日から4日間、聚楽内野で行われた観世織部勸進能場絵図1点。江戸時代の歴代天皇位牌所の般舟三昧院指図4点。洛中絵図惣土居内門数以下16項目にわたって京都の諸事について書き留めた、文政元(1818)年の「京都旧記録」1点。慶応3(1867)年11月、当家に鶴岡八幡宮・天照皇太神宮の札が降るが、その時の祝品等諸入用書2点などがある。

また、中井役所の黒印の押されたものや、「中井控」と墨書きされたものなど、中井役所との関係が明らかな資料20余点も含まれている。

なお、この文書群については、昭和56(1981)年、当館発行の『資料館紀要』第10号「<史料紹介>総合資料館所蔵の中井家文書について」の附録に、1点宛の目録を掲載した。

「な」から始まる文書

中井家文書(なかいけもんじょ) 館古023

江戸幕府の京都御大工頭の中井家に伝わった内裏・城郭など幕府作事に関する文書、597点926通。

中井家は、関ヶ原合戦の後、徳川家から五畿内及び近江の大工・杣・木挽の三職の支配を許され、近世を通じて、ほぼ500石40人扶持でその職を勤めた旗本格の家柄である。

元禄6(1693)年ごろ、自分の屋敷内に中井役所を設け、以前は中井家の負担で行われていた建物の破損見分・仕様帳等、あるいは絵図の作成まで作事に伴う手続事務を幕府経費で行うようになり、役所は公的側面をもち、文書保管機能は強化されることになる。これにより多量の文書が残ったのである。

この文書群の特徴は、夥しい量の絵図が含まれていることで、とくに宝永期(1704～11)以前の絵図は、ヘラ押計線の台紙に色紙で要件を表記する、いわゆる貼絵図のものが多く、

中井家が五畿内・近江の大工等を支配したことから、文書も山城、摂津、河内、近江等にわたり、その作事対象も、内裏御所、公家屋敷、城郭并武家屋敷、寺院、神社、洛中、公家町、河川、お土居など多岐にわたっている。

内裏御所関係の文書は、86点224通あり、慶長、承応、寛文、延宝、宝永、寛政、安政の各造営度のうち、宝永度のものが一番充実している。

公家屋敷に関する文書は、32点39通で、近衛家に仮内裏がおかれた時の指図や九条家、徳大寺家をはじめ20家分がある。

武家関係文書は、城郭(伏見城、二条城、永原茶屋、水口城)分109点175通、京都所司代分22点30通、火消屋敷分7点8通、武家屋敷分31点33通、それに幕末京都警固(幕末期に京都の治安維持を目的に上洛した武士の屋敷建築のための手続文書等)分8点22通がある。

そのうち、伏見城は元和年間(1615～24)の材木帳が12点。二条城は、創建期の慶長7(1602)年から同10年のもの、元和年間の秀忠上洛時の作事に関するもの、寛永年間(1624～44)の後水尾行幸・家光上洛時のもの、貞享・元禄期(1684～1704)の本丸、二之丸の修理時のもの等の作事に関係したものが、全体で60点127通ある。

永原茶屋分は33点。水口城は3点残っている。寺院関係の文書は、大部分が山城のもので、全体で56カ寺、127点179通。

神社関係としては、18社分、70点90通ある。

そのほか、洛中絵図が4点7通、公家町絵図が13点14通。加茂川をはじめとする河川に関係した文書が26点30通、お土居に関するものが5点残っている。

以上、当館が所蔵する分の中井家文書の概略であるが、ほかに中井家所蔵分があり、宮内庁書陵部、京都大学附属図書館にも分れて所蔵されている。

当館所蔵分については、昭和56年(1981)年、当館発行の『資料館紀要』第10号「<史料紹介>総合資料館蔵の中井家文書について」で、解説を行うとともに1点宛の目録を付した。

中井家文書・乙(なかいけもんじょ) 館古470

京都御大工頭中井家の文書6点。

宝永期に藪地を町家にするに当たっての入用書、享保14(1729)年に象が来日し京都を通過した際の小屋等の造作入用の一件、嘉永5(1852)年の二条城東御番頭小屋・同心小屋の建具等の取替えの一件。

永井尚政書状(ながいなおまさしよじょう)

館古484

永井尚政(淀藩主)の書状。禁裏造営の惣奉行として御所の作事に関わった時期(明暦元年か)に大老であった酒井忠勝(若狭藩主)宛に出したものと思われる。1点。

中大路家文書(なかおおじけもんじょ) 館古113

上賀茂神社の社家中大路家に伝えられた幕末から明治期に至る文書、18点。

「上賀茂社家俊一流系図」「賀茂社家座席即鑑」「賀茂本宮八社古来相承神号秘訣」「競馬口伝抄」などのほか、絵図資料が多く、「文永賀茂祭画詞写」「上賀茂在家絵図」「競馬三遅図」「競馬之図」などがある。

中川家文書(なかがわけもんじょ) 館古405

上京区河原町通今出川下ル大宮町の中川家に伝わった文書、3点。

シベリア出兵時ウラジオストックに赴いた時の大正7(1918)年・8年発行の海外旅券2枚と、在オムスク(ロシア)の某国立出納局発行割引証券1枚である。

中久世村文書(なかくぜむらもんじょ)
館古128 館古129

乙訓郡中久世村(現南区)に伝わった文政4(1821)年から安政6(1859)年までの文書、39点。すべて同村庄屋の新右衛門が領主である久世家に納めた年貢米の「通」である。

中路家文書(なかじけもんじょ) 館古394

葛野郡下桂村(現西京区)で庄屋を務めた中路家に伝来した文書、53点。

もっとも古いものは、享保9(1724)年6月「焼印御赦免付百五十二ヶ村定帳」である。

庄屋が村の出来事を書き留めた「諸事控覚帳」が文政4(1821)・5・7・9・11年、天保10(1839)年の6冊。また、天保年間の「御願書日記帳」が3冊、文久3(1863)年から明治元(1868)年の「解状控」が3冊、文化3(1806)年「酒屋一件之覚」をはじめ、一件書類が5冊。

このほか元文4(1739)年「往還筋出入御裁許申渡御書付控」、明和3(1766)年「屋敷畝高之覚帳」、天保9年「御免割帳」、明治2年、「人別取調帳」などがある。

残りのうち27点は私文書で、「消息千字文」など文例集12点が含まれている。

中島湘烟書幅(なかじましようえんしょふく)
館古418

中島湘烟の七言律詩、軸装、1点。

湘烟は、明治時代の民権運動に活躍した評論家・小説家である中島(岸田)俊子の雅号。

中田家文書(なかたけもんじょ)
館古461 館古471

中京区和久屋町・雁金町で木綿商を営んでいた中田家に伝来した文書。当主であった中田与兵衛(余瓶)氏は俳人としても有名である。

受入時期により2群に分けられる。

第1次分は468点。近代の町運営に関する文書294点、商売組合関係文書53点、その他中田家内の文書121点。資料の形態は文書だけでなく写真や文書箱、下賜杯等の現物資料も含まれる。

商売組合関係文書の中には、「京都木綿商京盛会組合」の明治35年の設立から昭和12年の廃止までの全期間にわたっての「日誌」と「議事要録」がそろっており、更にその後の戦時統制下における染織業界の資料も若干ふくまれる。

町運営に関する文書には学区である日彰小学校運営の資料も多く含まれている。

ほかに、中田与兵衛氏が在学した京都府立第二中(現鳥羽高校)の4年乙組の回覧文集「怒濤」10冊(明治41年)がある。

ほかに明治末から戦前にかけての記念撮影写真がある。

第2次分は79点。日彰校・第2中学校ほかの学校関係資料、中田与兵衛氏が選別した絵葉書アルバム、各種団体委員などの委嘱状・表彰状・名簿、種痘符、旅行記等がある。

中西家文書(なかにしけもんじょ) 館古075

桑田郡大内村(現亀岡市)庄屋の中西家に伝えられた文書、335点。うち、約100点が中西家に関する私的なものであり、残りが庄屋文書である。

庄屋文書の一番古いものは、寛永17(1640)年12月4日付の折紙1紙の名寄帳で、以後明治41(1908)年までの文書が残されている。比較的まとまりがあるのは「年貢入払覚」で享和2(1802)年から明治4年まで続いている。文久2(1862)年9月の亀山藩条目は俵約令であるが、これを受けた同月付の「村俵約之定」もある。

他はまとまりを欠くが、村内の楽音寺薬師堂の本尊開帳に関する明治15年の史料が20点。私文書の大部分は、田地の売買に関する証書類である。

トを招聘することであるが、あわせて日朝修好条規の調印につながる全権黒田清隆のソウル派遣などについても触れている。

永原屋文書(ながはらやもんじょ) 館古410

上京区室町丸太町上ル町で掛屋・両替商を営んでいた永原屋の文書。120点。寛文4(1664)～嘉永3(1850)年。

「銀子預り証文」「銀子取替手形」等、家業の金融に関するものが元禄年間以前を中心として多く残っている。同家と取引があった大名として肥前国小城藩鍋島氏、播磨国三日月藩森氏、下野国烏山藩永井氏、丹波国亀山藩青山氏等が確認できる。他に永原屋久兵衛の居宅があったと思われる芝大宮町(京都市上京区)の文書も含まれる。

中村重三郎家文書(なかむらじゅうざぶろうけもんじょ) 館古237

幕末から明治初年にかけて錦小路通新町西入ルの西錦小路町に住んでいた中村重三郎家に伝えられた文書、6点。うち4点は町文書で、2点が中村家の私的なものである。

町文書は、明治3(1870)年5月「人別送請取帳」、明治15年7月「寄留及雇入簿」、明治15年「借屋請状印鑑」である。私的なものは、弘化2(1845)年から元治元(1864)年にかけての中村家の「奉公人請状判取帳」と「禁裏諸家邸跡」の2冊である。

中山家文書(なかやまけもんじょ) 館古131

室町通竹屋町上ル道場町の中山家に伝わった文書、73点。大半が明治から昭和にかけて中山家の家族宛に出された書状である。

長与専斎書状(ながよせんさいしよじょう) 館古147

医師であり、初代の内務省衛生局長を務めた長与専斎が、明治9(1876)年1月8日付で京都府第二代知事榎村正直に宛てた書状、1点。

内容は、京都療病院にお雇教師マンスフェル

「に」から始まる文書

西京薬種商永代記録帳(にしきょうやくしゅしょうえいだいきろくちょう) 館古502

薬種問屋仲ヶ間の由来・定・等を記した永代記録。宝暦8年～天保11年。1点。

西陣織物工業組合統製調査課書類綴(にしじんおりものこうぎょうくみあいとうせいちょうさかしよるいつづり) 館古245

表紙に「昭和十三年八月起 京都府往復書類綴 統製調査課」とあり、内容はすべて製品の販売許可申請書を綴った1冊。

西田家文書(にしだけもんじょ) 館古424

桑田郡野々村中村(現南丹市)の西田家に伝来した明和8(1771)年から昭和35年までの文書、80点。

村文書としては、享和3(1803)年から天保14(1843)年までの「免相」7通と文政8(1825)年「園部屋舗用意銀年賦調達銀仕法帳」、嘉永5(1852)年の「名寄帳」「免割帳」のほか若干の文書が存在する。

他はすべて西田家に関する私文書である。山林や畑に関する証書類や銀札借用証文が中心であり、他に八坂神社等の祝詞類や「御手本」などの教養書が含まれている。

西田村戸長役場文書(にしだむらこちょうやくばもんじょ) 館古143

船井郡西田村(現南丹市)の土地・河川等に関する明治元(1868)年から同28年までの文書、21点。

土地関係としては「永代売渡山林証」「異状地取調書」等があり、河川関係としては大井川筋のものとして「堤防修繕御願」「捕魚取締御鑑札御下渡願」。

また、村内を横切る三俣川が同村をはじめとする周辺八ヶ村によって共同管理されていたため、この三俣川に関するものとして「三俣山諸費記録」「砥石堀取願」「三俣渋谷間数並字覚帳」などがある。

西田村文書(にしだむらもんじょ)

館古140 館古141 館古142 館古259

船井郡西田村(現南丹市)に関する文書、623点。

当館では、西田村関係の文書が四段階に分けて架蔵することになったため、甲・乙・丙・丁の四群に分けて運用している。甲群が572点、乙群が38点、丙群が11点、丁群が2点である。

甲群のまとまりのあるものから紹介していくと、「西田村御蔵入免諸入用勘定帳」が、延享年間(1744~48)と天明元(1781)年から慶応元(1865)年まで、途中で若干の欠落があるが、56冊。

次に人数並びに牛馬員数改帳の類が延享元年から慶応4年までの間で35冊。

高名寄帳の類が、享保18(1733)年以降、明治5(1872)年までの間に23冊、村小入用帳が天保5(1834)年から元治元(1864)年までの間に12冊。

村明細帳・村鑑は宝暦6(1756)年・天保9年・同15年・慶応4年のものがある。

そのほか、用水・堤の普請に関する仕様帳、目論見帳の類が延享2年以降慶応3年までの間で51冊。

年貢免状は寛文6(1666)年から弘化2(1845)年までの間で28通。

村惣算帳が寛文9年から明治3年までの間で166冊ある。このほか、人足関係の史料も多い。

乙群は、すべて口丹波船井郡村々の貯夫食に関する文書で、明和6(1769)年から明治3年にいたる。

丙群は、すべて明治期のもので、西田村々会議事細則や徴兵并成丁簿のほか、区長日誌(原勝次)などがある。

丁群は、明治7年筆数書上帳と田高反別荒地鋤下取調書である。

西村家文書(にしむらけもんじょ) 館古025

江戸幕府の京都御大工頭中井家配下の棟梁西村家に伝わったと考えられる文書、52点。

文書のまとまりに一貫性が乏しく、大部分が自己の生業である大工の参考にするため、書写したものである。

寛文6(1666)年と推定される3月5日付の「老中申渡覚書写」、「貞和4年建立光明院本堂上棟記録写」、文化7(1810)年の「御所定御修理方并二条御城御破損方相詰候覚」の3点を除いて、すべて絵図であり、そのうち、「高台寺二有之利久好時雨亭之図」は起絵図である。

文書群中、雛形は鳥居并門様式雛形、拝殿等様式雛形、輪蔵雛形等8点。安政度内裏造営に関するもの3点。三条大橋、文化4年写の伏見肥後橋等の橋梁に関するもの5点。

そのほか、清水寺諸堂絵図、有栖川宮御方新御殿惣絵図、(寛政度恭礼門院御所)指図、安永6(1777)年の二条御城内御掃除場絵図、大仏組絵図、元治元(1864)年の京都守護職松平肥後殿御仮館絵図、同家の引直修復前後の絵図、下村正太郎居宅絵図等がある。

なお、当文書群については、昭和56(1981)年、当館発行の『資料館紀要』第10号「<史料紹介>総合資料館所蔵の中井家文書について」の附録に、1点宛の目録を掲載した。

西門前町文書(にしもんぜんちょうもんじょ)

館古036

大宮通松原下ル東側の片側町である西門前町に伝えられた町文書、153点。

同町は、上五条町とか山崎町と呼ばれたこともあり、本文書中の1通には、西門前町と称するようになってからも刊行の京都の地図には山崎町となっているので旧名に復したい旨の訴状がある。

一番まとまりがあるのが「宗門人別改帳」で安永9(1780)年から慶応2(1866)年までの66冊。

このほか、安永9年と明治3(1870)年の「町内借屋宅替控」、文久元(1861)年の「家持借屋総人数帳」、明治4年「職業調」、明治6年「東京行戸籍写」、年末詳「番戸姓名控」などがあり、幕末から明治初年にかけての人口動態を伝

える史料が多い。

また、明和4(1767)年「御改沽券状」、明治3年「御改正二付軒役附改」、同年「町中家屋敷表口裏行軒役下書」、同年「券状」、同6年「地券軒数取調簿」、同10年「地所軒数取調簿書」、同17年「地籍」など家屋敷の所有状況を伝える史料が含まれている。

文政2(1819)年「大福帳」と題されるものの内容は、文政2年から明治3年にいたる町記録である。

状物では、寛政元(1789)年、同10年、天保5(1834)年、同6年、同7年の御触書がまとまりがある。このうち、寛政元年のものは、触れ出された各紙を貼り継いでいるが、他の年次のは切紙のまま、ばらばらで保存されている。

また、同町が本国寺門前であるところから柴荷役を課せられており、これをめぐる相論文書がある。延享元(1744)年と明和4年には同町が境内であると主張する本国寺と境内には含まれないとする町側の対立があり、これをめぐる口上書、請書、裁許状なども多い。

二条二之丸御番所御道具申送帳(にじょうにのまるごばんしょおどうぐもうしおくりちょう)
館古503

二条城二之丸入口にあった番所が管理していた鉄砲などの諸道具の数量・保管場所についての文化8(1811)年の記録。1点。

人形商「面竹」岡本家文書(にんぎょうしょう「めんちく」おかもとけもんじょ) 館古076

明治末から昭和初期にかけての文書、58点。うち「雛人形頭簿」など、家商に関するもの7点。人形商の信仰を集めた栗島神社に関するもの12点。住ノ江観玉の観友会に関するもの24点。

仁和寺年代記(にんなじねんだいき)
中集古S334

「東寺王代記」と同内容の年代記。1点。宮内庁書陵部所蔵。

「ね」から始まる文書

年貢免状(ねんぐめんじょう) 館古485

禁裏御料である宇治郡川田村・東野村(京都市山科区)の享和3(1803)年と安政5(1858)年の年貢免状。2点。

「の」から始まる文書

野田家文書(のだけもんじょ) 館古145

弘化2(1845)年当時、所司代組小頭であった野田佐一郎の家に残された文書、33点。天保2(1831)年から明治2(1869)年にいたる借用証文である。

野村家文書(のむらけもんじょ) 館古201

乙訓郡井ノ内村(現長岡京市)の野村家に伝わった文書、3点。

明治3(1870)年2月の「地押帳」「五ヶ所御地頭小入用帳」と明治11年2月の「耕地其外一筆限反別地価調帳」がある。

「は」から始まる文書

博覧会関係資料(はくらんかいかんけいしりょう)
館古313

蒐集家の手によって集められたと考えられる京都博覧会を中心に各種博覧会に関する資料、36点。

規則類としては、明治6(1873)年「京都博覧会規則」、同8年「京都博覧会出品規則」、同14年「京都博覧会規則」、同15年「博覧会社定款」、同8年「米國博覧会出品二付達」、同7年「名古屋博覧会規則書」、同9年「内國勸業博覧会諸規則」、同6年「ウィーン博覧会規則書」などがある。

次に京都府がまとめたと考えられる明治6年大博覧会の品評録9冊がある。

このほか、京都府で作成されたものに「西陣織物詳説」、「米國博覧会女工列品場江出品製造人姓名録」があり、これと関係するものとして、明治7年「京都府下物産取調書」、同8年「京都西陣織物製品表」、同9年「米國博覧会出品製造人姓名記」、「織工人姓名録」、「米國博覧会場及ヒ建築ノ景況」などがある。

金銭預証や領収書の宛名の中に杉浦三郎兵衛宛のものがあり、同氏の博覧会々員証があることから、杉浦三郎兵衛の旧蔵資料が含まれていることは確実である。また、丹羽圭介の講演原稿があることや規則書に同氏の蔵書印があるところから、丹羽圭介によって集められた可能性が高い。

秦光弘屋地売券(はたみつひろやちばいけん)
中館古014

文永元(1264)年3月3日に、秦光弘が洛中左京西洞院高辻辺にあった、口南北2丈9尺、奥東西10丈の屋地を、銭43貫文で經阿弥陀仏に売った時の売券1点である。料紙は豎紙。軸装。杉箱に収納。

花園村文書(はなぞのむらもんじょ) 館古150

愛宕郡花園村(現左京区)に伝えられた文書、3点。

延宝7(1679)年6月付「山城国愛宕郡花園村検地帳」と、明治初年の「地券台帳」「山城国愛宕郡花園村戸籍」がある。

速水家文書(はやみけもんじょ) 館古492

地下官人(北面)の速水家家領の鴨川村(現在京都市南区)の絵図。領主別に色分けされている文政5(1822)年の鴨川村絵図、享和元(1801)年の鴨川村付近の庵絵図ほか。5点。

原家文書(はらけもんじょ) 館古073

原在中に始まる絵師の家、原家に伝わった文書、115点。

在中は、寛延3(1750)年京都に生まれ、石田幽汀、円山応拳に学び一家を成した。その後、子孫の在明・在照・在泉・在寛が家業として絵師の道を継承した。

文書は、幕末から明治初年にかけてのもので、嘉永7(1854)年「御所向華族方御画御用留記」、文久2(1862)年「將軍様御上洛二付御屏風」、年欠「清涼殿御襖色紙之写」などは家業に関するもの。天保15(1844)年「日次雑記」、同年「雑記」は日記の類、嘉永2年「原家叙位次第」は家格に関するもので、他に2冊ある。

原家は、地下官人(官方内舎人)として有職にも通じており、明治2(1869)年「御下問制服」、年欠「服飾図」2冊、同「烏帽子之図」「車馬之事」「御元服次第」「令義解」「延喜式」などがある。

また、写ではあるがもっとも古い年紀のものに、慶長乙卯(20(1615)年)「禁中并公家諸法度」がある。

原在泉家文書(はらざいせんけもんじょ)
館古263

日本画家(原派4代)原在泉の家に伝わった文書、10点。

幕末から明治期にかけて「在泉初官位到来物

并返祝控」「金銀錢入控帳」「土籍法(写)」「絵画共進会授与褒状二付御答書」「原在泉画題書」などがある。

原田氏旧蔵資料(はらだしきゅうぞうしりょう)
館古539

明治初期の園部藩(県)より船井郡下胡麻村(現南丹市)百姓宛に出された租税取立の資料、木版刷りの祇園町八坂神社周辺遊覧図。3点。

「ひ」から始まる文書

比叡山山上絵図(ひえいざんさんじょうえず)
館古514

京都側から見た比叡山の様子を描いた絵図。近世期の状況と思われる。1巻。

東九条村文書(ひがしくじょうむらもんじょ)
館古378

紀伊郡東九条村(現南区)の庄屋に伝わった文書、4点。

安永3(1774)年の「花山院家領高寄帳」、文政2(1819)年・同8年の「西園寺家領水帳(検地帳)」、同8年の「花山院家領水帳」である。

東本願寺侍衆座帳(ひがしほんがんじさむらいしゅうざちょう)
館古098

真宗大谷派本山東本願寺の侍衆について、江戸期の3代門跡宣如から9代乗如まで代ごとに記したものの、1点。

侍衆(寺侍)は、門跡寺院など寺格の高い寺院が抱えていた武士で、肉食妻帯し境内に居住していた。門跡への取次役など、主として仏事法要以外の世俗の交渉事を担当した。

同寺では下間家・松尾家・粟津家・宇野家などが近世初期以来の有力家臣であった。

東山松本家文書(ひがしやままつもとけもんじょ)
館古535

文化年間、弘化年間の長寿者を記したものの、1点。

東山名所踊関係文書(ひがしやまめいしよおどりかんけいもんじょ)
館古225

明治7(1784)年にはじまった東山名所踊に関する文書、14点。

東山名所踊は明治7年に京都博覧会で多くの人々が入京することに目をつけ、下河原町の芸者踊として始められる。明治7年には2度にわたって日延願が出されるなど好評であった。

文書は、すべて東山名所踊の「開催願書」「日延願書」「建札(看板)願書」であり、明治12年分までが残っている。

人のうわさ(ひとのうわさ) 館古031

文久年間(1861~64)を中心に、幕末の混乱の世情の中で起きた諸事件に関する文書や貼り紙・高札などを写したものの31冊。ところどころに挿絵が描かれている。

類書に「文久紀聞」「文久記事」「文久聞書」などがあるが、これらに比して記事は充実している。

日吉町四ツ谷区文書(ひよしちょうよつやくもんじょ)
館古527

船井郡日吉町四ツ谷区(現南丹市)に関わる書類。明治11~昭和10年。255点。

海老坂玉岩地藏堂修繕諸経費の一件、岡安神社の修繕・運営等に関する書類、松茸刈りの件、区有山の山林に関する一件、区費諸経費等。

平田家文書(ひらたけもんじょ) 館古392

平田家の文書も含むが、大半は東坊城家で作成・伝領された文書、330点。

東坊城家は、五条長経の二男茂長を祖とする菅原氏の家で、詔勅や位記・宣命など天皇発給文書の調進に当たった。

平田家は、朝廷の儀式において文書や道具を準備し、また記録保管する役人の家である。平田家は、東坊城家の下役を勤めたために関係の文書が残ったものと推測される。

正文で古いものは、天正16(1588)年、元和6(1620)年、寛永3(1626)年の行幸に関するものがあるが、中心は江戸時代中期から幕末にかけてのものである。

(1)天皇発給文書の詔書、勅書、綸旨、宣命、口宣が約60点。

加茂祭奉幣発遣には赤い料紙、石清水放生会には黄の料紙、その他には宿紙を用い、口宣には送状を添えて、写としてはできるだけ原本に近づけたものと思われる。

(2)立太子・立后・贈位贈官の宣下の文書とその関連文書が約50点。

これは、詔勅や宣命の草案、前例の写、儀式の次第を記した冊子や横帳を一まとめにし、袋や包紙に入れて表に内容を記したものである。

同じ体裁をとって、「少納言部類」「内記」「請印」などと記されたものも7点ある。

これは、その地位や仕事に関連した記録や前例・次第を整理して写したものである。

これらの中には、裏に「菅聰長」などの署名がみられるものがあり、東坊城家にある間に一定の整理が行われたことを伝えている。

(3)「梅園」「橋本」といった他家の蔵書印のあるものや、夏長など東坊城家の書写奥書があることから考えて、この時代にあっても公家の間で蔵書や記録の貸借・書写が行われていたことが明らかになる。

(4)ほかに年号・謚号の勘文8点、「後愚昧記」の写17点、作法・文言先記抄25点などがある。

(5)絵図では寛文3(1663)年「靈元天皇即位図」、文化14(1817)年「仁孝天皇即位図」、文政元(1818)年「大嘗会之図」などが17点ある。

東坊城家も平田家も、維新後に東上し、蔵書、日記、文書を宮内省その他に寄付した。

現在宮内庁書陵部に東坊城家系譜、同綱忠・任長・聰長日記、出納平田家文書、お茶の水図書館成篁堂文庫に東坊城文書、同聰長文書、東京大学史料編纂所に東坊城文書、同家譜、早稲

田大学図書館に外記平田家文書が残っている。

また、当館にも「東坊城和長記」「(菅家)詔勅宣下実記」「(平田)職忠日記」「(東坊城家宣命稿)」などがある。

平和家資料(ひらわけしりょう) 館古460

丹波綾部藩の重臣であった平和家の当主が着用していた具足類。

平和家文書(ひらわけもんじょ)

館古445 館古459

丹波綾部藩の重臣で、町奉行・寺社奉行・用人・大目付家老などを勤め、維新後は綾部藩権少参事、本宮村(現綾部市)の戸長、学務委員などを勤めた平和家に伝来した文書。受入時期により2群に分けられる。

第1次分は1,628点。永正8(1511)年から昭和3(1928)年にわたり、主要な部分は江戸時代後期で、主なものに藩主書状約50点、大目付日記約15点、領内村々から出された宗門改帳約40点、宗旨寺請帳約20点、五人組御改帳約20点、藩に関する覚え書き約10点等がある。

第2次分は28点。綾部藩主、近隣福知山藩主、柏原藩主、公家烏丸光政などの書画等、28点。

藩主の文化的側面を知ることのできる資料

平和家文書(奥村氏蔵)(ひらわけもんじょ)

集古S 073

丹波綾部藩の重臣であった平和家に伝来した資料。6点。鳥羽藩主九鬼守隆から同家当主への慶長6(1601)年と元和9(1623)年の領地宛行状、同家の系図等。

「ふ」から始まる文書

武鑑(ぶかん)

館古537

江戸時代の大名・幕府役人の名鑑。嘉永4(1851)年。1点。

福岡家文書(ふくおかけもんじょ) 館古091

桑田郡寺村(現亀岡市)の庄屋福岡家に伝わった文書、116点。

ほとんどが元禄11(1698)年から明治11(1878)年までの証書類で、山林・田畑・建物などの売渡及び譲渡が33点、金銀・米の借用が68点、銀子の請取3点、田畑・借家の取替が3点。請状など一札類が4点。

ほかは、年欠の冊子で「社寺集印帳」1点、米切手、地価書付、約定書各1点などである。

福長町文書(ふくながちょうもんじょ) 館古462

三条富小路下ル福長町(京都市中京区)の町の運営に関する公的な文書等523点。慶長8年～昭和10年代。

町へ届け出る定型的な証文を始め、町儀定など町内運営方法を定めた文書、幕府よりの触・達類、粥の施行や捨て子対策等の救恤に関する文書、幕末の治安や将軍上洛への対応の一件書類、天保期の生活取締に関わる法令や届出、下京上良組太郎助二十八組の町組の連絡・運営に関わる資料、町代改義一件に関してその顛末を記録した資料や一件後に古町から福長町等新町に示された資料がある。

また、明治31年から昭和13年頃までの公同組合・衛生組合等の町内運営の書類がまとまって残っている。

袋町文書(ふくろちょうもんじょ) 館古486

幕末から明治初年の大仏耳塚通五条下ル袋町(京都市東山区大黒町通五条下ル1丁目)の町文書。

慶応3(1867)年「町内御天降り方々控」、慶応4年討幕軍出陣への献上物の一件、明治元年「町内惣図面控」ほか。8点。

伏原家文書(ふしはらけもんじょ) 館古247

清原家の庶流である伏原家に伝えられた文書、2点。

一つは、「氷室山要記」と題する1冊で、中は慶長19(1614)年6月付舟橋秀賢の遺言や寛文5(1665)年11月3日付で伏原賢忠に所領を安堵した将軍家綱の朱印状など、伏原家と氷室山に関する文書約30通を書き留めたもの。

他の1冊は、表紙に「万延二辛酉三月改 氷室山御領分田畑名寄帳 伏原殿御勘定所」とあって、同家領紀伊郡嶋村、同竹田村、乙訓郡井内村、相楽郡千童子村、同吐師村の名寄帳である。

藤原家文書(ふじわらけもんじょ)

館古291 館古264

烏丸通五条上ル悪王子町に住した藤原家に伝わった文書、50点。

同家は、山林や家敷地を中心に不動産業を営んでいたようである。

明治26(1893)年ごろ、合資会社藤原商社を設立するが、それ以前の明治6年には大阪へ出店し、呉服商も行っていった。

文書は、甲群・乙群2群に分かれている。

全点明治6年から同44年にかけての家業に関係したもの。その対象が宇治郡醍醐村の山林や市中の家敷地であったことから、これら売買時の手続文書である売渡証文、登記変更や申請、建物図面が残り、大半を占めている。ほかには地券預り証、山林地価金上納証、金子借用証文などが含まれている。

船屋太兵衛家文書(ふなやたへえけもんじょ)

館古546

指物師船屋太兵衛家に伝来した文書。

延宝9(1681)～明治2(1869)。738点。

御所から発注される箆笥・戸棚などの道具類、池に浮かべる御船(みふね)の仕様書等がある。

ほかに四町目(上京区西堀川通出下水下ル)の町文書等がある。

文久三年御触書木札(ぶんきゅうさんねんおふれがきもくさつ) 館古021

將軍徳川家茂の再度の上洛(文久4年1月)を前にした文久3(1863)年12月、浪人の取締を目的に出された触、1点。

江戸より到来した触を命により板札に認め、高札場や役人宅前などに懸けさせたものである。

文治二年古写経(ぶんち2ねんこしゃきょう) 館古525

文治2(1186)年の奥書のある古写経。1点。

「へ」から始まる文書

弁慶石町議定(べんけいしちちょうぎじょう) 館古188

三条通寺町西入ルの両側町である弁慶石町に伝えられた町記録、2冊。

第1冊は、「延享三年 町議定」の表題をもち、(1)年寄役改附、(2)五人組次第、(3)町議定、(4)買得控、(5)奉公人証状、(6)口上書控、(7)諸祝儀控の項目を設け、それぞれ帳数の余白をあげ、編年順に記入すべく用意されたもの。

書き進む内に項目によっては余白が足らなくなり、他項目の余白を利用して記入するなどしたために、一見複雑だが、記入の順序をたどりながら読むと、(1)年寄役改附は享保16(1731)年にはじまり、維新後の制度的変化の後を含めて明治31(1898)年に及ぶ。(2)五人組次第は元文5(1740)年から明治6年までの記事がある。(3)町議定は享保13年から明治2年。(4)家屋敷の売買証文を書き留めた買得控は明治14年までの記事である。(5)奉公人請状は宝暦7(1757)年に町奉公人を雇った時の1通のみ。(6)口上書控も宝暦12年の3通のみ。(7)諸祝儀控は文政9(1826)年から嘉永2(1849)年までの記事がある。

さらに、明治になってから、(1)と(2)の間に、新しく(8)正副区長、(9)戸長、(10)改正町議控の項目が起され、(2)と(3)の間に(2)学校生徒番控が

記入されている。

煩雑ではあるが、帳簿の成立した延享3(1746)年前後から明治14年ごろまで(役改附を除く)の弁慶石町の町記録ということになる。

第2冊は、明治16年に成立した帳簿で、表題には「町議定」とあるが、内容は明治16年から同29年までの土地建物に関する証書類が書き留められている。

さらに末尾に明治23年改正の町規約と同年決算・同24年予算案があり、最後に「町儀出金之部」の項目があり、家督相続や隠居などに当たっての各家からの出銭が定められているが、これは明治28年3月20日町中立会のもとに停止されている。

弁天町文書(べんてんちょうもんじょ) 館古163

土屋町(つちやまち)通出水上ルの弁天町に伝わった文書、11点。

「寛政八年正月 式目帳」の表題を持つ1冊は、最初に寛政8(1796)年以前の同町の掟を記した上で、以降の町の諸事件を書き留めるべく用意されたものであろうが、実際には町内家屋敷の売買に当たって買主が出した出銀記録ばかりである。

記事は明治25(1892)年まで。また、「借家判鑑」2冊がある。

1冊は、安政2(1855)年から慶応2(1866)年まで、他は慶応2年から明治20年までの記事。

このほか、明治3年「上京拾四番組弁天町寺請状」、年末詳「地見願并地所間数盈縮之廉取調帳」、明治5年「上京第十八弁天町戸籍」、同12年同控、同21年町控、同10年「地所間数取調帳」、同17年「弁天町地籍」がある。他に安永4(1775)年3月4日付の同町弁天宮改造記の寄進状1通が含まれている。

「ほ」から始まる文書

法義三大部書翰(ほうぎさんだいぶしょかん) 館古500

日蓮宗の学問書法義三大部の出版の権利に関して壇林(宗内学問所)と京都の版元等との書簡集。寛文9(1669)年。1点。

堀川家御玄關日記(ほりかわけおげんかんにつき) 館古475

公家堀川家の玄關番の文政6(1823)年の日記。1点。

当主の訪問先、お供の名前、時間、帰宅時間、他家からの使者の名前、当家からの使者の名前などが記されている。

堀川流民生所録(ほりかわるみんせいしよろく) 館古504

京都府が設置した5箇所の流民集所の内、堀川に収容した人の明治3年の記録。

流民集所とは、明治維新の混乱期、都市の困窮者救済のために設置した施設。1点。

本郷家文書(ほんごうけもんじょ) 寄古015

大將軍村(京都市北区)の庄屋を務めていた本郷家に伝来した文書。619点。

文龜3(1503)～明治初期。本郷家は、庄屋を務める一方、北野天満宮の社人に補任されており、文書は、大きく北野天満宮関係文書412点、大將軍村関係文書207点に分けられる。

社人とは、北野天満宮の南方、右京一条から二条に及ぶ門前郷西京地域に定められた七保の神供所(一保安楽寺、二保東光寺、三保長宝寺、四保新長谷寺、五保満願寺、六保阿弥陀寺、七保成願寺)で、北野天満宮の神事祭礼等にあって境内と周辺の警固等の奉仕義務を帯びた人々のこと、西京神人とも呼ばれる。

北野天満宮関係文書の主なものには、慶長7(1602)～慶応2(1866)年の「社人連氏」123点、長宝寺・安楽寺の修復に関する文書、長宝寺の安永8(1779)～嘉永2(1859)年の「宗門人別改帳」23点、「北野社人帯刀改帳」5点、北野天満宮神祭に関わる覚書4点等がある。

大將軍村関係の文書としては、延宝5(1677)年の「家数間尺改帳」、天明5(1785)年大將軍村と西ノ京村との争論に関わる文書、「家屋敷並田地譲渡証文」「銀子拝借証文」等の証書類、「年貢請取帳」「御巡見御道順之事」等がある。

本光寺文書(ほんこうじもんじょ) 集古S069

長崎県島原市にある曹洞宗本光寺が所蔵する資料のうち京都に関係する文書。788点。

本光寺は、深溝(ふこうず)松平家が寛文9(1669)年に島原藩に移封されたのに伴って島原城下に開基した寺で、本光寺固有の文書、松平家及び島原藩の文書、家臣・町人関係の文書を所蔵している。そのうち同家6代松平忠房が慶安2(1649)～寛文9年まで務めた丹波福知山藩主時代の文書等、京都関係の文書を中心に写真収集したものである。

その概略は、(1)忠房の福知山入城に関する文書(2)福知山藩の所領支配に関する文書(3)寛文3(1663)年後西天皇の退位に伴う新院と如院御所造営に関する文書(4)寛文6年の宮津藩主京極高国の改易に伴う城受け取りに関する文書(5)福知山城修復に関する文書等である。

なお、京都関係の絵図として、丹波福知山城、丹後宮津城、丹波亀山城、淀城、京屋敷、伏見城攻図等がある。

また、関連する文書として「松平文庫」(集古S070 島原市教育委員会所蔵)及び「寛文七・八・九年福知山藩日記(集古S071 猛島神社所蔵)」がある。

本多辰次郎文書(ほんだたつじろうもんじょ) 館古395 館古396 館古428 館古542

宮内省臨時帝室編集局御用掛をつとめた本多辰次郎が、明治天皇紀等の編纂に携わる中で執筆した原稿並びに収集した資料。受入れ時期により4群に分けられる。合計329点。

明治天皇紀・皇統譜の原稿やメモ、山陵に関する書留・資料、編集・編纂に関わる議事・規程類がある。

また、収集したと思われる資料に明治10(1877)年の西南戦争における征討軍側の電報綴(55通)がある。これは陸軍軍用電信送達紙もしくは普通送達紙が使用されており、一部暗号によるものも含まれる。

これらの他、本多辰次郎の著作である「大日本史講座第十六巻 日本思想史」(昭和4(1929)年雄山閣)や「真宗の研究」(昭和11年雄山閣)など多くの著作の原稿・草稿がある。

本能寺小学校関係資料(ほんのうじしょうがっこうかんけいしりょう) 館古294

全10冊。明治40(1907)年4月から同44年3月までの校務日誌4冊、同43年の宿帳日記1冊、昭和16(1941)年の学校日誌1冊、同9年「通牒令達重要書類綴」、同15年「融和教育二関スル記録」である。

「ま」から始まる文書

前田玄以書状(まえだげんいしよじょう) 中館古015

豊臣秀吉の五奉行の一人として寺社の支配にあっていた前田玄以の書状、1点。

慶長元(1596)年7月、大地震によって倒壊した方広寺大仏にかわって、遷座することとなった信濃国善光寺の阿弥陀如来の入京を大津まで出迎えるよう東寺々僧に命じたもの。

昭和44(1969)年に当館が購入したものであるが、本来は東寺伝来の文書である。折紙。軸装。

柵屋町記録(ますやちょうきろく) 館古119

柵屋町に伝えられた町記録、3冊。柵屋町は釜座通丸太町下ルの両側町で、上古京下中筋組の親町16町組に属した。

3冊のうち2冊は諸事控の表題を持つもので、文政4(1821)年から同6年までと、天保2(1831)年から文久3(1863)年までの記事を含む。ただし、内容は柵屋町内のことを記したのではなく、下中筋組の組町間の問題や上京大仲に関する記事が多い。

残る1冊は、嘉永2(1849)年8月の「町内沽券写」である。

町頭南町文書(まちがしらみなみまちもんじょ) 館古029 館古030

新町通三条上ルの両側町であった町頭南町(現在は町頭北町と一緒に町頭町となっている)に伝えられた文書、897点。

同町は、下京上良組に属し、28軒役を負担していた。これらの文書の中には組町との関係を示すものや町の組織が生み出した文書、あるいは町に住む人々が町に出した文書など、多様な種類のものがある。

町組に関するものとしては、宝暦12(1762)年「上京六組并下京八組願写」、明和3(1766)年「年頭入用上良組役数帳」、天保8(1837)年「八組触

当番役申合之事」、弘化4(1847)年「下古京八組触当番訴訟文書控」などがあるが、中心は文化・文政年間に起きた町代の改義一件に関するもの。

町代改義一件については39点の文書が残されているが、すべて冊子状のもので、1冊の中には多くの文書が写されており、関係する史料は歴大な量になる。

町の内部で作成された文書にも多様なものがある。

まず、京都町奉行所から出された御触を書き留めた「御触状之写」が12冊、途中で若干の欠けがあるが、宝暦14年から天明元(1781)年のものがほぼ揃っている。

このほか触れ出された御触をそのまま貼り継いで残したものが33点、寛政元(1789)年、同2年、同4年、同9年、同11年、享和3(1803)年、文化8(1811)年、同9年、同11年、同12年、同13年～14年、文政8(1825)年、同10年～11年、天保元～3年、嘉永6(1853)～安政4(1857)年、万延元(1860)年、文久元(1861)～慶応元(1865)年、同4年の分がある。

この町の場合、町式目や町記録の類はあまり残っていない。元禄9(1696)年「町儀定覚帳」、享保4(1719)年「町中定」、享保8年「万覚帳」の3点のみである。

このうち元禄9年の覚帳は後欠であり、寛保2(1742)年までの記事がある。

町の金銭出入帳は、入帳の方が享保6年から明和3年まで、払帳の方が享保19年から明和3年にいたる分が欠けるだけで、元禄9年から嘉永6年にいたる10冊が揃っている。

宗門人別改帳は宝暦10年から元治元(1864)年までの間で25冊であるから、途中にかなりの欠落があることになる。

二日判取帳は、享保年間と享和3年から文久3年までのものがまとまっている。

このほか、口上書や各種の改めに関するものなどがある。

町住民のことに関連して町に出された文書の数は歴大である。家屋敷買請状、借屋請状、身許引取一札、人別送り手形、宗旨請状、家屋敷讓状などを通数で数えると1,400を越える。

松岡家文書(勝田家文書含む)(まつおかけもんじょ(しょうだけもんじょふくむ))

寄古013

相楽郡観音寺村(現木津川市加茂)の庄屋を務めていた松岡家が所蔵する文書。9,687点。

松岡氏は、伊賀藤堂藩の無足人(俸禄のない土着郷土 名字帯刀が許され土分の待遇を受ける)であり、藤堂藩城和領(桜井北組・桜井南組・丹波市組・針組・古市組・笠置組・加茂組・当尾組・和爾組・大福組=加茂町史第2巻86ページによる)の加茂組の大庄屋(寛政2～3年、文化11～12年)や加茂郷(里村・北村・大野村・兔並村・高田村・観音寺村・(南村))の目附庄屋、藤堂藩御普請目附方も務めていた。

庄屋・目附庄屋など役方公用に関わる文書として、文政5(1822)～明治5年「役方日記・役用後鑑」、「庄屋役中諸帳面引渡目録」、「諸証文控」、延宝7(1679)年検地帳写、天明8(1788)年大雨後の川の普請一件、享和2(1802)年大風雨洪水に付損箇所普請一件、幕府役人等の加茂駅・笠置駅の通行一件、「地藏院祠堂銀貨付一件」「大井川筋魚漁鳥獵一件」、大庄屋役中の「要用記控」「京都伏見年礼勤覚書」「加茂組大庄屋役引渡一件」等がある。

家文書には、「年貢米通」「年中銀指引之通」「田地売渡証文」「銀子借用証文」「金銀銭受払日記」等が多く残されている。

明治時代後半の松岡氏は、水力発電事業など山城地域の諸事業に関わっており、笠置水電株式会社・和束川水力電気株式会社等の電気事業の関連書類や書簡が多く残されている。

また、相楽郡会・加茂村会の議案書・会議録等がある。

なお、松岡家と関連する勝田家文書も併せて公開している。

松下町文書(まつしたちょうもんじょ) 館古495

下京富小路姉小路上ル松下町(京都市中京区)の明治元年～3年の触書の留。1点。

松島家文書(まつしまけもんじょ) 館古170

旧亀岡藩士松島家に伝えられた文書、11点。

「留守居勤書」は松島幸大夫明房の覚書で寛延2(1749)年の藩主松平信岑の入城から二代目藩主信直の没する安永10(1781)年までの間に自分が命じられた仕事や役職補任の様子を書き留めたものである。

「要領格」は、亀岡旧元締方島村某の持っていたものを譲り受けたもので、内容は、安政3(1856)年の増上以降における扶持の配分方法を記したものの。

「覚書」は、文政12(1829)年7月11日に家中に出された俚約令である御直書とその趣意書及び御用番に対する命令2通を書き写したものの。

他の「覚書」は、松島成章が文政5年4月に家督を継いで以降、天保7(1836)年までの勤め方について記したものの。

「文政年中出火覚書」は、松島成章が京出火之節・地火事之節・御門徒寺火之番等々の心得を記したものの。亀岡藩は京都火消役にあり、松島成章が光忠寺や円通寺の火の番を命じられていた。

「癸丑以来 記録抜書 亀岡藩」の表題を持つ1冊は、明治3(1870)年11月に亀岡藩から太政官に提出した報告の控で、内容は嘉永6(1853)年以降の幕末・維新の政治的混乱の中で、同藩の果たした役割を記したものの。

このほか、廃藩二付達写・松島潜家禄奉還願などがある。

松平紀伊守信道書状(まつだいらきいのかみの ぶみちしょじょう) 館古476

亀岡藩主松平紀伊守信道が寺社奉行兼奏者番の就任時(天明8年4月～寛政3年8月)、本願寺坊官下間兵部卿宛に出した書状2通。

松田家文書・甲(まつだけもんじょ) 館古408

綴喜郡多賀村(現井手町)の庄屋松田家に伝わった江戸前期から明治にかけての文書、71点。

文書は、多賀村の村文書17点と松田家の私文書54点に大別できる。

村文書は、さらに次のように分けることができる。

(1)は、大梵天王社(現高神社)関係の文書7点でいずれも何通かの文書が貼りつがれており、合計91通になる。

内容は、慶長9(1604)年から文久2(1862)年にかけての由来記写、祭礼御幣写、雨請、神事帯刀願、普請、社領支配相論などの文書。中には天保15(1844)年から弘化4(1847)年までの昆沙門寺との間で争われた文書も含まれる。

(2)は、安楽寺関係の文書で1点7通のほか9点。内容は、元和8(1622)年・寛文4(1664)年の住持出生についての論旨や仮名消息のほか祠堂金請取である。私文書も2つに分類できる。

(1)は、主に延宝3(1675)年から正徳5(1715)年にかけての田畑永代預ヶ証書類で1点49通が貼りつがれているが、慶長19年板倉勝重禁制や先祖由緒及郷侍帯刀断書など8通の村文書も混在している。

(2)は、当家が禁裏御所御茶御用をつとめていた関係で茶業に関する史料が多く53点ある。そのほとんどが横帳。まとまっているのは天保15年から明治3(1870)年までの御所に茶を調達した記録「御茶一件」27点がある。

ほかに「御所様献上恐悦覚帳」や「嘉永七年禁裏御所様出火二付御見舞上京覚帳」「安政二年御遷幸前窺之訳」「慶応二年崩御之訳」など特別な事件に際して御所との交流を伝えるものが数点ある。

松本家文書(まつもとけもんじょ) 館古032

船井郡野条村(現南丹市)の松本家に伝わった文書、627点。安永5(1776)年から明治40(1907)年までの文書があるが、村文書はなく、すべて松本家に関するものである。

同家は農業とともに酒造業を営んでいたために、文書は酒造業に関するものと証書類に分けられる。

酒造に関しては、「酒造株発端より追々書附覚帳」と題する1冊があり、安永5年に同家が酒造をはじめてから天保9(1838)年までの酒造に関する証文、口上書、御触などが書き留められている。

次に、酒造米、清酒、道具の改帳が寛政2(1790)年から安政3(1856)年までの44通。

そのほか、酒造に関する諸控帳の類や口上書の控が23通である。

証書類では田地売券127点、畑売券7点、山林・藪売券21点のほか、金、銀、銭、銀札の借用証文98点、米の借用証文36点がある。

さらに、小作関係の文書10数点のほか、家屋の造作関係の文書や冠婚葬祭に際しての、到来物の控帳などの数も多い。

松本繁蔵旧蔵文書(まつもとしげぞうきゅうぞ)

うもんじょ)

館古151

賀茂別雷(上賀茂)神社関係のものとして推定される文書、5点。

明治元(1868)年10月30日付及び同年11月25日付の、社家から出された触書の写2点、年未詳「佐渡介家領等高覚」1点、同「賀茂別雷神社等祭神書上并注記」1点、文化3(1806)年改正「東山・西山京名所案内記」(赤井長兵衛板)1点がある。

松山氏旧蔵資料(まつやましきゅうぞうしりょう)
う) 館古540

幕末(文久3～元治元年頃)の風説書の写。2点。

松屋文書(まつやもんじょ) 館古082 館古083

衣棚通出水下常泉院町で紅屋を営んでいた松屋(明治以降は東村の姓を名乗る)に伝わった文書、551点。

この文書は、伝来経過の異なる2つのグループからなっているので、伝来経過を尊重し、松屋文書(甲)、松屋文書(乙)に分けて運用している。

松屋文書(甲)は、宝永4(1707)年から大正13(1924)年までの377点の文書群で、18世紀中期以降を主としている。

内容的には、自家の経営に関する文書、紅屋仲間に関する文書、芝居番付の3つに大別することができる。

自家経営の文書は、証書類が中心で、金銭証文約70点、家屋敷の請状10点、奉公人請状約30点である。

紅屋仲間の文書は、宝永7年2月の下京紅屋仲間定書等の仲間式目をはじめとして、同仲間の結束に重要な役割を果たした稲荷講に関するもの、近江の葛川灰屋中と値段の改定をめぐる取交わされた文書、宝暦10(1760)年の紅花売買会所開設に関するもの、明和9(1772)年4月の上下紅屋惣仲間による紅屋世話所設置に関するもの等が主たる文書である。

芝居番付は、61点あり、京都四条北側・南側大芝居番付45点、大阪道頓堀角芝居番付15点、三都惣役者番付1点からなる。すべて幕末期に京都の書肆、和泉屋又兵衛が版元になり発行されたものである。

松屋文書(乙)は、甲群が仲間文書を多数含む

のに対して、大半が自家の経営に関するものである。明和6年から大正12年までの174点。

まず証文関係として、金銭証文が約50点、奉公人請状が約20点あり、甲群と合わせてみると、奉公人の出身地が京都・山城・大阪・江戸・近江・越中など十数ヶ国に及んでいることが確認できる。

ほかに、自家の葬儀に関する文書が約20点、金銭請取覚、買物覚、養子及び里子関係の文書・書状等が含まれている。

丸屋清兵衛家文書(まるやせいべえけもんじょ)
館古287

丸屋清兵衛家に伝えられた町文書、4点。ただし、町名はわからない。天保3(1832)、同6、同7、同8年の「町諸出入勘定手控帳」である。

「み」から始まる文書

参河国山中郷名寄帳(みかわのくにやまなかごうみょうよせちょう) 中集古S335

永和3(1377)年9月日。1点。宮内庁書陵部所蔵。

御園家文書(みそのけもんじょ) 館古124

医師として典薬寮に出仕するとともに、寺町裏松原上ルの振分稲荷社の社司であった御園家に伝わった文書、126点。

まず医術に関するものとして、「当然ノ秘方丸散集」「御園家代々秘書」「本草綱目薬名」「無分鍼方鈔」「三拾番神祭文并御園家代々霊神」などがある。

また、系図以下の家譜類が6点。歴代当主の叙位任官に関する口宣案が65通。御園家に対して、秘法を口外しない旨を誓った入門者の起請文7通などがある。

また、当家第4代の御園意齋常倫は、霊元天皇の崩御まで50余年にわたった功によって、その

没後の享保17(1732)年12月に二条から松原にいたる地の御土居を拝領するが、これに関する文書数点がある。

このほか、振分稲荷に関しても、改築願など数通がある。

溝前町文書(みぞまえちょうもんじょ) 館古381

五辻通六軒町西入ルの溝前町に伝えられた文書、24点。

文政2(1819)年から明治6(1873)年までの家屋敷の譲状や死後譲状に代表される証書類である。

南座新築関係書類(みなみざしんちくかんけいしょるい) 館古226

5点。明治18(1885)年「演劇場新築願」、同年「演劇場増殖工事二付副伸書」、年未詳「劇場建築増位置上申書」、同「演劇場新築願」、同「願書断簡」である。

南山城油絞仲間文書(みなみやましろあぶらしぼりなかまもんじょ) 館古368

南山城の油絞仲間に残った文書、46点。安永5(1776)年から文久元(1861)年にかけてのもの。

菜種他国売買に対する詫状や御断一札をはじめ、「人力油絞株譲渡一札」、「水車株借用一札」などの証文や、「水車稼約定書」、「伏見油屋仲間一札」、「種仕事榷留日数定」がある。

峰山図書館所蔵 郷土関係資料(峰山藩関係文書)(みねやまとしよかんしよぞうきょうどかんけいしりょう) 集古M141 集古S075

京丹後市が所蔵する峰山藩関係文書を中心とした資料。

国絵図などの大型絵図、吟味書、掟、御用日誌、村高帳ほか。郷土史家永浜宇平の写の古文書も含まれる。元禄3(1690)～明治期。103点。

宮田家文書(みやたけもんじょ) 館古122

「御維新ノ際ノ献金由緒並二履歴書」「御維新ノ際献納金来理曆書並二高良大老東上祝賀ノ記」の2冊、どちらも宮田高良が明治維新の際、小野、三井、島田に朝廷金出納御用達を受けるよう尽力した旨が記されている。後者には宮田高良の明治15(1882)年から同21年にかけての東京行の記録が付されている。

なお、宮田高良が東征軍の資金調達に奔走したのは、維新政府の参与で東征大総督有栖川宮熾仁親王のもとで参謀を勤めた正親町公薫の夫人が高良の二女であったためである。

妙法院領新日吉町沽券状(みょうほういんりょうしんひよしちょうこけんじょう) 館古288

西木屋町通七条上ル西入ル新日吉町内の丹波屋忠右衛門家の屋敷に関する沽券状写12通を貼り継いで成巻したもの1点。

明和4(1767)年11月から弘化2(1845)年6月までのものである。

妙蓮寺文書(みょうれんじもんじょ) 館古019

歴代の京都所司代が、妙蓮寺境内に公示した制札、11点。

妙蓮寺は、日蓮宗本門法華宗大本山として、京都市上京区寺ノ内通大宮東入ルにある。

同寺の制札は51点あり、うち11点が妙蓮寺から当館へ寄贈され、33点が寄託中である。残りは同寺に保存されている。

これらの制札は、「一、於境内伐採竹木并刈草取石事」「一、寄宿事」「一、諸殺生事」の3ヶ条について、京都所司代がその停止と違反者処罰を公示したもので、駒形の板札に墨書され妙蓮寺境内に、実際に掲げられたものである。

京都所司代は、慶長5(1600)年関ヶ原合戦後、奥平信昌がこの職に補任されて以来、幕末まで58人が就任しているが、妙蓮寺伝来の制札は51枚をかぞえ、第1代奥平美作守信昌、第3代板倉周防守重宗、第6代永井伊賀守尚庸、第8代稲葉丹後守正通、第35代稲葉丹後守正謙、第54代松平伯耆守宗秀の7人の代の制札を除き、歴代の京都所司代51人の制札が揃っている。

51枚の制札のうち妙蓮寺からの寄贈あるいは寄託によって、現在当館に保管されているものは、第4代牧野佐渡守親成(明暦2年6月日付)、第6代永井伊賀守尚庸(寛文12年5月3日付)、第9代土屋相模守政直(貞享3年6月18日付)、第13代松平紀伊守信庸(元禄10年9月21日付)、第15代松平伊賀守忠周(享保3年11月朔日付)、第20代酒井讃岐守忠用(宝暦2年8月25日付)、第27代牧野越中守貞長(天明2年2月22日付)、第42代水野越前守忠邦(文政10年7月付)、第45代松平伊豆守信順(天保5年10月付)、第56代稲葉長門守正邦(文久3年12月付)である。

これ以外の、第7代戸田山城守忠昌(寺内堅樹院蔵)、第10代内藤大和守重頼(同慈詮院蔵)、第11代松平因幡守信興(同本光院蔵)、第12代小笠原佐渡守長重(同円常院蔵)、第16代牧野佐渡守英成(同恵光院蔵)、第29代松平和泉守乗完(同本妙院蔵)、第33代土井大炊頭利厚(同方丈蔵)の7点の制札が妙蓮寺山内にある。

「む」から始まる文書

宗家文書(むねけもんじょ) 館古387

相楽郡湯船村(現和束町)の庄屋宗家に伝えられた幕末から明治にかけての文書、58点。

内容は、「万日記」又は「金銀出入覚帳」と題されるもの10冊のほかは、ややまとまりに欠ける。しかし、「板日記控帳」(明治12年)、「板出帳」(明治14年)、「板請取控帳」(明治30年)のほか材木・炭焼き関係の史料と「青茶貫目万覚帳」(明治24年)、「茶撰上控簿」(明治35年)など地域の産業と関係するものもある。

室町幕府奉行人連署奉書(むろまちばくふぶぎょうにんれんしよほうしよ) 中館古016

明応7(1498)年11月5日付で、京都近郊吉田社領池田庄内において、津田兵庫助の半済分違乱を停止し、荘園の所務を全うするよう出された室町幕府の命令、1点。折紙、軸装、桐箱収納。

室町幕府奉行人連署奉書(むろまちばくふぶぎょうにんれんしよほうしよ) 中館古017

明応9(1500)年11月5日付けで、西八条遍照心院雑掌にあてて、東寺との境内相論中、糾明を遂げるまで所務中止を幕府が命じた文書、1点。折紙、軸装。同様の命令を東寺雑掌に命じた同日付のものが高山寺文書にある。

「も」から始まる文書

最上屋喜八家文書(もがみやきはちけもんじよ) 館古038 館古534

下京富小路姉小路上ル松下町(京都市中京区)で、紅の原料である紅花の荷主問屋をしていた最上屋(明治以降は井山姓を名乗る)に伝わった文書。

受入時期により2群に分けられる。

第1次分は4,857点。当館所蔵分の内には25点の仲間文書が含まれているが、これは縦36センチメートル、横28センチメートル、高さ32.5センチメートルの桐箱に納められている。

この桐箱は、天明4(1784)年に「御本丸奥御用紅花荷主仲ヶ間」名で、仲間が結成された時に新調されたもので、その時々仲間年寄が保管していたが、明治維新に際し、最後の仲間年寄を最上屋が勤めていた関係から同家に仲間文書が残ることになった。

その内容は、天明3年より同9年までの記事がある「紅花御触書御請書留書」、同年の「御呉服師方并紅屋方諸用集」(2冊)、「紅花方秘録」、文化8(1811)年の「撰方意図方紅花惣仲間帳」、同年の「大御奥御用紅花売直段書上帳」、嘉永6(1853)年の「紅花荷主名前帳」(2冊)など天明3年から安政6(1859)年にかけてのものである。

本来の最上屋文書は4,832点あり、天保期(1830~44)から明治期(1868~1912)にかけて、集中して残存している。

内容は、すべて紅花荷主問屋など、自家の経営に関するものであり、大別して自家の帳簿類と、取引相手との間で授受された文書に分ける

ことができる。

帳簿類は、横帳形式のもので、文化14年から明治43年までの「金銀出入帳」(9冊)、嘉永3年から明治3年までの「紅花代金帳」(5冊)、嘉永7年から明治3年までの「仕切下書帳」(6冊)、天保4(1833)年から明治6年までの「金銀両替取渡通」(39冊)、安政2年から明治28年までの「荷物高合勘定帳」(7冊)、天保15(1844)年から嘉永3年までの「御下シ物通帳」(10冊)、嘉永6年から文久4(1864)年までの「手形受払帳」(3冊)、明治2年の「借家宿料帳」(1冊)などがある。

また、取引相手との間で授受されたものは、切紙・折紙の形式のものが多い。

その内容としては、「紅花請取」(約270通)、「紅花仕切状」(約300通)、「為替手形」(約400通)、「振差紙」(約70通)、「預り手形」(約1,200通)、「紅花買目録」「紅花売渡状」「紅花積附状」「紅花送り手板」「紅花駄数帳」「書状」など、種類も数量も豊富である。

第2次分は、第1次分で欠落していた天保年間の為替手形・覚などである。158点。

なお、最上屋喜八家の文書は、山形大学図書館と当館に分かれて所蔵されている。

元大谷延仁寺旧地一件書類写(もとおおたにえんにんじきゅうちいっけんしよるいうつし)
館古253

延仁寺跡地に関する証書類を筆写した写本1冊。

西本願寺が天保15(1844)年に延仁寺の跡地を、泉涌寺から買い取ろうとして交渉を行う過程で作成した証書類等を筆写したもの。

なお、延仁寺は浄土真宗の祖親鸞を茶毘に付したと伝えられる寺院である。

元北小路町中家屋敷伝来帳(もときたこうじちようちゅういえやしきでんらいちよう)館古181

今出川通大宮西入ル元北小路町に伝わった町記録、1冊。

帳簿の成立は明和5(1768)年であるが、内容は、町内39ヶ所の各家屋敷所持者の変遷が延宝9(1681)年から明治前期まで書きつがれている。

元北小路町文書(もときたこうじちようもんじよ)
館古335

今出川通大宮西入ル元北小路町に伝えられた町文書、143点247通。元禄11(1698)年から大正元(1912)年までのものである。

明治15(1882)年までは、「死後譲状」「金(銀)子預り・借用証文」「地所・建物売渡証文」が多い。

死後譲状は53点92通で、家族相互が同日付で出した2通が包紙で一緒になっているものが多い。「預り・借用証文」は14点15通、「地所・建物売渡証文」は12点21通であるが、後期のものは用紙、罫紙を使った借用証・請取証書などになる。

町を出ていく人との間に相論が起こっており、関連資料が4点37通ある。人別送り証書類4点5通、「奉公人請状」2点3通。借金・取引の清算証書類4点4通、献金及び請取証3点4通、町入費の廻状及び集金簿4点4通。町内で用人を雇っており、用人職に関するもの3点7通がある。

元立本寺前町文書(もとりゅうほんじまえちようもんじよ)
館古383

寺町今出川上ル元立本寺前町の公的記録、3冊。天明6(1786)年「永代帳」、寛政10(1798)年「譲状控帳」、文政8(1825)年「勘定銀貸附帳」である。

森島国男家文書(精華町)(もりしまくにおけもんじよ)
集古M136

相楽郡精華町の旗本天野氏の上方代官の文書。

森島家は、乙訓郡下久世村、綴喜郡大住村、相楽郡菱田村・祝園村の在村代官として江戸にいる旗本に代わり、領地支配の実務に当たった。

各村庄屋から提出される見分帳や勘定帳、宗門改帳、江戸との往復書簡など、旗本の上方支配について具体的にわかる資料である。

森島家文書(もりしまけもんじよ) 館古095

相楽郡笠置村(現笠置町)の庄屋である森島家に伝えられた文書、37点。

文政10(1827)年「請取帳」、天保11(1840)年「住吉毎年参詣人并住吉講諸入用帳」、安政5(1858)年「戌方并万覚帳」、文久元(1861)年「酉年年貢免状」のほかは、すべて明治期のものである。

金銭の出入に関する帳簿類13冊のほか、明治16(1883)年「船積駄数帳」、同年「森嶋又七郎船積帳」、同18年「船積口取帳」などがある。

森田家文書(もりたけもんじょ) 館古318

船井郡富田村(現京丹波町)森田善四郎家に伝わった文書、6点。すべて同氏所有の同郡升谷村(現京丹波町)の土地に関するものである。

明治6(1873)年から同19年までの3点、欠年3点。

内容は、「村高新田高両高集帳」1点、一筆限帳4点、農帳1点である。

森村庄屋文書(もりむらしょうやもんじょ) 館古228

船井郡山内庄塩田森村(現京丹波町)の庄屋中尾長右衛門家に伝来したと推定される文書、20点。

永禄12(1569)年「山内庄塩田村何鹿大明神棟札写」をはじめ、延宝8(1680)年から明治4年までの村文書。

文書の内容にはまとまりがなく、延宝8年「身許引請一札」、寛保3(1743)年「年貢免定」、安永3(1774)年「年貢皆済次第書上」、寛政9(1797)年「人別送り手形」が含まれている。

「や」から始まる文書

柳原家文書(やなぎはらけもんじょ) 館古041

伝奏として活躍した柳原家に伝えられた記録類、113点。なかでも、柳原家の当番家司によって書き継がれた幕末から明治初年にかけての役用日記にまとまりがある。

表題は、「御日記」「役用雑記」「議奏御殿常用等雑記」など、時期によって変化するが、いずれも同内容のもの。弘化3(1846)年6月から12月にかけての1冊のあと、嘉永・安政・万延年間(1848~61)の日記を欠くが、文久元(1861)年7月以降、明治7(1874)年7月までの日記40冊である。

この間に欠ける年次は、文久2年1月~6月、文久3年1月~6月、明治4年1月~3月までの3冊だけである。

このほか、柳原家では玄関日記が記されたようであるが、残っているのは、慶応元(1865)年10月~12月、明治2年1月~3月、明治3年4月~6月の3冊のみ。

同時期の廻状留もまとまって残されている。

表題は、「御廻文之留」「御廻文帳」「御回章留」などとなっているが、文久4年1月から明治7年6月までの分16冊があり、途中慶応元年の記事が欠けている。また、江戸中期以降の諸社寺の執奏帳がまとまっており、法隆寺、大念仏寺、長命寺、高源寺、出雲大社、上下賀茂社のもの20冊がある。

そのほかは、必要に応じて作成された記録類で、文久2年日光幣使として参向した時の記録、明治2年に勅使として薩摩に下向した時の記録、同年天皇の東京遷向の記録などがある。

柳原町文書写(やなぎはらちょうもんじょうつし) 館古289

信長・秀吉時代に上京町中に宛てられた朱印状・黒印状など18通を写して卷子に仕立てたものの1点。文化11(1814)年秋に筆写した旨の奥書がある。

山内家文書(やまうちけもんじょ) 館古366

船井郡三之宮村(現京丹波町)に居住した山内家に伝来した文書、1,738点。

同家は寛政年間(1789～1801)頃に綾部藩から大庄屋に任命された。そのため伝来する文書も、庄屋文書(706点)、大庄屋文書(305点)、残りの私文書に大別され、多くは江戸時代中期から明治にかけてのものである。

庄屋文書は、寛永19(1642)年から慶応2(1866)年までの「年貢免状」26点、寛政2(1790)年から明治3(1870)年までの「年貢勘定目録」24点、天明8(1788)年から弘化2(1845)年までの「御物成勘定帳」34点をはじめ、「一作引帳」「小入用割賦帳」など年貢関係の文書が多い。

大庄屋文書は、大半が横帳形式の帳簿類で、「御触書諸願書写帳」8点、「大原御蔵割帳」16点、組の割賦帳29点のほか、人別などの改帳や難渋人に関するものがある。

私文書は、田地や銀子などの証書類20点のほかは、ほとんどが書状と諸覚である。

山崎町文書(やまざきちょうもんじょ)館古194

河原町三条下ル二丁目山崎町に伝えられたと推定される文書、41点。

大部分は町の金銭の覚類であるが、ほかに御触書数通や天保8(1837)年10月將軍宣下の上使として上洛した「酒井左衛門尉様御下宿料配当控」や明治3(1870)年の「券状写書町内中」などがある。

このほか、「御召刻限并御用向出勤控」がある。これは文政3(1820)年11月から翌年2月にかけての左官職春日組の年番記録である。裏には桔梗屋善兵衛記録とあり、文中記事でも春日組年番の同人が記したことが確認できる。しかし、当時同人が車屋町通竹屋町下ル町に居住しており、これが山崎町文書の中に伝わった事情は明らかでない。

山城製茶会社文書(やましるせいちゃがいしゃもんじょ) 館古364

明治11(1878)年4月、伊東熊夫を中心に創設された山城製茶会社の関連史料、6点。

うち2点は、相楽郡第5区(瓶原・和束地方)の区議員と各村戸長が連署して、製茶人が会社への加入に反対していることや、そのために製茶量の調査が実施できない旨を製茶会議々長長村保固に報告した上申書である。

他の2通は、久世郡第2区平川村製茶会議々員の辞任願である。これは、製茶会議々案の調査を終えた長村保固、伊東熊夫、西川義延等が京都府に提出したもの。最後に「製茶生芽書撰総計表」がある。

山城国郡村名(やましるのくにぐんそんめい) 館古479

幕末頃の山城国郡別の村名・領主名を記した横帳。1点

山城八郡石高帳(やましるはちぐんこくだかちよう) 館古510

山城国の村毎(除愛宕郡・葛野郡)の領主・石高を書き上げたもの。明和9(1772)年写。1点。

山城八郡詰所文書(やましるはちぐんつめしよもんじょ) 館古292

山城八郡詰所に伝わった文書、5点。

同詰所は、明治4(1871)年から施行された「改正戸籍法」の区戸長制度下で、京都府と府内8郡の各区との行政上の連絡を密にするため、民費をもって設置された半公的な機関と思われ、各郡から交替で区長が詰め、その任にあたった。

明治6年から同9年にかけて府庁営繕費等を山城8郡の民費にして上納を令した一件綴、明治10年の遠藤五郎三郎の「金銭取渡通」、同年1月愛宕郡第2区の「諸上納簿」書上綴、明治12年4月よりの林小兵衛「詰所覚簿」、同13年の川原地租税上納書からなる。

大和屋文書(やまとやもんじょ) 館古139

最初は安居院若宮堅町で、天明の大火で類焼

してからは、寛政5(1793)年に大徳寺境内の二俣川の西端に移って絞油業を営んでいた大和屋に伝わった文書、173点。

移転当時は「米賃踏井雑穀類はたき渡世」をしていたようであるが、天明大火の打撃による一時的なもので、他の時期は一貫して絞油業を営んでおり、山城国絞油仲間の惣代をも勤めていた。

油絞に関しては、10点の油絞作業場や住居の絵図に加えて、数多くの普請願書が残されており、水車や作業場の様子を具体的に伝えている。

また、延享2(1745)年4月16日付の「新規絞油御尋二付口上書」は、安永2(1773)年の山城国絞油屋仲間の成立以前の様子を伝えている。

他の大部分は証書類と書状である。

山中家文書(やまなかけもんじょ) 館古238

三ノ宮町通正面下ル上三ノ宮町で醤油製造業を営んでいた山中家に伝来した文書、84点。

文書は文久4(1864)年から昭和15(1940)年にわたるが、明治後半期に集中して残っている。

すべて家業に関する帳簿類で、金銀出入帳(文久4年～明治35年)14冊、醤油原料仕込帳(明治21年～同38年)10冊、醤油・麴の製造帳(明治26年～同38年)8冊、醤油売上帳(明治23年～同38年)8冊、初荷帳(明治29年～大正3年)8冊、査定糶支払明細帳(明治28年～同38年)5冊、諸控帳(明治26年～同39年)12冊等がある。

山名義幸遵行状(やまなよしゆきじゅんぎょうじょう) 中館古018

康暦元(1379)年11月19日、室町幕府侍所頭人山名義幸が、所司代高山伊予守某に宛てた1点。

東寺の北に八条大路をへだててあった遍照心院と東寺の寺辺散在所領相論を裁許した康暦元年11月18日付の幕府御教書に基づき、同院雑掌に塩小路朱雀田地一町と款冬田を打渡すことを命じたもの。遍照心院を寺基とした大通寺に伝来した文書。

関連文書は、醍醐寺文書、東寺百合文書にもある。軸装。

「ゆ」から始まる文書

湯浅家文書(ゆあさけもんじょ)

館古125

船井郡木住村(現南丹市)に住した湯浅家に伝わった文書、29点。

正徳2(1712)年～寛政2(1790)年の年号のものが含まれているが、ほとんどは欠年の書状である。

湯浅家は、近世、園部藩別格上席の待遇を受けた郷土の家であるが、船井史談会編『湯浅五郎兵衛家由緒書』によれば、紀伊国湯浅庄住人の後裔で、明徳3(1392)年細川頼之が丹波国を領したのに際し現地へ移住したと伝えられる。

以来細川家との関係が続き、忠興・忠利の代まで従軍・参戦することがあり、その頃から年々合力金を受けるようになる。この細川家との関係を示す文書である。

細川藩の重職の筆頭である長岡佐渡をはじめ、小笠原、有吉、長など重臣の書状で、内容は湯浅家からの進物、挨拶状への返事、藩主伏見通行の際の目見得の連絡などである。

行待家文書(ゆきまちけもんじょ)

館古397

竹野郡溝谷村(現京丹後市)の行待家に伝来した文書、1,972点。

同家は幕末に庄屋、明治以後は用掛、戸長、村長を歴任した。また、産業や教育などの面でも村の中核的役割を果たした。

このため明治17(1884)年「府会議案」をはじめとして、府会、郡部会、郡会、区会、村会、農会など、明治初期から中期にかけての地方組織の規則、議案、決議が80点余りある。

また、明和7(1770)年「御年貢米納通」や「惣作算用覚帳」「金銭出入帳」など、幕末から明治にかけての帳簿類が約200点。

さらに安政5(1858)年「御廻状留」は幕府からの達を書き留めたものであるが、明治になってから通達された明治7年「御用状留」など廻状類が約20点。

このほか書式、便覧の類や、戸籍、田積、河川、道路、衛生などに関するもの、各種統計といえるものなどが約280点。

明治29年「蚕糸業組合原案」など、養蚕に関する

るものが約100点、明治26年「学校関係書類」など教育に関するものが60点近くある。

このほか、明治22年8月22日「条約改正中止建白案」、明治22年「地価修正請願書」、同年「地価修正請願但馬同盟規約」などがある。

この地方における自由民権運動の高まりを示す明治16年「城島義塾規定」も含まれている。

「よ」から始まる文書

妖怪絵巻(ようかいえまき) 館古523

妖怪の婚礼から出産を滑稽絵に表したもの。明治3年写。1巻。

淀藩士山岡家文書(よどはんしやまおかけもんじょ) 館古079

淀藩主稲葉家に仕えた山岡親常、同親晴が執務上の必要から作成した手控、5冊。

第1冊は、御領中の寺院・神社を書き上げたもので、寺院については、宗旨、本末関係、寺地の種類、境内間数を、神社については屋根葺の種類、社地の種類、神主などを記している。そのほか御領中苗字附医師、拝借鉄炮覚、御領中村名などがある。

第2冊から第5冊までは山岡親晴が作成したものである。

第2冊の表紙には「平留」とあって、内容は天保14(1843)年8月13日に山岡助六親明が勝手方目附に補されたときに執務上の必要から作成したものと見られる。心得、大納戸、賄方、運上、検授、御音信の項目がある。

第3冊の表題も「平留」となっており、第2冊の心得の項目をさらに整理し、詳細にしたものである。

第4冊は表題に「秘留」とあり、多項目にわたって備忘を記している。

第5冊は「秘書」の表題があり、文政6(1823)年2月に代々藩主の事蹟以下、家中役附をまとめたものである。

淀町奉行日記(竹林家文書)(よどまちぶぎょうにつき) 集古S076

淀藩の町奉行の文化8(1811)9月～同9年3月の勤方日記。1点。

万屋文書(よろずやもんじょ) 館古118

三条通河原町東入ル中嶋町で旅籠屋をしていた万屋に伝来した、明和4(1767)年から大正14(1925)年にかけての文書、257点。

旅籠屋に関する文書は少なく明治期の「旅籠代借用証」、「盗難届」など数種類あるのみである。

他は「家屋敷売渡証文」、「金子借用証文」、「借家請状」、「宗門人別改状下書」等の家宅・金銭・人身等の証書類がまとまって残っている。

その他、幕末の世情を伝えるものとして文久2(1862)年4月「長州様上京二付家中名付」、「攘夷之義二付口達書案」、「異国船停泊二付御触書写」が含まれている。

「ろ」から始まる文書

「ら」から始まる文書

頼家文書(らいけもんじょ)

館古157

頼山陽の子、又二郎支峰とその子龍三宛の書状など89点。

坂上半七の書状が多く、ほかに、山本寛太郎、熊谷林雨(鳩居堂)、内藤伝右衛門などの書状がある。年紀を欠くものが多いが、明治前期のものである。

「り」から始まる文書

暦応五年伝法灌頂記(りやくおうごねんでんぼうかんじょうき)

中館古019

全9紙からなる1巻。

後補表紙の外題に、「暦応五年溥灌頂大阿闍梨房玄法印 東寺宝菩提院」と墨書されている。内題には「暦応五年卯月七日伝法灌頂事」とある。

奥書を欠くが、暦応5年(1342)年4月7日清浄光院法印房玄が、甲斐律師賢照、覚増、浄月房昭遍、輔阿闍梨良泉の受者4人に対して伝法灌頂職位の授与を行った時の記録であるが、堂内修儀の次第作法等ではなく、大小護摩壇支度事、道場莊嚴事、鎮守読経事粥漬事等に関する都合2貫372文の支具料出費の記録と職衆、読経衆の請定、後夜、初夜の作法及び人数にいたるまでの記録が道場図2図を加えて書写されている。

また、本紙の汚損が甚しいため、近世に反故の文書をもって裏打ちしている。それらの文書は松本坊重仁書状(欠年4月5日付)と、某書状6通である。

縦27.7センチメートル、横367.2センチメートル、杉箱に格納。

鹿王院文書(ろくおういんもんじょ)

中集古M009 中集古S305

京都市右京区嵯峨鹿王院に伝来した文書、5400点。うち中世文書900点、近世・近代文書4500点。

鹿王院は、南北朝時代、足利義満が春屋妙葩を開山として建立した禅宗寺院で、近世には天龍寺の末寺に組み込まれ、近代には単立寺院として現代に至る。

春屋妙葩は天龍寺の開山夢窓疎石の高弟で、義満や北朝歴代天皇の信頼を受け、天龍寺・南禅寺・相国寺の住持職を務めた。康暦元(1379)年には後円融天皇から智覚普明の国師号を賜り、義満により初代の天下僧録(五山十刹の禅宗寺院を統括し、その人事を司る僧職)に任命された。

鹿王院文書のうち中世文書には、朝廷からの綸旨・院宣・官宣旨などがあり、また足利將軍家の御判御教書・室町幕府の御教書・奉行人奉書などが遺されていて、同院の開創期の由緒や所領に関する模様を伝えている。なかでも春屋妙葩に国師号勅賜を伝える後円融天皇綸旨や、天下僧録職・天龍寺以下の住持職補任を伝える義満の御内書・御判御教書は、その代表的な物である。

また、永禄11(1568)年9月の織田信長禁制は、京都に中世の終わりを告げるものとして有名である。

最古の文書は寛治4(1090)年の藤原某破立文案であるが、案文である。正文では延応元(1239)年の譲状・売券が最も早い。

近世以下の文書は、目録上大別して「開山・鹿王院・天龍寺・末寺子院」以下となっているが、歴代の遠忌を始めとした寺内行事の文書、本山・末寺との往復文書、寺領に関する文書を中心として残っている。

また、春屋妙葩を始め、歴代住持の「偈」や「法語」が遺されているのも、禅刹文書らしさを見せている。

鹿王院文書は、京都府が調査・写真撮影を行い、目録を作成した。原本は鹿王院が保存し、当館で複製物による公開を行うこととなった。

中世文書は写真帳10冊(資料番号 中集古S305)を作成し、近世・近代文書はマイクロフィルム(資料番号 中集古M009)により、閲覧に供している。

なお、中世文書については、『鹿王院文書の研究』に全点の翻刻が掲載されている。

「わ」から始まる文書

六条家文書(ろくじょうけもんじょ)中館古020

羽林家である六条家に伝わった文書、22点。

六条家は、鎌倉時代中頃に久我通光の五男通有にはじまる家柄。通有の息六条有房とその息六条有忠が、学問をもって後宇多上皇に仕えた。

この文書群は、内容的に3群に分かれる。

(1)鎌倉時代に六条有房書写にかかる雲州消息1巻と宿曜御運録1巻。

雲州消息は、明衡往来上巻の本篇として、すでに『教科書大系 往来編』に紹介されている。

宿曜御運録は、文永6(1269)年6月26日亥時に生まれた男性の運勢の予言を記した1巻である。2巻とも同一布表紙が付されている。

(2)有房奉の後宇多上皇院宣と、有忠の奉書。

後宇多上皇院宣は、東大寺別当僧正に宛てられ、寺領河上庄下作名主等が、度々の勅裁に違背し、年貢を年々抑留することを停止した文書であるが、年紀を欠き、7月7日付である。

有忠奉書は、元亨3(1323)年9月20日付で、右大将殿(西園寺実衡)に宛てられ、筑前国感多庄が、延慶年中(1308~11)以来持明院殿の勅裁に預かると主張した冬定卿の使者を追出し、元のごとく、西園寺家の所務を安堵した文書である。この2通は、ともに軸装である。

(3)明治維新期の書状18通であり、いずれも六条有容に宛てられている。

有容は、公武合体論を唱えて、禁門の変ののち明治天皇の議奏となり、時局の收拾にあたった人物であるところから、公家武家に交友知己が多く、これらの書状は、二条斎敬書状(2通)、久邇宮朝彦親王書状(2通)、仁和寺宮源仁法親王書状、近衛忠房書状、徳大寺実則書状、三条実美書状、中山忠能書状(2通)、冷泉為村書状、岩倉具視書状(6通)、東久世通祥書状である。

これらは、修理等の後世の手は加えられていない。

このほかに、元治元(1864)年6月28日の年紀をもつ孝明天皇宸翰写、孝明天皇勅書写がある。

若杉家文書(わかすぎけもんじょ) 館古027

陰陽頭土御門家の家司であった若杉家に伝えられた文書、2,285点。これらの文書は3つに分類することができる。

(1)本来は若杉家の文書ではなく、主家土御門家に伝わった文書。

土御門家は、天皇の東上に伴って東京に移住するが、そのとき古文書類を東京に運び、のち宮内庁に寄贈した。これらの古文書は、現在も宮内庁書陵部に架蔵されている。しかし、転居に際して京都に残された古文書も多かったようである。

京都には明治初年に陰陽事務所が開設され、若杉氏がその中心となったこともあり、土御門家の文書が引き継がれたものと判断される。

(2)本来の若杉家文書。

これも2種類に分かれ、陰陽道に関するものと、若杉家に関する私的な文書である。

(3)若杉家のあった上京塔之段松之木町の江戸時代から明治期にかけての町文書。

土御門家関係文書は759点。そのうち、72点が中世文書である。

もっとも古いのは、延慶3(1310)年8月8日付の土御門淳房所領文書等譲状である。

家領である若狭国名田庄上村に関するものが、暦応元(1338)年10月7日付の若狭国守護大高重成遵行状をはじめとして21点。備前国河北庄、但馬国東河庄、摂津国溝杭内土井跡并富松下司職など、その他の家領に関するもの6点。洛中巷所や諸口雑務料に関するもの8点。

また、文正元(1466)年7月2日付で外典祈祷を命じた足利義政御判御教書案や、永正7(1510)年9月5日付で天変地妖祈祷を命じた室町幕府奉公人連署奉書などがある。このほか、文明10(1478)年足利義政泰山府君祭、大永5(1525)年足利義晴防火災祭、天文22(1553)年武田信豊泰山府君祭、慶長16(1611)年後水尾天皇天曹地府祭、慶長20年伊達政宗泰山府君祭など都状・祭文23点がある。

次に中世の写本類13点がある。

「小反閉作法」は建長2(1250)年6月23日付土御門維弘書写の奥書がある。

「反閉作法并作法」も鎌倉末期の書写で、紙背文書10通すべて鎌倉末期のものであり、元応

2(1320)年の具注暦も含まれている。

「反閉部類記」も同時代の写で、紙背文書16通も鎌倉末期のもの。万里小路宣房の奉じた後宇多上皇院宣の断簡も含まれている。属星祭文(前欠)の料紙の紙背文書は、すべて応永7(1400)年9月5日付の沙門道義(足利義満)の天曹地府祭捧物献納状である。

また、「中臣稜義解」には安部真勝が撰し、永享4(1432)年12月29日に渡会権神主氏尚が書写し、正三位安部泰清が相伝する旨の奥書がある。

「石氏薄讚」には正和3(1314)年8月19日土御門泰世写の奥書があり、「石氏星官簿讚」(前後欠)、「雑卦法 卷一」(前欠)も同時期のものと判断される。

次に日記類67冊がある。

日記は、土御門家当主の日記、御役所日記、家司日記、天文暦方日記、地方日記、守辰方日記、諸国支配方日記に分けられる。

当主の日記としては、有宣卿記断簡、泰重卿記断簡、泰邦卿記、泰栄卿記、晴親卿記がある。

有宣卿記断簡は、明応8(1499)年の8月6日から18日条、9月8日から13日条、10月3日から24日条のみである。

泰重卿記断簡は、慶安元(1648)年1月条の記事が残されている。

泰邦卿記は2冊ある。1冊は断簡で享保18(1733)年3月7日から10月26日条のみ、他の1冊は表題に「大史策 安子繁」とあり、安永5(1776)年1月1日から7月19日条までの記事がある。

泰栄卿記2冊はともに後欠である。1冊は天明2(1782)年5月1日から6月3日条まで、他は天明7年1月1日から2月1日条までである。

晴親卿記は、8冊が残されており、第1冊は享和元(1801)年1月から12月、第2冊(後欠)は文化2(1805)年1月1日から23日条まで、第3冊は文化3年1月から12月、第4冊(後欠)は文化4年4月1日から15日条まで、第5冊は文化7年8月1日から9月12日条まで、第6冊は文化9年1月1日から11日条まで、第7冊(後欠)は文化9年8月1日から9日条まで、第8冊(後欠)は文化11年1月1日から22日条までの記事がある。

これらは、いずれも宮内庁書陵部の架蔵する土御門日記の欠を補うものである。

御役所日記は6冊で、寛延2(1749)年、宝暦2(1752)年、同3年、同5年、同6年、同7年のものである。

家司日記は、9冊のうち3冊は断簡である。第1冊(前欠)は元禄13年(1700)年6月26日から翌年1月7日条まで、第2冊(前欠)は寛延4年閏6月1日か

ら12月まで、第3冊は宝暦2年1月から9月8日条まで、第4冊は宝暦3年、第5冊は宝暦4年、第6冊は宝暦5年のものであり、断簡3冊はいずれも数紙で、寛政7(1795)年、弘化2(1845)年、安政4(1857)年のものと推定される。

天文暦方日記は、暦方日記、天文方日記、天文暦方日記に分かれる。

暦方日記は、宝暦2年、同7年、同8年の3冊、天文方日記は、宝暦4年と天保14(1843)年の2冊、天文暦方日記は、寛政7年、天保11年、安政2年から同7年の3冊が残っている。

地方日記は、3冊とほかに年末詳の断簡3冊がある。

第1冊は文政7(1824)年10月から天保3年12月、第2冊は弘化3年10月から嘉永7(1854)年12月まで、第3冊は安政2年1月から明治元(1868)年まで。

守辰日記は、宝暦元年11月25日から翌年9月26日条までと、宝暦2年9月227から12月晦日までの2冊。

諸国支配方日記は、13冊あるが、7冊は年末詳の断簡である。残りの6冊は弘化2年、安政2年、同4年、同6年、文久2(1862)年、慶応2(1866)年のものである。

ついで、往来留が12冊ある。暦方往来留が3冊で、宝暦8年、宝暦13年～明和4(1767)年、明和8年～同9年まで。

天文暦方の往来留が寛政8年、同9年、同10年の3冊である。

残りが伝奏方往来留で、文化3年から天保15年にいたる4冊と、安政2年から同4年、安政6年から文久2年にいたる6冊である。

次に、「大嘗会参向記要」(天明7年)、「関東御進献書抜」(文化10年)、「巳日之御稜御進献御使者日記」(年末詳)など別記、部類記が22点。申文、叙位例、叙日、家例、傍例、勘例などの叙位、任官に関する文書が128通ある。

このほか、元和9(1623)年7月付徳川家光天曹地府祭都状案をはじめとする江戸時代の都状、都状案が68点、天明6年9月4日付徳川家治泰山府君祭々文案をはじめとする祭文、祭文案が85点、稜・祝詞類が12点、勘文・占文93点などがある。

ことに、後鳥羽上皇の命により、承元4(1210)年8月に安部孝重が作成した「勘申 吉事等日事」は、この文書群の中でもっとも古い年紀をもつものである。

また、「朝観行幸日事勘申」(後欠)・「勘申 神事伝事日并例等」(後欠)、「作事日等勘申」(断簡)なども同時代のものと考えられる。祭文部類記6点のうち冊子状の1点は126丁に及び、天文年間を中心にした陰陽道の各祭々文を数多く納め

ている。

一方、天曹地府祭次第、三万六千神祭次第など陰陽道の祭における行事の順序を記した「次第」が72点。同じ祭の「次第」が少なく、陰陽道の祭の種類が多いことがわかる。このほか、祭、儀、什器などの絵図類も多い。書状類は131点。

以上が土御門家関係の文書である。

本来の若杉家文書で、まとまったものとして、若杉家日記があげられる。これは、寛保2(1742)年、宝暦13年の2冊と安永7年から文政12(1830)年にいたる53冊がある。「臨時祈祷並勘文之記」は陰陽道の諸活動と云うべきものであるが、文化7年から明治5年まで49冊あって、途中で欠ける年次はない。

「新法曆諸統篇」(第3帙)をはじめとする曆書及び曆が38点。「陰陽五要寄書」「梅花心易抄」「靈筮經卜法」など陰陽道関係の版本類が49点。若杉家の手になる勘文、占文、卜の類が40点。このほか、陰陽道の活躍を伝える証文、請文、絵図などが39点ある。

天明4年10月12日付土御門家下知状をはじめとする摂津・河内の歴代組関係の文書は16点であるが、「河内・摂津歴代組関係文書綴」のように編綴された文書もあり、その数は多い。

陰陽道本庁、陰陽道本所、陰陽事務所などが創立され、明治初年には陰陽道の復活のための努力が続けられるが、その陰陽事務所に関するものが51点ある。塔之段松ノ木町の町文書は251点があり、宝暦13年7月付の町式目のほかは、大部分が死後譲状、家屋敷譲状、借家請状などの請文類である。

若槻幾斎関係資料(わかつききさいかんけいしりょう)

館古480

文化～文政年間の日記・和歌集など。21点。

若槻幾斎は江戸後期の儒者。角倉の属吏だったが辞して聖護院村に住み、頼春水・高山彦九郎らと交流を持った人物。